大正六年九月十四日第三種郵便物認可・昭和十四年十二月一日印刷納本・昭和十四年十二月五日發行・毎月一回一日發行・

第廿二輯第十二號 昭和十四年十二月一日

建築と社會

12

日本建築協會

會　　告

會費等拂込みに就て御願ひ

會　　費　**年額12圓也**（會員にして京阪神附近在住者）
地方會費　**年額 8 圓也**（會員にして京阪神附近以外の地方在住者）
特別賛助費　**年額12圓也**
普通賛助費　**年額 6 圓也**

外に

建築と社會購讀料　**年 額 6 圓36錢**（送料共）
建築學研究購讀料　**年 額 2 圓24錢**（同 上）

以上の內會費、賛助費は原則としては（定款）1ヶ年分前納して頂く定めになつてはゐますが又數回に分納されても（細則）差支へないことになつてゐます。

振替口座大阪 39975 番御利用の上 なるべく會員各位よりの御拂込みあらんことを希望いたします。

協會から請求申上げる場合は大體下記の要領で集金郵便に委託又は其他の方法により御伺ひいたします。

會費、特別賛助費は1回3圓以上にて凡そ**2月、5月、8月、11月**の4回以內。

地方會費、普通賛助費並に誌代は大體1回3圓又は4圓以上にて**5月11月**の2回以內。

以上集金案內の代法として集金月の雜誌は赤文字刷の袋を使用いたしておりますから（平素は藍色の袋を使用す）集金は其月末頃御伺ひすることに御含みの上萬事宜敷御手配願ひます。

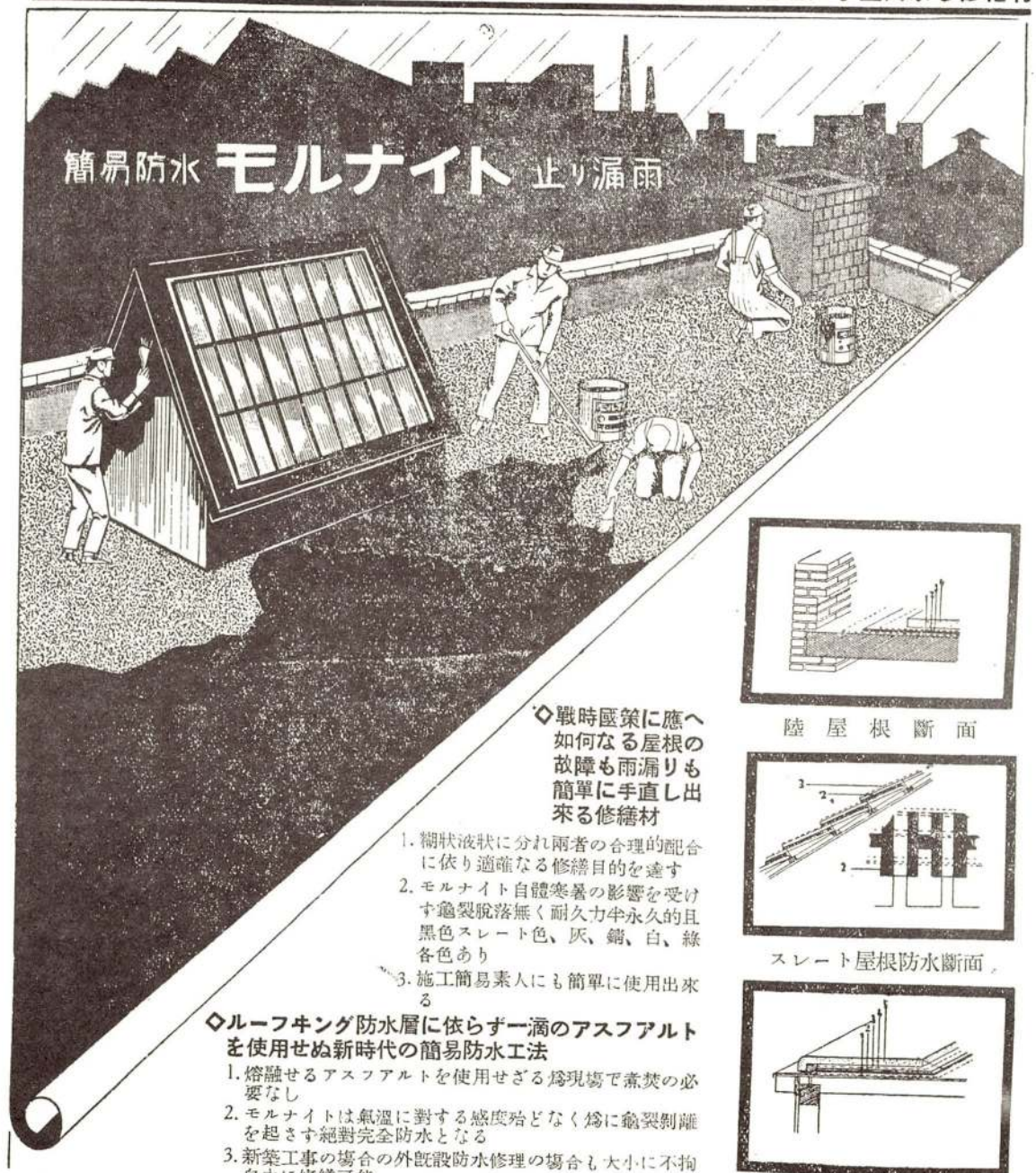
此場合既に半期又は1年其他前納されてゐる向でも取扱の都合上一樣に赤刷袋を使用いたしますから（集金は差向けません）此點御諒承置き願ひます。

昭和14年11月

社團法人　**日本建築協會主計**

一枚のルーフイング・一滴の瀝青をも使はず而も絶對防水の新工法
トタン・スレート・陸屋根如何なる屋根の雨漏りも完全且つ迅速に手直出來る修繕材

簡易防水 モルナイト 止り漏雨



陸屋根斷面

スレート屋根防水斷面

輕量屋根斷面

◇戰時匡策に應へ如何なる屋根の故障も雨漏りも簡單に手直し出來る修繕材

1. 糊狀液狀に分れ兩者の合理的配合に依り適確なる修繕目的を達す
2. モルナイト自體寒暑の影響を受けず龜裂脫落無く耐久力半永久的且黑色スレート色、灰、錆、白、綠各色あり
3. 施工簡易素人にも簡單に使用出來る

◇ルーフキング防水層に依らず一滴のアスファルトを使用せぬ新時代の簡易防水工法

1. 熔融せるアスファルトを使用せざる爲現場で煮焚の必要なし
2. モルナイトは氣溫に對する感度殆どなく爲に龜裂剝離を起さず絕對完全防水となる
3. 新築工事の場合の外既設防水修理の場合も大小に不拘自由に修繕可能
4. 施工上特別の技術を必要とせず

御照會の節は「建築と社會」廣告の旨御申添下さい。詳細カタログ仕樣書送呈

特殊塗料と建築材料

大阪 

大阪市西區土佐堀船町16
電話土佐堀(44)3208 振替大阪13903

會　　告

本協會定款第十七條、第十八條及第十九條ニ依リ監事二名評議員半數改選並評議員補缺二名選擧ニ付昭和十四年十一月二十四日開會ノ通常總會ニ於テ選擧執行致シマシタ。其結果下記ノ通リデアリマス。

幹　　事

當選	605票	鈴木一幸氏	當選	597票	井上福藏氏
次點	7票	松本儀八氏	同	5票	山脇友三郎氏

（以下略）

評　議　員

當選	98票	宇都宮藤次郎氏	當選	94票	伊藤正文氏	當選	94票	三浦茂氏
同	93票	玉置豐次郎氏	同	92票	中西六郎氏	同	92票	井手正雄氏
同	91票	北垣熊之介氏	同	91票	伊藤武文氏	同	91票	野中駒市氏
同	90票	北川正彌氏	同	90票	塚本猛次氏	同	89票	松久保敬三氏
同	89票	羽原德衛氏	同	89票	久保田種吉氏	同	89票	澤部實之介氏
同	89票	花輪正虎氏	同	89票	政岡基次氏	同	89票	荻田眞之助氏
同	89票	長尾清一氏	同	89票	增井敏克氏			
次點	7票	新名種夫氏	次點	4票	大下順三郎氏	（以下略）		

評議員補缺

當選	596票	淺野新一氏	當選	593票	菅陸二氏
次點	3票	中西六郎氏	次點	3票	堀口甚吉氏

（以下略）

昭和十四年十二月

社團法人　日本建築協會

大阪都市計畫防火地區圖を頒布す

今回下記內務省告示に依つて大阪の防火地區が廣範圍に渉つて追加指示されましたに就いて、同防火地區圖を次の通り實費にて頒布しますから御入用の方は至急お申込下さい

大阪都市計畫防火地區圖(二萬分ノ一)1部

- **實　　費　15錢　(外に送料3錢)**
- **送金方法　振替　(振替口座大阪39975)**

內務省告示

大阪都市計畫防火地區追加變更ノ件

昭和十年十月二十八日附議　議事第一一九號　第六〇四

內務省告示　第百八十八號

大正十二年七月十三日內務省告示第二百二十七號大阪都市計畫防火地區追加變更ノ件昭和十一年四月四日內閣ノ認可ヲ受ケ昭和十一年四月二十九日ヨリ之ヲ施行ス其ノ係關圖面ハ大阪府廳及大阪市役所ニ備へ置キ從覽ニ供ス

昭和十一年四月九日

內務大臣　潮　惠之輔

申込所　社團法人 **日本建築協會**

建築と社會

第22輯　第12號　昭和14年12月發行

十二月號

目　次

卷頭言 …… （1）
故橋本勉君を偲びて …… 永瀬狂三 （2）
本年度建築界の重要問題 …… 加藤善吉 （5）
事變2箇年半 …… 新名種夫 （9）
建築物の强度計算に於ける假定風壓に關する研究(第2報) … 災害强度委員會 （13）
北山丸太の植林見學 …… 建築倶樂部室 （30）

☆紫　畑　室☆

思ひ出さるゝまゝに …… 鈴木忠五郎 （37）
國風談義 橿原神宮前綜合驛々舍の建築 …… 中筋麻芳 （38）
鞭の靴 …… 山口正 （42）
回顧痛快の一年 …… 大下順三郎 （44）
隨想 …… 松本儀八 （45）
隨筆（葉書回答） …… 益尾辰雄・池田宮彦 （41）

時事特報 用材檢査關係令規 …… （卷末）
（附、木造建物建築制規則大阪府施行細則）

☆文　献☆

綠帶都市が直面した1939年の出來事 …… 龜井幸次郎 （46）
引張力を受けるコンクリートの隅部 …… 堀口甚吉 （51）
共通の中心なき8つの放射狀トラス

☆古建築新抄☆

石造建築物 …… 藤原義一

☆新建築欄☆

日本・三越新館（神戸）
外國・ローマに於ける建築學教授團の諸作品・同古典文化大學及び某銀行計畫・同ローマ宮廷夏期計畫（イタリー）ヘルマン・ゲーリング工場都市（ドイツ）住宅（英國）小住宅・オハイオ州の住宅・オレゴン州の住宅・カリフオルニヤの住宅・中央の一點から管理出來る醫者の診療所（アメリカ）

會　報 …… （53）

巻頭言

昭和14年も正に終ろうとする。

靜かに本年を顧みて最も多く感じられることは、國民全般が興奮することなく冷靜に時局に對處して行く樣になつたといふことである。

このことは國民が一時的興奮から冷めて、本腰に長期戰に對する覺悟をきめたといふ考へ方に於て、大に慶賀すべきであるが、萬一、事變に對する國民の關心が薄らいだ所に原因するものとすれば、誠に憂ふべき現象と言はねばならぬ。

これからこそ本格的臥薪嘗膽の時期に入ろうとしてゐる時に際し、時局處理に對する熱意を以て、而も冷靜に全ての困難に打克つて行くといふ強い覺悟こそ、今日特に必要な事柄である。

この爲には、事變後目まぐるしい程に相繼いで公布せられつつある各種の法令が、何れも時局處理に對する政府の正確な見通しに基いて、綜合計畫的に立案せられた確固不動のものなることを國民が首肯し得て、人々が安じてそれに追隨して行けるものでなければならないと思ふ。

朝令暮改を餘儀なくせられる如き、その場凌ぎのものが多ければ、國民は一方に諦めの心を用意して唯默つてそれを見送るに過ぎなくなるであらう。

9・18 後に於ける米や木炭や煙草の値上などに就いては既に論議し盡されてゐる。建築界に關係の多い方面を例に取るならば、最近公布せられた用材生產統制規則が、その煩雜な內容に加ふるに、殊更に尺貫法を用ひ、又既にある商工省の日本標準規格を無視して、いかにも農林省のみに於て間に合せに制定せられ、間もなく改正せられる樣な感じを最初から與へるものであるなどはこれである。

又、商工省令の木造建物建築統制規則が、資材確保の意味から木造建物の延坪數に制限を加へるのは已むを得ないが、この規則の適用を最も多く受けるであらう住宅に對し、この規則の反作用と總動員法の家賃抑制とから招來せられると豫想せられる住宅の質の低下に對し、國民體位向上の立場から何等かの制限を加へる如き法令がないなど、如何にも綜合的企畫の下に相互聯關して考慮せられてないことが察せられて千鈞の重みを感ずることが出來ない。

未曾有の國難に際し、臥薪嘗膽は國民全般の既に覺悟する所、政府は事變終局の目的に向つて一貫した方策を示し、國民をして自ら進んで苦難を享受する境地に立たしめよ。

故橋本勉君を偲びて

永瀬狂三

橋本君遂に死んでしまつた。永い前から親しく交際して居たが。僕よりづつと健康で僕より先に今頃死ぬなどとは夢にも思はなかつた。

口髭をせめて頭に植付けたらと云つた事もあつたが。今は其必要もなくなり、顔色の健康に見えたのも無効となつた。酒が害をしたに違ひない。酒が成功の一助となる様な職業であつたから悪かつたのであらう。歩くのが嫌いで直ぐがらろうとは、學生時代からの癖が直らずじまいで、其も悪かつたに異いない。死去の報を得て御影の宅へ始めて訪問したが、香煙燻る内に鐵心院大道自勉居士なる位牌となつて居り又生前の寫眞とがあつた。其傍に近所の七十七翁の追悼詩があつて、其中の句に夢中頻呼眞平名とあつた。事業の上か家庭の事か、何れとも滿洲に離れて居た嗣子眞平君に遺言したかつたのではあるまいか。夫人の言に平常健康なる故看病の爲初めて而も級りであつたとの事で、不起の病とは知らずに安眠するからの言葉の儘であつたそうだが、其には一層氣の毒に思ふ。然し還暦迄思ふ存分働いて後繼者も等しく大學迄出た建築家であるから、申分ない一生なれば安らかに成佛し給へと云ふより外はない、扨橋本勉君は僕の先輩でも後輩でもなく正しく同輩で、即ち同期の工科大學時代の卒業生である。時は丁度丙午なる明治三十九年の夏で假に丙午會員と稱して居る。今は春四月が卒業生を出す時なるが其當時は夏期であつた。僕等のクラスは總員九人で一高より絕對多數の五人。二高より二人。六高より二人丈けであつた。橋本君は一高より僕は二高出身であつた爲め、大學に於て初めて知己となつた。

然るに何かの因緣で並以上に親密であつて或時期は同じ下宿に居た事もあつた。元來此同級生九名は東京在住者が多くて、僕も自宅より通學した一人なるが、或場合下宿する必要があつて其時同宿した。尤も僕の居た下宿に橋本君が移つて來た次第である。此様な場合や其他折衝が多くて異なる高校であつても親密の度強く、從つて僕が三年間の事をよりよく知ると云つても間違はあるまいと思ふ。而して勉が二人あつた爲め便宜上、橋勉と呼んで居た。

丙午會員には謠曲をまねる者が多々あつた。勿論月謝なしに知人か家人かに傳授を受けたもので、觀世、寶生亦喜多流等混雜であつた。内に橋本君は喜多で高校時代に喜多宗家の内弟子の様に其寄宿に居たと云ふので、吾々の様にお座敷謠ではなく舞臺藝の様であつた。其れ故橋本君を宗家とも呼び、指導役として異流混合の謠會を開き、元町の倉軒に集まり又は小石川の猶興館に館主に鼓を撃つて貰つて樂んだ事もあつた。此等はいつも無本と云ふ程に訓練されて居ない故觀世の梅若本によつたのである。此様な關係で飯田町の喜多の舞臺に紳士に互して學生時代觀能を心行くばかりさして貰つた次第である

斯くして一年級は終り、次の夏期は日光東照宮に裝飾模寫實習に出掛け日光の山中屋に二週間程滯在したのであつた。內一人は病氣で此間は八人であつたが夜分の散步は謠ふ事を忘れなかつた。此等の內には袴と舞扇子とを忘れずに用意して來たものもあつた。其は橋勉君を師匠として仕舞の稽をなし、帆前船式や氷滑式の形式を表はすものさへ出來たのである。又橋勉君を宗家として丙午會は東遊びと云ふ共通興技がある。謠曲の餘技なるが羽衣のキリの東遊びを太鼓の間に會して二人又は以上の者が謠ひながら扇子を廻して行くので、建築史を習つた直後であつたから、フランボーヤント式と呼ぶ型式も出來た。謠の出來るものでも知らぬ者でも、間と調子とに合して行ひ得るものである故、日光に於ける夕食後の十分位は騷がしき事であつたと思ふ。是等が橋勉君の吾々に遺し傳へたる主なるものである。

兎に角橋本君は要領よい、こだわらぬ學生であつた。併し日光の卷に於て遇然梅干の話が出た。同君未曾て梅干の味を知らぬと云ふ。食つて見よと勸めても從はず、形が美でない味は推察して居るが喰ふ必要がないなど、議論に花が咲いて、何れは菓子の內へ梅干を入れて食はしてやると、惡戲連中は心中に秘して居たが、三十三年遂に其を實行する場合がなかつたらうと思つて居る。猶又日光滯在中狐狗狸の出來る出來ぬの話から山中屋の老人に而も雨の夜藪の女竹三本を切つて來て貰ひ飯櫃の蓋を借りて實驗したものである。八人の內七人は興味を以て片手を出し蓋の上に手を觸れ風呂敷を掛けて、コツクリさんの來場を待つたのである。始めは五六分位で其來場が注文通りの足に現れ、猶數回種々なる質問に對して返答を受け、終りには風呂敷などは無くとも其現象が表はれたのである。大部分は始めて實驗するものなるが實際表題した事を信じたのである。木手を掛けぬ橋本君は如何しても猶信じない。誰かが特に命じた足を擧げる樣仕事するのであらうと現に目の前に論より證據であるに之を信じない。骨折の事でもなき故片手を此蓋の上に置いて見よと事つても承知しない。此樣な解けない點は不思議として遂に逝つてしまつた

繪には餘り趣味がなかつたらしい。木葉會の義務的展覽會にも餘り出した事を覺えて居ない。

僕の爺父が秋になると庭の梧桐の一葉を拾つては緣側に腰掛けて樂しそうに空を眺めて居たよと云ふ樣な趣味の感化や、又文學上の方面に傾いて居た樣で、森田思軒とか、黑岩涙香とか、田口鼎軒が云々と云ふ事を、火鉢を圍みながら種々の事を聞いた覺えがある。尾花は風と藤だと云ひ風は尾花と藤だと云ふ。などは今猶小耳に殘つて居る。

歸省の汽車中他人の菓子を間違へて食つたと云ふ粗忽かしい友人を持つて居たり、隣の秘藏猫を日置流の達人が弓で射て獸醫にかけつけたり。照葉狂言の泉助三郎一座に入つて興行して廻つたと云ふ友人があつたり、轉居すると磁石で南北を決定して蒲團を正しく南北に敷くと云ふ秀才なる友人があつたり、而して魔風の東吾と初野の有樣を寫眞に取らしたのは橋勉君であつたと云ふ。

此くして二年となり三年となると製圖室の歌も發達して來て辨天小僧の聲色も出る。其に岩本院の稚子育ちが時々岩本院の洞でとなるので、連中は聞かぬつもりでも自然耳に入つてドツト笑ひ出すと、樂境に遊んで居たのに、オウ忙がしいと製圖に熱中する。かゝる點から岩本院と云ふ呼び名も出來た。其他謠曲的長唄も出るが此方は聞き甲斐がある爲め、おとなしく謠はして置く。謠でよく聞くのは石橋、山姥、善知鳥で內でも三時過ぎ頃は、婆婆にては善知鳥やすかたと見えしも……と三Hの鉛筆と鉛筆削とを兩手に拍子をとつて、吾々の煙草一本と云ふ處のうき晴しであつた樣に思ふ。

かゝる點は記憶に存して善知鳥の謠などは聲迄今猶殘つて居るが三年の中頃からの事は夢の樣である只結婚に對する聞合せは僕が學生ながら出向たのである。其後僕が病氣となり、橋勉君は僕の使の結果がよくて卒業直後結婚し引續き樺太の陸軍に奉職した事となつたが送別會もせず停車場に見送りもした覺えがない。

其頃は各自の事で餘裕がなかつたと見える。去五月建築學會晚餐會に於て久しぶりに京都都ホテルで會ひ歸途出口の椅子に倚り親しく談じ且同君の夫人及他の夫人等三人が阪神から揃つて京都の拙宅訪問の手筈となつて居たので時間などの打合せを爲して橋本君は知人にせかれて木屋町に自動車を飛ばし僕は電車で歸つたのであつたが是が三十五年來の親交の最後であつた。

誠に橋勉君は事業家らしいタイプであつて其途に精進され會ふ人毎にお氣の毒であると悔みの挨拶を受けるは生甲斐ある生涯を完成した事と滿足しても惡るくはあるまい。慾には限りない故次の代なる後繼者眞平君も同職業で同じ學校の卒業生であるから滿足してもよいであらう。只僕としてはもう少し働かせたかつた世間も無論同情をよせるであらう。

時を待たずバサリ落ちしよ桐一葉　　（十四年十月二十日）

勞務者住宅のトツプ

アパートと獨立家屋50戶

產業都大阪では厚生省とタイアツプして職工さんの住宅難緩和に大童だが、こんど大正區工場街から中山製鋼所がトツプを切つて話題の工場住宅を新設することゝなつた。同製鋼所で計劃中の住宅は200人の職工さんを收容し得るアパートと、職工さん50家族のための獨立家屋50戶で、木津川尻の工場附近に敷地を物色目下交涉中であるがほゞ交涉成立の見通しが付いたので、十日間以內に資金調整法に從ひ一應形式的に、大藏、厚生兩省へ手續を經たうへ府工場課の正式許可をまつて着工することになつた。4000人の勞務者を擁する同工場として今回の計劃は急を要するものゝみの施設で、今後必要に應じてどしどし增設する方針である。（11,22）

本年度建築界の重要問題

加藤善吉

昭和十四年も終りを告げんとするに當つて、過去一年間を顧みれば、前年度に引續く戰時體制下にあつて我が國未曾有の革期的諸般の制度が布かれ、之に伴つて建築界及都市計劃界に大きな影響と刺戟を與へた。而し國民は等しく時局を認識して國策に順應し、或は協力し凡ゆる犧牲と忍從を以て之に對處し、今回我國が起つた最大最高の目的である東亞新秩序建設の大偉業に向つて總力を擧げて驀らに進つゝあることに今更謂ふを要しまい。今その一年間に起つた建築上の重要な問題を念頭に浮ぶまゝに述べて見る。

1 市街地建築法令の改正

市街地建築物法令も時局に對應するために本年二月一部の改正を行つて、防空上の必要から空地地域の制度を設け又地域制に依る空地制限を從來より嚴にした、即ち工業地域及未指定地は從來の三割の空地を四割を保有することとした、又衛生保安上の見地より住居專用地區及工業專用地區制を認めた、其の他路幅も四米を最小限とすることにせられたのである、從つて之れに附隨して種々の改正は行れた。

2 防空建築規則の發令公布と防空計畫

防空上我が可燃燒都市を救ふために同規則の公布を見たのであるが。之れも全じく本年二月に公布四月から施行せられて居る、即ち本規定は市街地建築物法第十二條の規定に基いて出て居るのであつて、東京は四月から其他大阪、京都、横濱、名古屋を始め川崎、横須賀、吳、下關、門司、小倉、戸畑、八幡、若松、佐世保、東舞鶴、廣島、福岡に八月一日から實施せられて居る、來年は更に適用都市を增すであらふ。之れに先つて東京及大阪にあつては莫大の費用と人員をかけて木造家屋の火災實驗を行つてゐる。

この規則の適用に依つて今後新築される木造家屋は防火的に建てられるが、既成木造に對して其の都市の重要な部分は、防火改修をすることとなり大阪に於ては二十萬圓の國庫補助に依つて着々進められてゐるし、又防空模範街區も出來上つてゐる。用材としての耐火木材も五月に內務省令に依つて規格が定められた。

防空計劃の一部として各重要都市は防火貯水槽の築造が實施せられた、大阪市數十箇所を始め堺市に於ても市內中樞要所に二ケ所築造する計劃が進められ近く實現する、之れは昭和十二年の臨時議會に於て六大都市に實施を見るべく決定せられたのであるが、本時局は一層その極めて必要なことが認められて其の機を早めたと云へる、之れに要する鐵筋の配給等も特別に受給を得るであらう。其他サイレン、照明高塔等建築的施設として愈警防方面の活況を呈して來た。內務省には七月三日內務省告示を以て防空研究所が設置せられ內務技師菱田厚介氏が初代所長に任命せられた、即ち之れは國民防空に關する研究機關で

あつて種々な調査研究をなして防空上の指導方針を確立する所のものである。其他財團法人として大日本防空協會が四月に設立を見た、內閣總理大臣を會長とし廣く國民を網羅し有力な組織と機能とを有するものである。之れに依つて愈防空施設も促進するであらふ。

3 鐵鋼の問題及ガソリン及電力の統制

鐵鋼の制限に關しては事變直後既に統制せられて居るのであるが、本年に入り時局の新段階に入るに從つて一層強化せられた其の配給數量も益々漸減の一路を辿り今日に於ては同材使用の建築物は殆ど見られなくなつた、從つて之れが對策として竹筋の研究が盛に行はれ神戸高工の巽助教授及當市の島田氏が本年の學會に研究の發表があつた、一方無筋コンクリートの提唱があり大阪府の淺野技師がその指針を發表せられてゐる、又臺灣の中村技師が煉瓦造に就て再檢討せられた論文が發表せられた。鐵鋼の統制に關する建建物の種類及其の重要性に就ては特に愼重な考慮を必要とするもので、都市防護の中心をなすべき最も必要な建築物はその重要性に就ては特に比較研究をなすべきであらふ。
其他ガソリンの統制の結果運輸に支障を來し又電力の統制は建築工事に影響を與へて工事の遲延を止むなくせしめるに至つた。

4 木材の統制

木材に關して昨年來輸入制限政策を採り米松の販賣統制を行つてゐるが、更に本年九月農林省令を以て用材生產統制規則を出し、次で十月用材規格規定を定め又大阪府は大阪府用材檢查規則を出して之れが取締を行つてゐる、又出るべくして出ない建築面積に依る住宅建築の制限規定も近く公布せられることであらう。かく木材の制限の强化に依つて木造建築界にも大きな影響を及ぼすであらふ。

5 建築技術員の應徵

國家總動員法に基く國民徵用令が七月に實施せられ建築技術員がトツプを切つて徵用せられた、技術報國の信念に燃えて多數の技術者が或は內地に或は外地に勇躍出發したのであつて、目下それぞれの重要任務に獻身的努力を拂つて居るのであるが、民間及官公界に於ても建築技術員拂底を告げるに至つた原因は、爲政者が今日の見通しがつかなかつた結果であつて、此點から吾々としては國策上の重要問題に關して政府は宜しく建築家を參劃せらめ國策遂行に遺憾なきを期せられたいことを特に提言して置く。

6 地代家賃價格賃金の統制

通貨の膨脹に依るインフレ抑制のために十月十八日地代、家賃、價格及賃金の全てに對して所謂9.18物價に釘付のストツプ令が公布せられ二十日より施行せられてゐる、即ち物價の統制令は商工省令で、地代家賃及賃金の二省令は厚生省から出て居る、而して今回の統制令の賃金も主として物價に緣の薄い消費部門流通部門には非常に輕く主として生產的な勞働方面を抑へたのであり、又地代家賃は昨年八月四日にストツプされたことになつたのであるがそれ以後租稅公課が上り又は改築增築を行つた場合等は十一月末に是正が出來

ることになつて居る。之等規定の統制の結果は住宅及住居の問題に大に反響して來るから將來の住宅不足に對する對策を今から考いて置かねばならない。

7 工場分散の問題及都市計畫の再檢討

時局の影響は軍需工業は勿論一般産業もその興隆と共に工場立地の問題即ち工場地方分散の問題が厚生省邊りで盛に論議せられて來た從つて之れに伴ふ住宅の問題、ひいては都市計畫の再檢討の必要が痛感せられて來た。而し工場立地の問題は地域制と離れては解決することは悔を世に殘すことは言を俟たない所で、本問題と地域の問題は一體不離のものである農林省方面の主脳者は農業者の工業への轉出、或は農業者の都市販賣産業への進出を防禦する政策として農林に地域問題が考慮せずして工場分散を圖れ之れを誘致して農業人口の足止めを企して居るやうであるが注意すべき重要問題である。

勿論從來の工業立地の疎散化及びある程度の轉置は必要であるが、要するに大工業立地の要素は材料調達の要因、労働力調達の要因、販路の問題であり之れに加へて更に軍事政策的見地の重要性を閑却してはならないのであるから之れがためには國土計畫地方計畫の實現を期待せねばならない。

8 勞務者住宅問題

軍需及生産力擴充計畫に基づいて起つた工業の發展に伴つて勞務者人口の移動は著しく發展産業都市に蝟集した勞務者の數は實に夥しいものである。從つて之れがために必然的に起る住宅問題解決策として厚生省に於ては之等の各都市に勞務者住宅建設を策し之れが實現を圖ることになつた即ち本年度から16年度にいたる勞務者住宅供給三ケ年計畫を樹立し八月二日に十四年度第一期計畫が決定した。即ち東京、大阪、京都、愛知、神奈川、兵庫、廣島、山口、福岡、長崎、群馬、埼玉の十二府縣に配分せられ之等各府縣の發展産業地帶に世帶向住宅30.000戸、共同宿舍200箇所を建設するものである。

而して世帶向住宅は甲型は敷地40坪一戸15坪、乙型は敷地25坪一戸11坪を標準とし、共同宿舍は一箇所敷地1.000坪、建坪600坪、收容人員200人を標準としてゐる、大阪府割當は前者が3.500戸後者の共同宿舍は30箇所である。

其後十月三十日融資細則を定めて之れを地方長官及特殊銀行に通牒せられ融資を開始した、その貸出條件は府縣並に同潤會は3分2厘、其他は4分2厘で期限は20箇年以内である。以上の政策實現に依つて一應差當つての勞務者住宅拂底も稍緩和せられるであらうが今後起る所の一般住宅問題に關しても對策を講ずべきであつて、住宅政策は今後更に國策として十分の研究を要すべく、更に進んでは人的資源の對策考慮を要すべく、我が國のやうに軍需労働力の絶體的不足の條件の下に生産力擴充を急いでゐる現下の情勢よりして人口問題は愈その重要性を加へ來ることを痛感せざるを得ない。

9 建築及都市計畫關係人事問題

時局の影響は官吏萬能と云ふやうな聲を生じ獨善主義に陷つたと云ふやうな非難を耳に

するに到つたが、建築及都市計畫關係職員は一層の眞劍味を加へて來た、殊に建築行政界は永年沈滯の空氣中にあつたが、今回土木界に刺戟せられて遲まきながら人事の交流が提唱せられて來たことは喜ばしい現象と云はねばならぬ、內務省に於て七月計畫局に第二技術課が復活して元大阪府建築課長中澤氏が課長に新任せられた、同氏の手に依つて人事の交流が行はれた都市計畫方面に大阪府からも轉出を見たくして漸次人事の圓滑な交流が促進せられるに相違ない。而しながら吾々は更に進んで建築行政は勿營繕關係を含む一大強力な建築統帥機構の必要を痛感する。

10　以上は本年度に於ける主要問題として列記したに過ぎないが、時局の重大性の加重するに伴つて建築界は益々多事多難たるべく、都市計畫界に於ても新たな計畫實施の急務に迫られるべく、從つて斯界に職を有ち技術報國をなさんとするものは、等しく自重して其の組織を完出にし協同一致進取的體度を持して强力日本の建設に邁進せられんことを望んで擱筆する　（昭和14.11.7）

技術家の大量生産案決定

旺盛な生產力擴充の要望に應へて文部省では前年に引續き15年度に於ても高工の增募を始め高農高等水產の全面にわたり大々的な增募計劃を樹立、大藏省に對し折衝を試みてゐたが第一次査定の結果高工の增員は新設7高工の1,400名の增募をはじめとして約2,000名の增募が承認され逞しき生產力の躍進譜を奏でてゐる。即ち

☆**高工**——第一次査定によつて冶金（**熊本、仙臺**兩高工）採鑛（**仙臺**）電氣工學（**德島**）の四學科（各學年40名）新設が承認された外、室蘭、多賀、盛岡、宇部、久留米、新居濱の新設7高工は明春より各校とも定員200名を400名に增募、また今春5月から開設された**金澤**（化學、機械、電氣工學）**濱松**（化學、機械）**神戸**（精密機械）**福井**（工作機械、電氣）**山梨**（工作、精密）**長岡**（工作）**德島**（工作）**秋田鑛山專門**（電氣、金屬）の12學科はそれぞれ定員を40名（一學科）から80名に增員することが承認され決定した。

☆**高農、高等水產**——査定の結果**岐阜高農**の獸醫學科、**上田蠶絲**の纖維學科新設（各40名募集）と**宮崎高農**の獸醫科20名募集は承認。

☆その他——下級技術員養成のため**工業學校**191學科分約**7,640名**の增募並びに水產學校15學科（600名）農學校9學科（400名）を復活要求中。

尙折衝中の高等水產、高等山林、獸醫專の3高專校の新設計劃は物資の拂底から實現は不可能視されてゐる。（11,22）

事變2箇年半

新名種夫

醫家が治療に劇藥の類を使ふ場合には、次第にその量を增して人體のそれに對する抵抗力と適應性とを增加しつつ遂に治病の目的を達するのを普通とする。

一昨年の秋、資金調整法に引續いて鐵鋼工作物築造許可規則が公布せられた時、あれ程に大騷ぎを演じた建築界であつたが、その後一體幾つの規則が出たのか、全く數へ切れない程であり、而も1つとして建築界の自由な活動に强力な制限を加へないものはないのであるが、最近では業界もこれに對して冷靜に對策を講じて行く程度に、時局適應性を增加したかに見える。

統制法の一方には、1つはその結果でもあるが、建築資材の供給不足が、釘、ボールトの類からセメントにまで及び、若し假にこの現象がもつと急激に到來してゐたとすれば、業界の騷動は蓋し想像に餘りがあつたであらう。

實際、眼を閉ぢて靜かに事變前と今日とを比較して見よ、これは全く大變な變り方である。明治開國以來の日本がその下に發展して來た自由主義は、この2箇年半の間に全く强力な統制主義に置き換へられ、その効果は既に我々の日常生活の細かい部分にまで、ひしひしと感じられつつある。

この變化を比較的平靜裏に成し遂げたものは、1つは支那事變といふ未曾有の大事件の推進力でもあるが、今1つはそれを背景とする2年半といふ歲月であると思ふ。その間に次第に强さを增して行つた統制に對して、國民も惱みの中に漸次適應性を獲得して行つたのだと考へられる樣に思ふ。

建築界に就いても同樣で、今日も尙、追つかける如く矢繼早に發せられつつある、建築關係の各種統制法並にその矛盾にまで、業界は兎も角も相當な理解と幾分の諦めとを以て割合冷靜に對處して行く樣になつて來た。

事變以來の業界を振りかへり、更に本年を回顧して考へられるものは第1にこの點である。

☆　　☆　　☆

だが、これは業界の人々が心理的に時局對應性を增加したと言ふに止り、統制そのものが綜合的に整備せられ、それが圓滑に運用せられ始めたといふわけでは決してない。

統制法の對象は益々細かくなり、それに伴つて各般の矛盾撞着は、次第に增加しつつある。本年を回顧して、建築界がかくまで冷靜であり得ることに刮目するのは、一方に於て統制に依る業界のトラブルが餘りに多いからでもある。

この原因は1つは統制法の不備に依るものでもあるが、より多く新しい統制法と古い規定や習慣との矛盾撞着に起因するものである様に思ふ。

例へば、官公署に於ける建築技術者の不足などに就いても、一方に於て國家總動員法まで發動して、建築技術者の徴用に非常手段を講じてゐる時代に、一方に於て各官公署では多數の建築技術者を各部門に分散して、統合して、一機構化すれば充分有無相通じ得るにも關らず、從來の行き掛りに捕はれ、安易主義に流れてこの極めて簡單な營繕機構の統一さへ爲し得ず、徒に人員の不足と事務の澁滯とを嘆いてゐる現狀である。

又、建築資材の統制から來る手續の煩雜、品不足に依る材料の入手難、及職人の手不足等に基く豫算の超過、工期の延長、設計の變更等の場合に起りつつある幾多の面倒なトラブルなども、建築主對請負者間の契約規定なるものが、(特に軍部以外の官公署に於て)舊態依然たるものであり、この急激な轉換期に處する所以のものでない爲に由來するものが極めて多いのである。新しい酒の容器として古い革袋をその儘使はうとする所に無理があるのである。

國策順應とは、古い態度に於てこの間のトラブルに耐えて行くのとは反對に、新しい革新政策に應ずる様に末梢に至るまで一貫した制度を確立することである筈だ。

一口に臥薪嘗膽といふが、物資の缺乏を忍耐する場合と、更むべきを更めないで起る面倒を糊塗しながらその日暮しをするものとは自ら區別さるべきである。後者こそ却つて國策順應への怠慢として非難さるべきではないだらうか。

實際にこの時代の惱みを受けること最も多く、而も規定や制度に關して發言する機會に惠まれることの少ない建築技術者として、本年を顧み來年を豫想して是非言つて置き度い事柄の1つである。

☆　　☆　　☆

用材生產統制規則が本年9月農林省令として公布せられた。

木材規格の統一は業界の久しく待望する所であり、我建築協會に於ても、幾度かこの問題をとりあげて研究し、又當局に建議する所があつたが、今回これに依つて木材の規格が兎も角も全國的に統一せられ、この意味で一應業界の希望が達せられたかに見える。

だが、これを公布さるに當つては、何故に日本標準規格に法的根據を持たせる様に考慮しなかつたのであるか。

商工省の日本標準規格は、資材全般が絶對にそれに準據してゐたものではないとは言へ兎も角もそれが1つの强い據り所となつて充分の權威を發揮してゐたものであるだけに、そこへ農林省より全く性質の異る統制法が出るといふのでは、材料全般に渉る日本標準規格の權威を傷け、一部の統制の爲に却つて既に出來上つてゐる大きな統制を亂る感じを伴つて、この上もなく氣持が悪い。

それに更に不思議に思ふことは、何を好んで尺貫法を採用したのであるか、建築の單位

が漸く米法に統一せられ、市街地建築物法に於ても最近改正せられた部分は全て米法に改められて、建築の仕事が漸く米法のみで出來る所まで進んで來た所へ、何の爲に殊更に尺貫法を採用したのか全く了解に苦しむものである。

而もその內容の、煩雜な程に細かいのは、これ亦何とした事であらう。統制とは複雜煩瑣なものを簡單明瞭に整理する所にも大きな意義があるのだと思ふのだが。

☆　　☆　　☆

又、用材生產統制規則と時を同じうして、これは商工省令として、木造建物建築統制規則が公布せられ、11月13日から實施せられた。

この規則の制限を受けるもので最も多數に上るものは恐らく住宅建築であらうが、自家用住宅——關西で所謂「居宅」に就いてはこの規則の制限に依つて、恰もワシントン會議後の日本海軍と同樣、延坪 100平方米を如何に有効に利用するかが研究せられ恐らく完全な空間の利用とその質的向上とが招來せられることも想像せられる。

所が一方、國民の大多數に關係ある貸家住宅に對しては、この規則は恐らく家主に便利な口實として利用せられる恐が非常に多い。

殊に戰時の住宅難の所へ、一方に於て家賃を抑壓せられてゐる家主としては、住宅の質の低下と同時に、これを口實に坪數の減少をも企圖するであらうことは充分に想像せられる。

「斧で人間を殺すことが可能であると同樣に、不完全な住宅も人間を殺すに充分だ」

國民體位の向上が强調せられてゐる折柄、商工省の坪數制限と平行して、厚生省は住宅の質の最低限標準を、法令を以て規定する必要はないか。

☆　　☆　　☆

本年末に於て建築界に最も大きな話題を投げかけたものに、忠靈塔設計圖案の懸賞募集がある。

實際今日まで數へ切れない程建築の懸賞競技があつたが、それは多くの場合、建築家仲間の間にだけ問題になつたもので、今回の忠靈塔の場合の樣に、全國民の關心を集めたものは嘗てなかつた樣だ。

これは大朝、大毎をはじめ、その系統の東京のジヤーナリズムが、忠靈顯彰會の事業を後援して、その資金の募集に一役買つてゐるのにも依るが、何よりもこの事變下、護國の英靈の熱を顯彰するといふ事業が、全國民の關心の的とならざるを得ない點に原因することは勿論である。

この設計案が忠烈無比な我が將兵の純粹無垢な赤誠を表徵すると同時に、永遠に不動なる日本精神を具現するものであるべきことは募集規定の劈頭に記されてゐる通であつて、萬一應募圖案の選定よろしきを得ない場合には、唯に護國の靈に對して申譯なきのみならず、國民全般に誤つた建築觀を植え附ける危險を多分に含むことを恐れるのである。

この點に就いて建築家側の審査員に對し——今日まで日本精神を表象するものとして、軍人會館や名古屋市廳舍や、萬國博の建國館等を當選せしめた同じ人達が、全部ではないが大多數であるが故に——この際今日までの審査態度を一擲せられ、建築の根本精神に立ち歸つて審査に當られむことを期待するものである。

實際上述の如き今日までの懸賞當選圖案が、新日本建築の發達を何れだけ阻害したか想像以上であつて、全國民注視の焦點である今度の懸賞競技は、それだけに一面うまく成功してよき圖案が得られた場合には、今日までの誤つた建築觀を是正するによきチヤンスともなり得ると考へるのである。

嘗ては甲冑に身を固めたものが日本古武士の姿であつたが、今日の我勇士の姿は鐵兜、機關銃などの近代的武裝の中にある。今回建設せらるべき忠靈塔も樣式的には飽くまで現代日本を表徵するものでなければならないと思ふ。

今日までの懸賞當選圖案を顧み、重ねて審査員の猛省を促しておき度いと思ふ。

三五〇〇年前の「ゐろり」

飛驒上野平の古代人住居址から貴重な石斧などザクザク

高山市北郊上野平一帶は石器時代の大集團住居址あらうと想像されてゐたが、さきに飛驒古代史の研究にとりかゝつた東大助教授八幡一郎氏によつてわが國有史前の素晴らしい「ゐろり」が發見され、いよいよ古代人の住居址であることが到定された、この新發見は八幡氏が鄉土作家江馬修氏らの助力を得て調査を續けるうち上野平に石器時代のおもかげをのこす貴重なものが埋もれてゐるに違ひないといふ想定に本づき去る二日から同所字尾崎（高山市本母、橋本氏所有桑園）の一部を實地踏査し三日から人夫數人を入れて發掘した結果、六日朝になつて約六尺の地下で方二尺、深さ一尺五寸の立派なファイヤ・プレースを發見、さらに掘り擴げるうち同樣石造「ゐろり」が現れたので一同思はぬ掘出物に歡聲を擧げた。

このファイヤ・プレースは十貫ぐらゐの石塊七個から出來てゐるのと三個で出來てゐるのと二種あり、このほか繩紋土器數百片、磨製と打製石斧など石器類も多數掘出された。

同氏は午後六時二十一分發列車で歸京したが、このゐろりは年代にして三千五百年は經つてをり歸京後早速飛驒の住居址について新研究を發表することになつてゐる。（高山）

建築物の强度計算に於ける假定風壓に關する研究 (第2報)

「建築物强度計算用風壓規準案に對する解說」

財團法人 日本建築協會 災害强度委員會

(1) 緒　　言

本報に於ては第1報に發表せる規準案の解說を爲すこととする。

問題を簡單にする爲に吾々の取り扱ふ建築物は高さに對して間口が充分長いと假定すれば問題は二次元的に取り扱つて差支へなく、又大部分の建築物はその横斷面の輪廓が屈折を有するから風壓の分布は所謂 Reynold 數に影響されることが少い。即ち表面の粗さや形が相似できへあれば比較的小さな模型を用ひて左程大ならざる風速（吾々の實驗に於ては 30 乃至 38.2m/sec）によつて實驗的に求めた結果も實際の建築物に大なる風速の風が同樣にあたつた場合と大して差異はない。依つて吾々は高さに比して間口の比較的大なる模型を用ひて實驗に依り之を求めることとし夫れに用ふる供試體は出來るだけ多くの形態條件を供へる如きものを選ぶ事とした。その結果屋根面に於て勾配面と鉛直面とを有する事、實際上單一より多數連續に迄配置される可能性ある事及在來の實驗に於て余り取扱はれてをらなかつた事等の理由により「鋸齒狀屋根を有する架構」を使用する事とした。

形狀寸法は棟高207mm 軒高140mm 間口322mm 奥行132mm 招庇10mm 屋根勾配約30° の木製函とし、表面は實際のものに出來る限り接近せしむる考の下に窓障子、屋根瓦等を薄肉彫とし壁面白木鉋掛とし或程度の摩擦面を附してある。屋根面は軒を廻轉軸として棟に於て上方に開き得る如くし各表面には內徑 0.5mm 以下の眞鍮管を取付け模型內部を通して Gö式精密風壓計にゴム管を以て連結してある。

導壓管の數は各模型に就き鉛直天窓部に64箇、屋根面に45箇、竪面は兩側に各21箇とし特に最前列の模型に限り鉛直天窓下の前壁面に144箇を取付けてある。

此等の模型を風洞內に於ては直列として1棟より6棟迄を連接せる場合及び並列として其列間隔を棟高の夫々0.75、1.00、1.22倍の3種として各列を1棟より6棟迄とせる場合及び1棟のみに付き屋根勾配を種々に變化せる場合に關して調査した。

此等風洞實驗結果の詳細は昭和13年2,3月號「建築と社會」誌上に於て旣に發表せる所であるから茲では之を省略するが吾々は此等の結果を用ひて次の如く考察した。

(2)計算規準用風壓係數の算出

實際に於て凡ての建物は窓、出入口、煙突又は壁體を通じて空氣の漏洩がある。從つて

「建物内の壓力は外壓に關連し且屋根又は壁體の任意點に於て其壓力は常に內外壓の代數的和である」

若し「風に向つて開口が開かれてゐる場合內壓は其開口に於ける限界線內の壓力に一致する。即停滯壓である」

若し「間隙が大ならざる範圍に於てはベルヌーヰの理論に從ひ流出入の空氣速度は其間隙に於ける壓力差の平方根に比例する」

依つて「間隙を通して風が吹込む場合は內壓は外壓に比し常に小なることを示し又間隙の位置によりては益々內壓の低下を生ぜしめる」

この理念は一般建物に於ては「全內壓は吸引力なり」と言ひ得るのである。

又間隙を通して空氣の流動大なる場合即風上面、風下面を通して開口の開かれてある如き場合は風は擦過風となつて其背後には渦を生じる。「同一氣流內に於て速度の變化を生ぜる場合、其速度大なる部分に於ては他の部に比し壓力の低減を來す」

茲に動粘性に關する Reynold 數は省略し得るが或種の引張力を生じ擦過風の在る限界內に於ては壓力の低下を來し所謂吸引の作用を生ずる事となる。

以上の如き理念に基き吾々の用ひた供試體を考ふる時は內壓の動きに關し夫が目貼封蠟等により相當氣密ならしめられてゐるとしても（從つて壓力計に多少低下して現れるとしても）吾々は比率を問題にするだけであるから此の事は何等不都合なく多少の漏洩ありとすれば一層實際に近くなるものと認め、そこに表示せられた數値は絶體完全氣密若くは內實（ソリツド）なる供試體により得られた數値よりは更に實用的に信頼さるべき狀態にあるものと考へられる。

今表面上に適當に座標軸を採り

全　壓　力……R　　風　速……V

模型の標準長……l　　空氣の動粘性係數……ν

とすれば表面上任意の點に於ける風壓力度は

$$p=\frac{dR}{dA}=C'\rho V^2 f_1(xy)\, f_2\left(\frac{Vl}{\nu}\right)\cdots\cdots\cdots\cdots(1)$$

茲にA……面積

ρ …… 空氣の密度

又は

$$\frac{\frac{dR}{dA}}{\frac{1}{2}\rho V^2}=C''f_1(x,y)f^2\left(\frac{Vl}{\nu}\right)\cdots\cdots\cdots\cdots(2)$$

然るに $\frac{\rho V^2}{2}$ は平行水平風の有する岐點壓（停滯壓）であるから之を q にて表せば(2)式は

$$\frac{p}{q}=C''f_1(x,y)f_2\left(\frac{Vl}{\nu}\right)\cdots\cdots\cdots\cdots(3)$$

となる。然るに Reynold 数 $\frac{Vl}{\nu}$ は不連續流に對しては余り影響を持たないから風壓は之に無關係と考へれば

$f_2\left(\frac{Vl}{\nu}\right)$ は常數と看做し得る。故に(3)式は

$$\frac{p}{q}=C'''f_1(x,y)\cdots\cdots\cdots\cdots(4)$$

となりp/qは只位置のみの函數として表はされる。之をCとすれば

$$C=\frac{p}{q}=C'''f(x,y)\cdots\cdots\cdots\cdots(5)$$

故に(x,y)點の風壓力度Pは

$$=Cq=C\cdot\left(\frac{\rho V^2}{2}\right)\cdots\cdots\cdots\cdots(6)$$

(6)式中Vは水平風速でρは

$$\rho=\frac{1.295}{9.8}\cdot\frac{1}{1+0{,}004t}\cdot\frac{P}{760}\left(\frac{kg\cdot sec^2}{m^4}\right)\cdots\cdots(7)$$

茲にPは大氣壓の平均値(水銀柱の高 m.m)

t は溫度の平均値 (C°)

普通地表附近 (大約高500m以內) にては

P=760mm　　t=15°C　　を標準と考へ

$$\rho=0.125\left(\frac{kg\cdot sec^2}{m^4}\right)\cdots\cdots\cdots\cdots(8)$$

$$\therefore\quad p=0.625CV^2\cdots\cdots\cdots\cdots(9)$$

之を全面積に就き積分すれば

$$R=\int Pda=\int qCdA=q\int CdA\cdots\cdots\cdots\cdots(10)$$

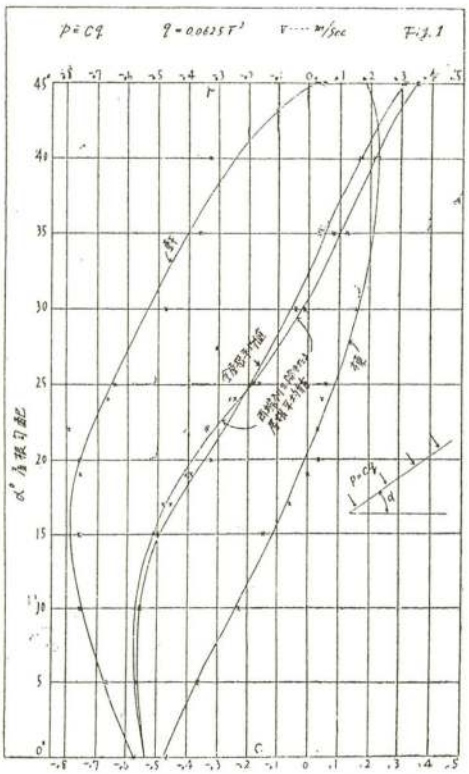
之を全面積につき平均すれば平均風壓力度 $\bar{p}$ は

$$\bar{p}=\frac{q\int CdA}{A}$$

之を吾々は測點の配置が略均等に全面に亘つてゐるから誤差大ならずと觀て簡單のために

$$\bar{p}=\frac{q\sum_{i=1}^{n}ci}{n}$$

とし、之を圖示すれば**第1 a.第1 b 及第2圖**となる。



上圖表ニヨリ屋根勾配0°以下ハC=−0.5　**第1a圖**
20°～30°　C=−0.4　30°～60°　C=+0.1
60°～90°　C=+0.9　ヲ以ツテ實驗値トシ得
19°以下ハ兩部負　45°以上ハ全部正トナル事ヲ知レ

第1a 圖は最前列風上側の屋根面に於ける風壓係數の屋根勾配の變化 に伴ふ變化を示す

第1b 圖は之を圖示せるものである。

第2圖 Ⅰ～Ⅵ[※]は風洞內實驗に於ける直列及並列の二種の配置の各々に付1棟より6棟迄の風壓實驗値より算出せる風壓係數にして棟及軒に於ける測點値の和の平均及其面全體に於ける測點値の總和の平均を示す。

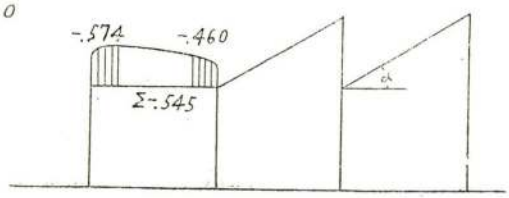
今屋根面の水平となす傾斜α角を橫軸に、風壓係數を縱軸にして全屋根平均風壓係數をプロツトすれば**第3圖**の黑點の如くなる。此のα,Cの關係は Sine curve で大體表し得るとす

※頁 22～28 參照

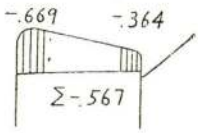
>WIND>

Fig 2

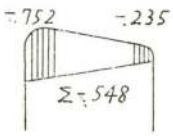
I $\alpha = 0$



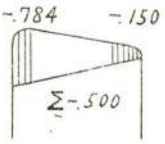
II $\alpha = 5°$



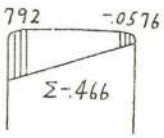
III $\alpha = 10°$



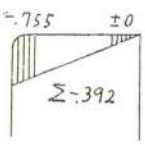
IV $\alpha = 15°$



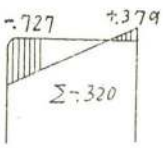
V $\alpha = 17°$



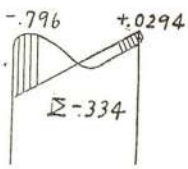
VI $\alpha = 19°$



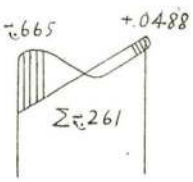
VII $\alpha = 20°$



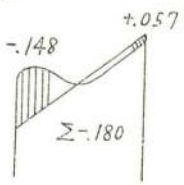
VIII $\alpha = 22°$



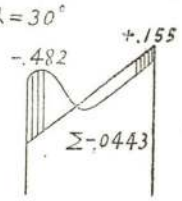
IX $\alpha = 24°$



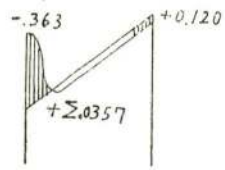
X $\alpha = 25°$



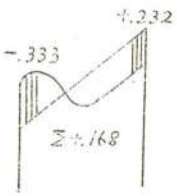
XI $\alpha = 30°$



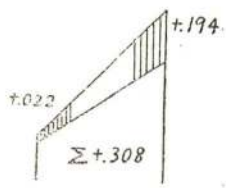
XII $\alpha = 35°$



XIII $\alpha = 40°$



XIV $\alpha = 45°$



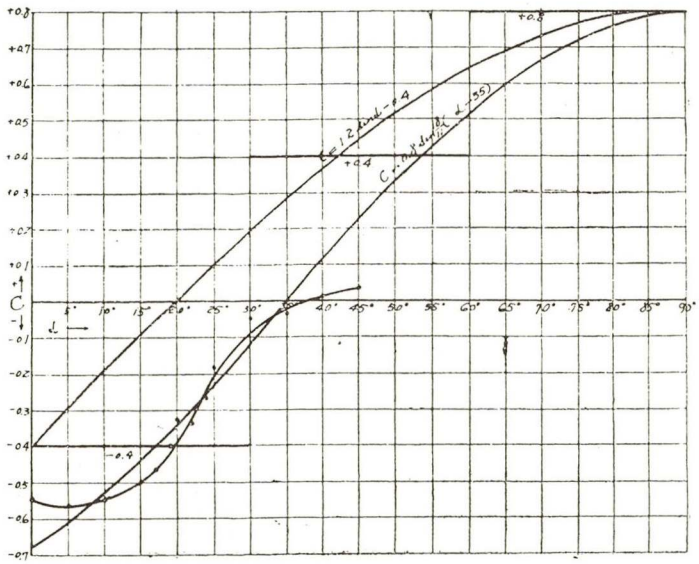
第1b圖

れば實驗よりα90° に於てはCは正の最高値に達しその値は0.8程度と、又α零の點ではCは0.6～0.7程度となるべきであるから今振幅を0.8と、C零の點を、測定値及零點決定の如何により生じ得べき誤差を安全側に置かんが爲にRound Number 35° に假定すれば、$C=0.8\sin\frac{18}{11}(\alpha-35)$ となり圖示せる如く相當測定値をよく代表し其の他の要件をも滿足してαとCとの關係として採用し得る如く考へる。所で獨逸の風壓規準を圖示すれば

$C=1.2\sin\alpha-0.4$

の Curve となる。一般に風上屋根面の風壓は之を正に假定する方がトラス部材の應力は大となること**第1**及**2表**の例題の通りであるが、吾々の實驗値よりすれば獨逸規準は正となる範圍が廣きに過ぎる樣に思はれる。

第3圖　風上屋根面の勾配と風壓係

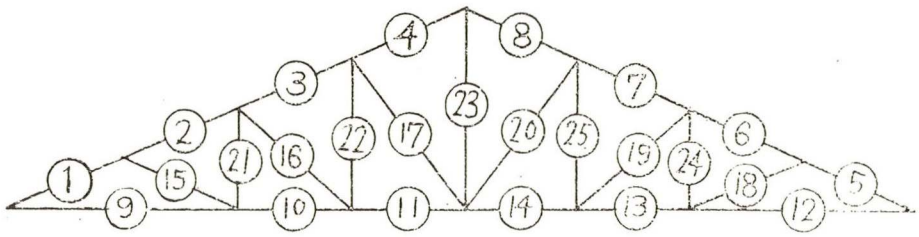


一方風壓に因る部材應力と鉛直荷重に因るそれとが符號異り居る場合は多くの場合多少風壓の絕對値大となるも部材應力の絕對値は風壓に因るものの方が小なるが故に該部材の設計用應力は鉛直荷重に因る部材應力のみによつて定る。因つて風壓値負となる場合は屋根面傾斜角20～35°の範圍にては風壓係數を零にとるも—0.4にとるも設計用應力には何等の影響も無いのである。依つて此の範圍にては實驗値に忠實に風壓係數を厄介なる曲線的に變化せしめることは無駄なことである。それ故規準案に於ては傾斜角0～30°の範圍にては之を一律に－0.4となし更にそれ以上の傾斜角の範圍も簡單の爲に30° 超過60° 以下の範圍は＋0.4と60°超過90°以下の範圍は＋0.8と定めた。蓋し此の方が簡明で記憶に便なるのみならず經濟的であつて而も實驗に徴して何等不安を伴はないから實用に適すると考へるからである。

（3） 風速に關する增加係數

一般に氣象臺又は測候所等より公表せられてゐる所謂公稱風速はロビンソン風力計による廿分間平均風速である。然るに前記の風壓力度式は無渦定常流の理論より誘導せるものであるから此の式中の速度は無渦定常流の現實速度たるべきものである。從つてVとしては眞の意味の瞬間最大風速は採るべきではないが風の息に相當する程度の期間に於ける平

第1表　獨逸規準に依る設計用應力と本委員會規準案に依るそれとの比較例



張間15m　　トラス間隔3m

$W=C\cdot q$　　$q=\frac{\rho V^2}{2}$　　$\rho=\frac{1}{8}$kg.sec²/m⁴　　V=35m/secとし

風　壓　p=76.56kg/m²

鉛直荷重屋根30〔波型スレート葺〕
小屋重量W=(0.75+0.328 l)×64.883=27.7 kg/m²
雪15kg/m²
} =72.7kg/m²

＋……應壓力
－……應張力

單位 kg ＋……應壓力 －……應張力	材	鉛直荷重に依る應力		ドイツ規準			本委員會規準案			設計用應力の比
				風壓に依る應力		設計用應力 S_1	風壓に依る應力		設計用應力 S_2	S_2/S_1
四寸勾配の場合	1	＋	3750	－ 408	＋	3750	－ 1620	＋	3750	
	2	＋	3200		＋	3200	－ 1445	＋	3200	
	3	＋	2700	－ 463	＋	2700	－ 1240	＋	2700	
	4	＋	2200		＋	2200	－ 1045	＋	2200	
	5	＋	3750	－ 1000	＋	3750	－ 1620	＋	3750	
	6	＋	3200		＋	3200	－ 1445	＋	3200	
	7	＋	2700	－ 620	＋	2700	－ 1240	＋	2700	
	8	＋	2200		＋	2200	－ 1045	＋	2200	
	9	－	3500	＋ 222	－	3500	＋ 1470	－	3500	
	10	－	2950		－	2950	＋ 1230	－	2950	
	11	－	2500	＋ 278	－	2500	＋ 980	－	2500	
	12	－	3500	＋ 1045	－	3500	＋ 1470	－	3500	
	13	－	2950		－	2950	＋ 1230	－	2950	
	14	－	2500	＋ 565	－	2500	＋ 980	－	2500	
	15	＋	550	＋ 28	＋	**578**	－ 259	＋	550	0.952
	16	＋	700	＋ 37	＋	**737**	－ 333	＋	700	0.950
	17	＋	800	＋ 46	＋	**846**	－ 398	＋	800	0.945
	18	＋	550	－ 264	＋	550	－ 264	＋	550	
	19	＋	700	－ 324	＋	700	－ 324	＋	700	
	20	＋	800	－ 393	＋	800	－ 393	＋	800	

	21	−	250	−	9	**−**	**259**	+	111	− 250	0.966
	22	−	400	−	28	**−**	**428**	+	204	− 400	0.934
	23	−	1200	+	259	−	1200	+	600	− 1200	
	24	−	250	+	102	−	250	+	102	− 250	
	25	−	400	+	204	−	400	+	204	− 400	
	V_2	+	1600	−	463	+	1600	−	685	+ 1600	
	V_2	+	1600	−	139	+	1600	−	685	+ 1600	
	H		0	−	157	−	157		0	0	
五	1	+	3150	−	193	+	3150	−	1345	+ 3150	
	2	+	2700			+	2700	−	1200	+ 2700	
	3	+	2250	−	289	+	2250	−	1055	+ 2250	
	4	+	1805			+	1805	−	912	+ 1805	
	5	+	3150	−	724	+	3150	−	1345	+ 3150	
	6	+	2700			+	2700	−	1200	+ 2700	
寸	7	+	2250	−	415	+	2250	−	1055	+ 2250	
	8	+	1805			+	1805	−	9123	+ 1805	
	9	−	2780	−	10	**−**	**2790**	+	1162	− 2780	0.997
	10	−	2370			−	2370	+	945	− 2370	
勾	11	−	1975	+	106	−	1975	+	730	− 1975	
	12	−	2780	+	840	−	2780	+	1162	− 2780	
	13	−	2370			−	2370	+	945	− 2370	
配	14	−	1975	+	406	−	1975	+	730	− 1975	
	15	+	450	+	77	**+**	**527**	−	240	+ 450	0.855
	16	+	600	+	96	**+**	**696**	−	336	+ 600	0.863
ノ	17	+	750	+	135	**+**	**885**	−	384	+ 750	0.848
	18	+	450	−	240	+	450	−	240	+ 450	
	19	+	600	−	323	+	600	−	323	+ 600	
	20	+	750	−	384	+	750	−	384	+ 750	
場	21	−	240	−	39	**+**	**279**	+	106	− 240	0.861
	22	−	400	−	68	**+**	**468**	+	211	− 400	0.855
	23	−	1200	+	213	+	1200	+	643	− 1200	
	24	−	240	+	105	+	240	+	105	− 240	
合	25	−	400	+	211	+	400	+	211	− 400	
	V_1	+	1600	−	406	+	1600	−	691	+ 1600	
	V_2	+	1600	−	68	+	1000	−	691	+ 1600	
	H		0	−	227	−	227		0	0	

均値の最大を以て取扱はるべきものである。

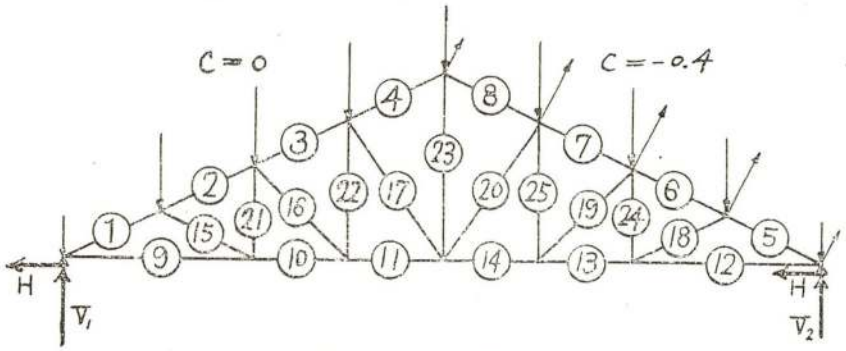
而してロビンソン風力計による廿分間平均風速とダインス風壓計に依る瞬間最大風速との關係は

$V_D = K.V_r$ となる。

Kは各地の平均として大約1,5內外となる。一方風の息は地形によつても大いに異るが

第2表　風上屋根面の風壓零と假定せる場合の設計用應力

$p=C.q.$　　$q=76.56\text{kg/m}^2$



スパン=15m　　トラス間隔=3m　　屋根勾配=5寸

風速=35m/sec　　鉛直荷重72.7kg/m²　　＋……應壓力　　－……應張力

材	鉛直荷重に依る應力(kg)		風壓に依る應力(kg)		設計用應力(kg)	
1	＋	3150			＋	3150
2	＋	2700	－	490	＋	2700
3	＋	2250			＋	2250
4	＋	1805			＋	1805
5	＋	3150	－	864	＋	3150
6	＋	2700	－	706	＋	2700
7	＋	2250	－	566	＋	2250
8	＋	1805	－	422	＋	1805
9	－	2780			－	2780
10	－	2370	＋	264	－	2370
11	－	1975			－	1975
12	－	2780	＋	897	－	2780
13	－	2370	＋	682	－	2370
14	－	1975	＋	466	－	1975
15	＋	450		0	＋	450
16	＋	600		0	＋	600
17	＋	750		0	＋	750
18	＋	450	－	240	＋	450
19	＋	600	－	323	＋	600
20	＋	750	－	384	＋	750
21	－	240		0	－	240
22	－	400		0	－	400
23	－	1200	＋	326	－	1200
24	－	240	＋	105	－	240
25	－	400	＋	211	－	400
V_1	＋	1600	－	211	＋	1600
V_2	＋	1600	－	470	＋	1600
H		0		173		173

風速によつても變化し風速の增大に伴つて次第に短時間となるその値は下表の程度である

公稱風速	2 m/sec 以內	5 m/sec 程度	10 m/sec 以上
息の周期	30 ～ 200 sec	20 sec 位	10 sec 內外

依つて10秒程度と假定すれば瞬間最大風速よりは10～20%程度減少すべく尙地表面の狀態や地勢により風速の分布は非常に異り、例へば大阪附近の風速の比としては南西風が强い場合には下表の程度となる。

位置	風速比
中央氣象臺大阪支臺（勝山通9丁目）	1.0
港門（燈臺附近）	2.7
木津川尻飛行場	1.7
鶴町海岸	1.9
堂島	1.1
但し風速は觀測値を高さ10mのものに換算してある。	

依つて上記の事情を參酌し一方現行の强度計算が安全率に關して幾多の不合理を藏する所の許容强度を用ひる方式たることに思を致し、且現在迄の慣行をも考慮し、一般に公稱風速の1.3倍を最低とすることに定めたのである。

又周圍の狀況が特別風速輕減に有利な場合を除き一般に高さの高い建物では次の如き理由から風速增加係數を考慮すべきものである。

一般に風速の高さに依る變化は地面の狀況により大いに異なるものであるが理論及實驗に基づいて大體次の如き算式を得る。

$$\frac{U(z_1)}{U(z_2)} = \sqrt[\alpha]{\frac{z_1}{z_2}}$$

茲に $U(z_1)$……高さz_1の位置に於ける風速

$U(z_2)$……高さz_2の位置に於ける風速

α ……常數にて2～4位に變化する

此の式は數拾乃至數百米の範圍に當嵌るものである。但し地上五米內以の風速は1米位迄は變化が少いが1米以下に於ては急激に減少するものである。但し水面の如き場合は別で此の變化はなく、又市街地の如く建物の櫛比する場所に於ては建物の平均高の如きものが地表と考へられる。

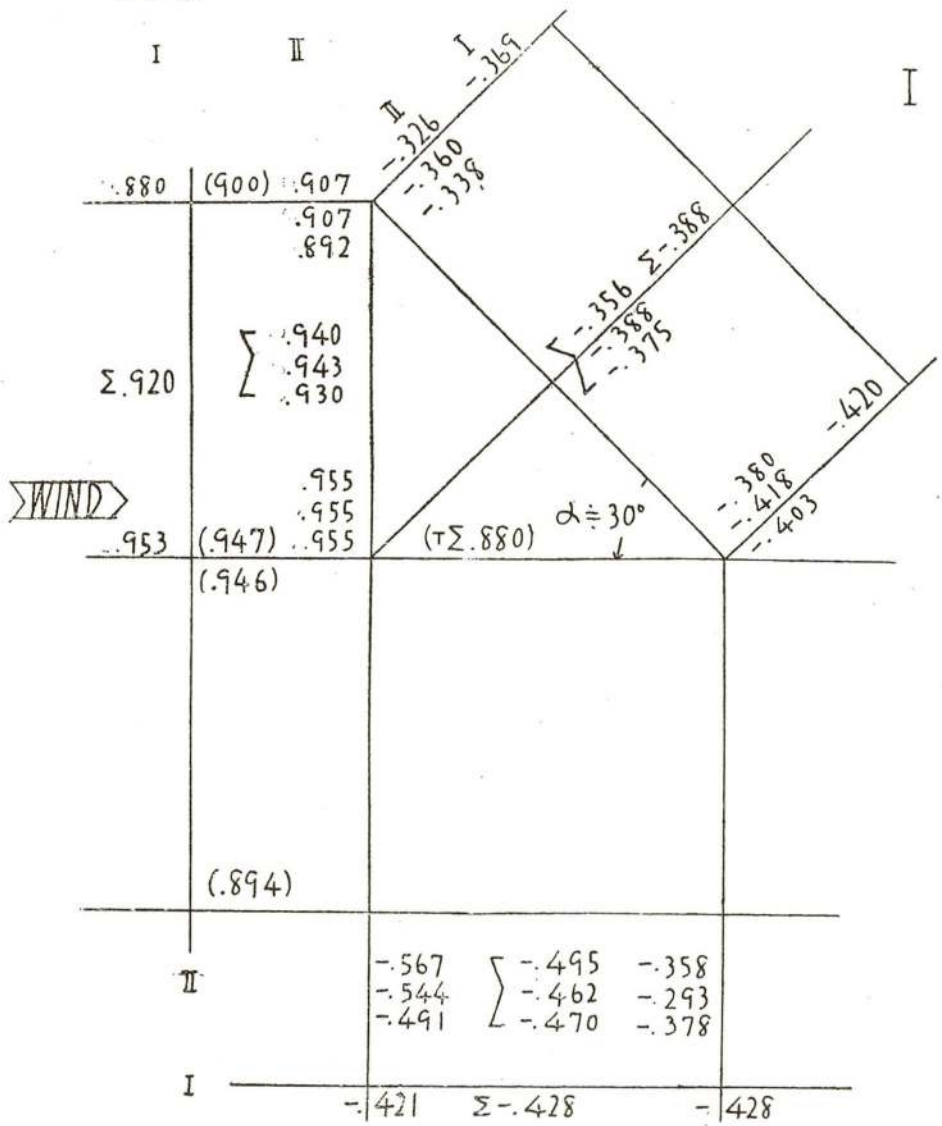
今$U(z_2)$を高さ10～20mの風速に採り

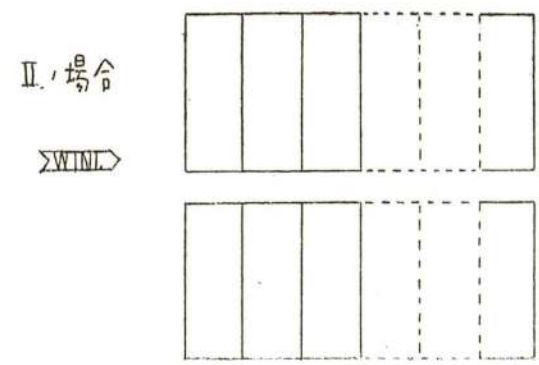
$$m \equiv \frac{U(z_1)}{U(z_2)} \equiv \text{風速增加係數}$$

とすれば、mは次表の通りとなる。

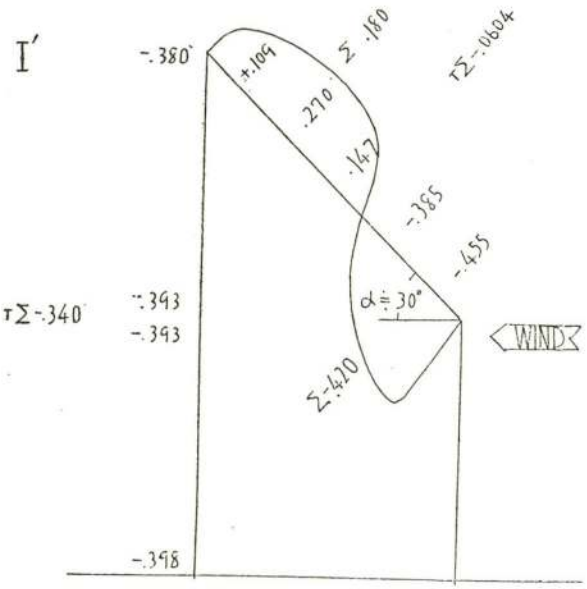
地盤面上の高さZ（m）	10m 以上 20m 以下の部分	30m 以下の部分	40m 以下の部分	50m 以下の部分	60m 以下の部分	70m 以下の部分	80m 以下の部分	90m 以下の部分	100 m 以下の部分
增加係數m	1.10	1.25	1.35	1.42	1.48	1.53	1.56	1.58	1.60

第二圖

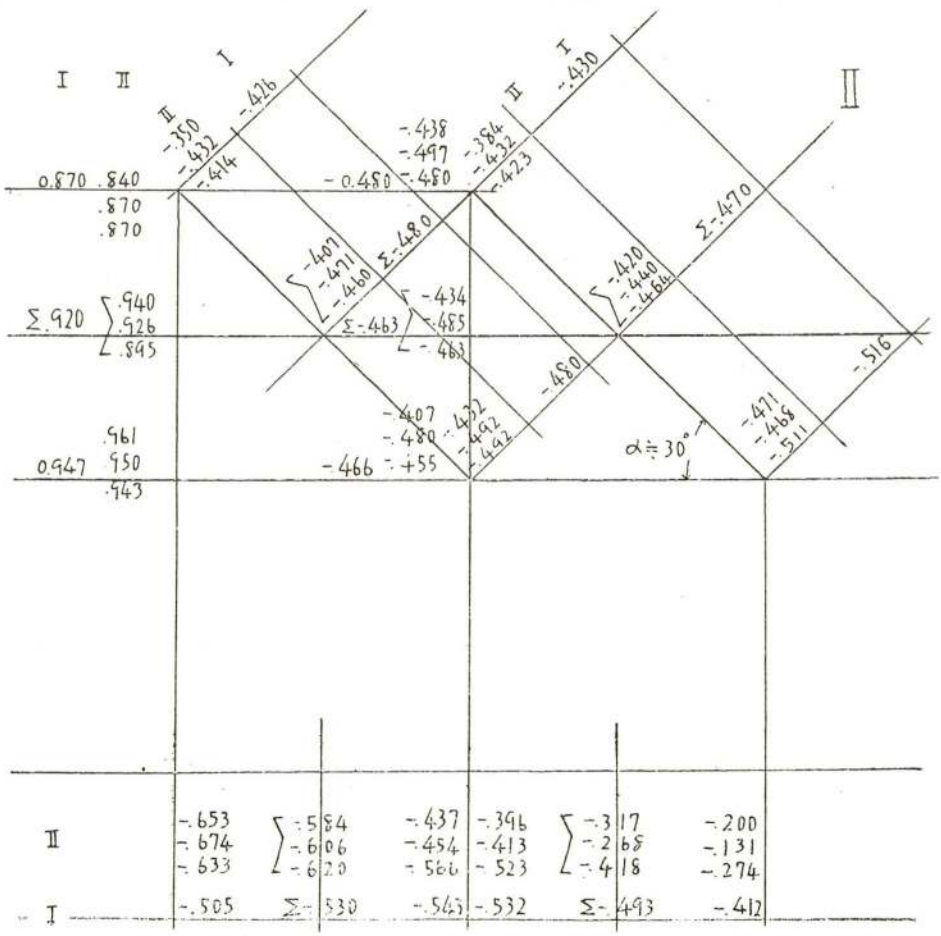


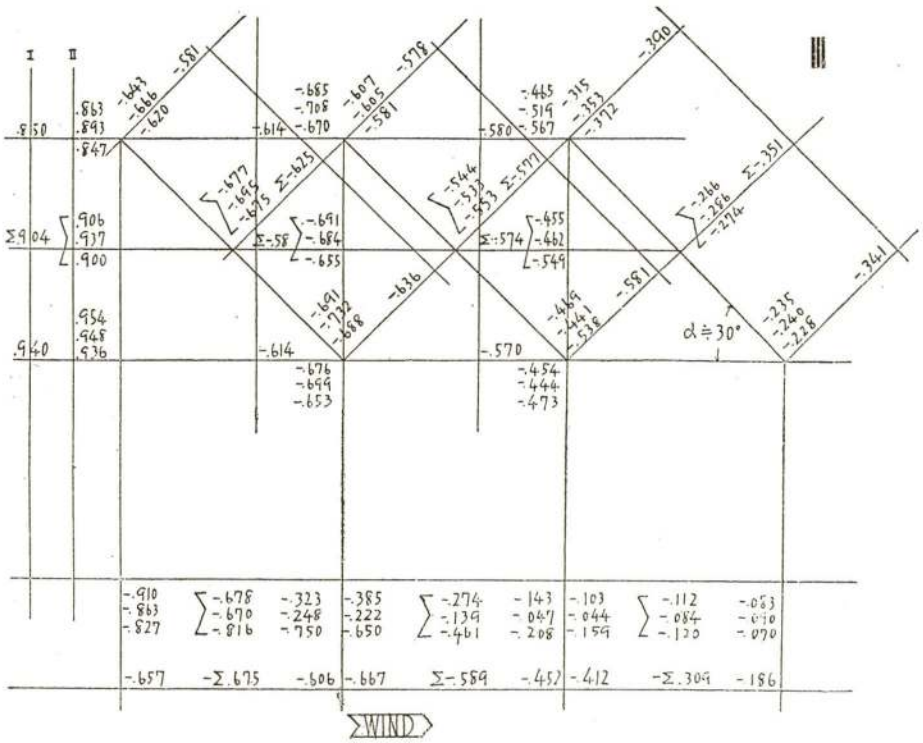


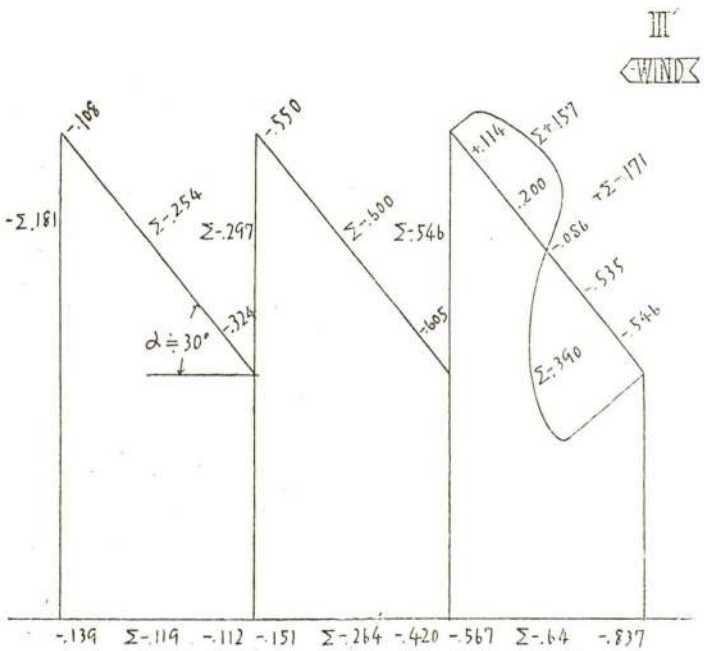
茲ニ　I……單獨
II……風向ニ皆行ヲ直角ニ互ニ並列ニ置カレタル場合ニシテ列間隔總高 h ノ夫々0.75倍、1.00倍、1.22倍トス。
(　)……單獨列ノ場合ノ前面總風壓ヲ示ス。

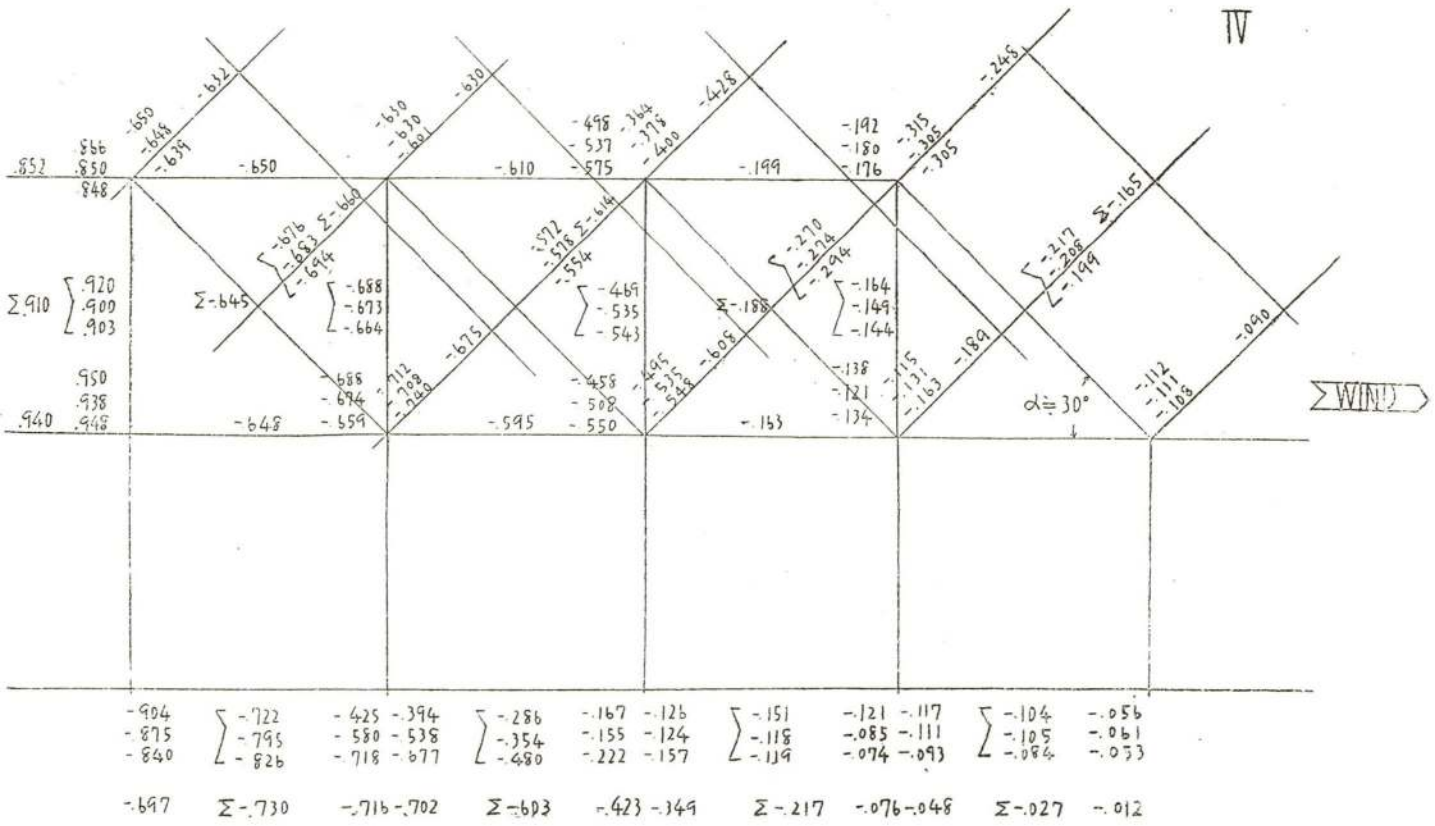


茲＝ τΣ……其全體面ノ平均風壓

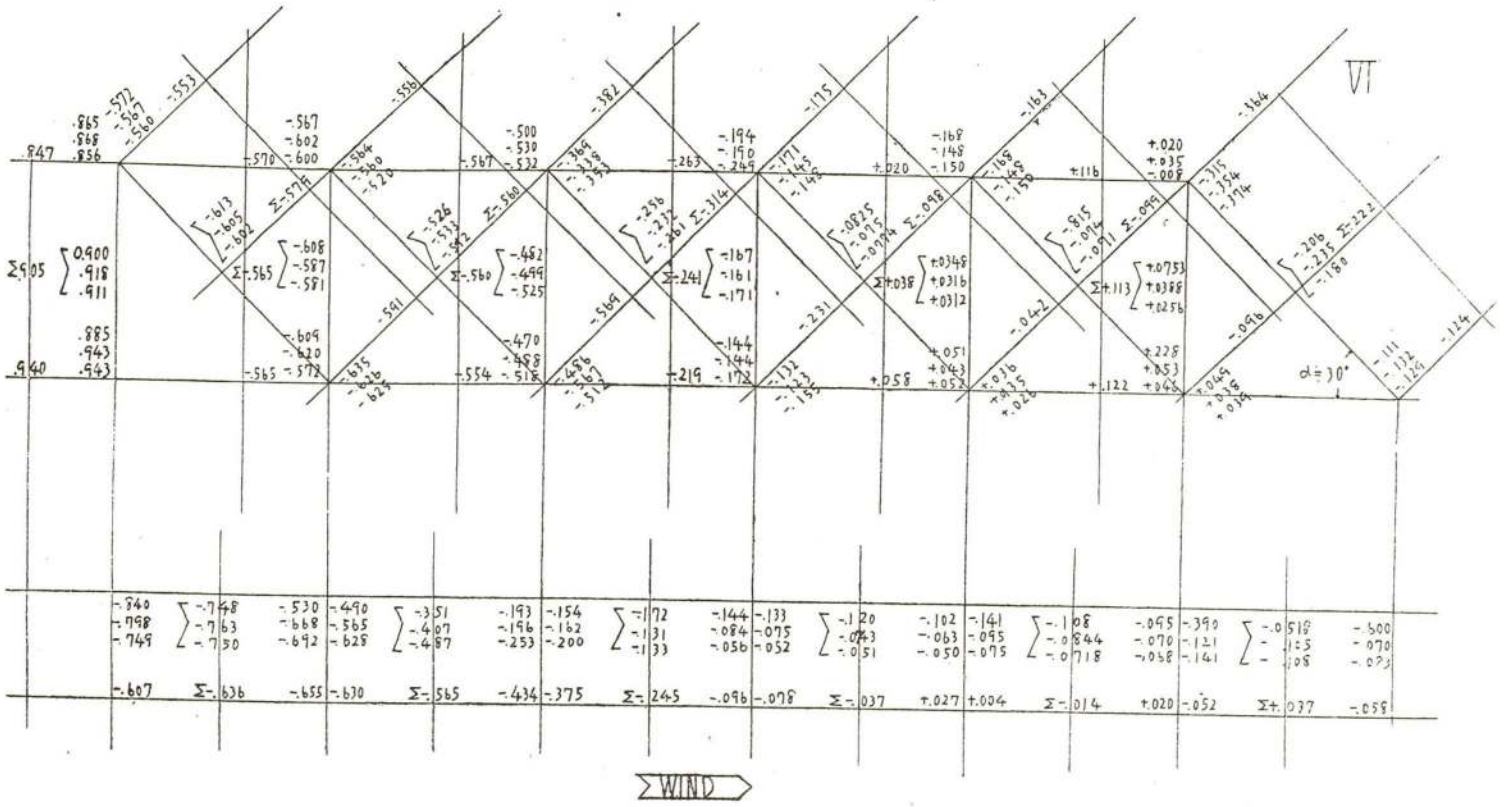


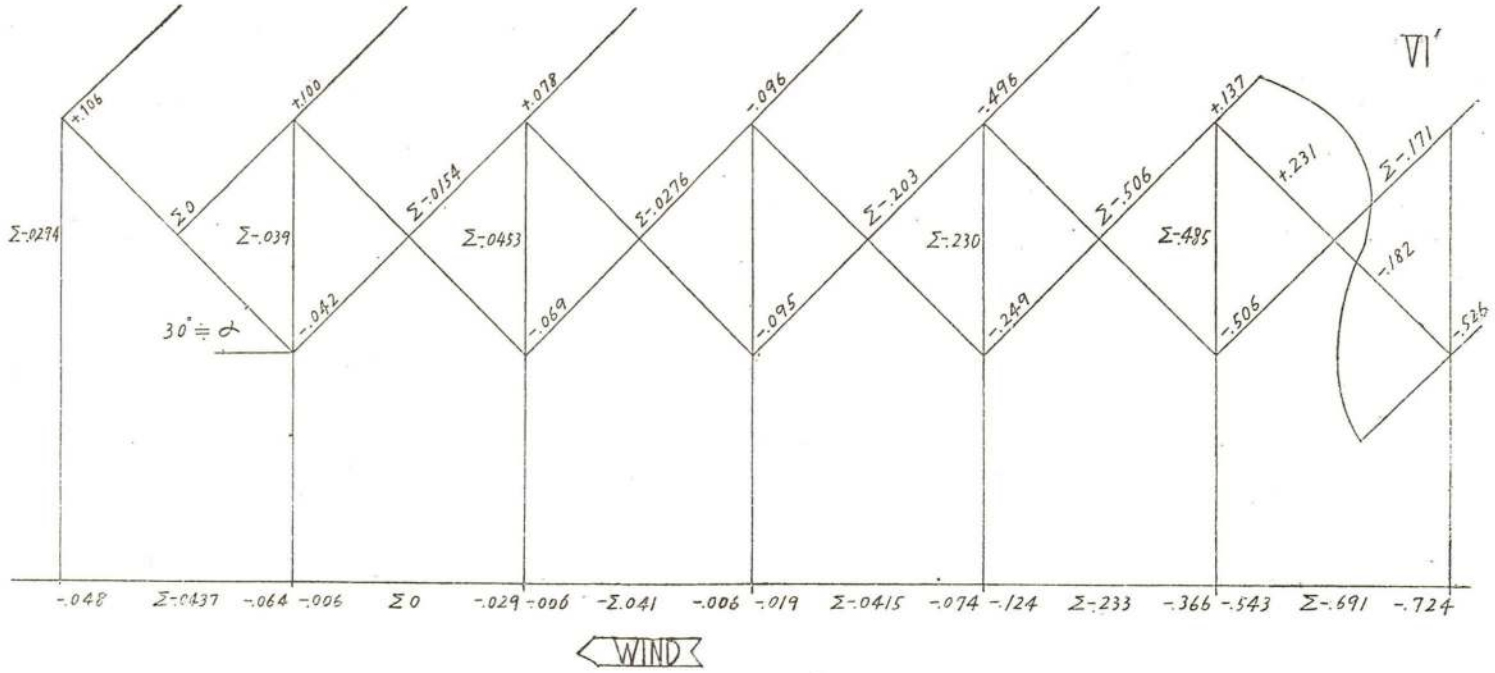

I
II
III
.850
.863
.893
.847
.906
.937
.900
Σ.904
.954
.948
.936
.940
-.643
-.686
-.620
-.581
-.685
-.708
-.670
-.607
-.605
-.581
-.578
+.614
-.614
-.691
-.732
-.688
-.636
-.676
-.699
-.653
-.465
-.519
-.567
-.580
-.570
-.454
-.444
-.473
-.315
-.353
-.372
-.340
-.235
-.240
-.228
-.341
-.469
-.441
-.538
-.581
α ≒ 30°
-.910
-.863
-.827
-.657
-.678
-.670
-.816
-Σ.675
-.323
-.248
-.750
-.606
-.385
-.222
-.650
-.667
-.274
-.139
-.461
Σ-.589
-.143
-.047
-.208
-.452
-.103
-.044
-.159
-.412
-.112
-.084
-.120
-Σ.309
-.083
-.070
-.186
WIND


III'
WIND
-.108
-.550
+.114
Σ+.157
-Σ.181
Σ-.254
Σ-.297
Σ-.500
Σ-.546
+.200
+Σ-.171
-.056
-.535
-.546
-.324
-.605
α ≒ 30°
Σ-.390
-.139
Σ-.119
-.112
-.151
Σ-.264
-.420
-.567
Σ-.64
-.837


IV
WIND
α ≒ 30°

V
ΣWIND
α=30°


VI
WIND


VI'
+.106
+.100
+.078
-.096
-.496
+.137
+.231
Σ-.171
Σ-.0274
≤0
Σ-.039
Σ-.0154
Σ-.0453
Σ-.0276
Σ-.203
Σ-.230
Σ-.506
Σ-.485
-.182
30° ≒ α
-.042
-.069
-.095
-.249
-.506
-.526
-.048
Σ-.0437
-.064
-.006
Σ0
-.029
-.006
-Σ.041
-.006
-.019
Σ-.0415
-.074
-.124
Σ-.233
-.366
-.543
Σ-.691
-.724
WIND

謝辭 本研究に關しては大阪帝國大學教授小谷寛之亮氏及中央氣象臺大阪支臺長理學博士和達清夫氏に多大の御援助を仰いだ。記して以て深甚なる謝意を表する。

昭和11年度災害强度委員會委員 (五十音順)

(○印風壓小委員)

竹中工務店
青柳貞世

長谷部竹腰建築事務所
池田宮彦

大阪府建築課
景山正明

兵庫縣建築課
○菅陸二

出征中
谷隆夫

神奈川縣建築課
○中井新一郎

大阪府建築課
長尾清一

竹中工務店
日野勝好

西野田職工學校
堀口甚吉

海軍技師
○山田誠

大阪府建築課
○淺野新一

川西航空機株式會社
大隅武夫

大林組
○黒田茂

松尾橋梁株式會社
關場茂樹

出征中
恒岡俊行

陸軍技師
中島智喜

大阪府建築課
西島勇

大阪府建築課
○平野忠雄

都島工業學校
益尾辰雄

大林組
渡部圭吾

松尾橋梁株式會社
淺井郁爾

大林組
河田明雄

中川石川建築事務所
熊野米雄

大阪市建設課
竹花末春

兵庫縣警防課
內藤亮一

大阪府建築課
中野吉彌

大阪府建築課
後出清範

兵庫縣建築課
藤田靜雄

大林組
矢田鐵藏



☆ 恒例建築協會倶樂部室 秋期見學會概記 ☆

恒年に依る建築倶樂部室主催の秋季見學と親睦會は鈴木幹事長以下再三會合して漸く決つたのが洛北の秋色を探りつゝ古典的存在とも云ふべき有名な北山丸太の植林狀態と枝打實況を見學することになつて過る十一月十二日の日曜を利して午前九時四十分に京都驛に集合規定時刻30分前に行つて見ると大和、戸川兩職員の愁ひ顏無理からん哉



1.（北垣氏撮影）

思つたより以上の 100名と云ふ申込で正直に告白すると協會からの補助金には限りがあり會費は3圓だが交通費から宴會費お負けに案内狀の印刷費や通信費迄一切の費用がこの内に含まれて居るのだから參加者が多い程收入が增えるのが原則だがその代り赤字も增えるので大藏者は苦しくなる。

それに今一つ心配はバスの問題で營營のことだから規定から云へば定刻に1輛宛しか出さないのが原則で普通バスに比べて大きいとは云へ1輛50名も乘れるのが瀨の山この難問題を如何に解決するか兎に角大和書記長が交涉委員となつて當ることになつた。

大和君どう口說き落したか乘車場外の車庫前に二臺つけてくれたのにはホツトした勿論滿員壽司詰乍ら一行は京都驛をあとにしたお蔭で驛前停留場に待つ一行外の乘客こそ好い面の皮定めし今時分は揉めてゐるだらうと斯んことを思つてる間にバスは二條驛も無停車で周山街道を洛北高尾に着

3.（北垣氏撮影）



くこれに加ふるに梅尾、楓尾で天下に名高い三尾の紅

2.（井田氏撮影）

葉、常盤木の綠濃き中に眞紅に燃ゆる紅葉、京洛の秋はまさに酣である。

右側に座席を占めてゐた**池田實氏**

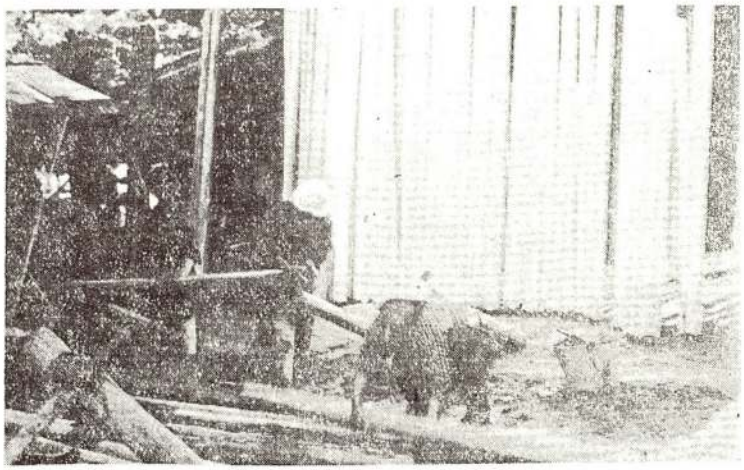
例によつて車中漫談のトップを切る立ん棒の吊皮連に阻まれて右側が見えん左側の連中に絶景だ絶景だと羨しがせることこと、カーブを廻ると右側の連中も負けてゐないでやり返す、この處淨瑠璃の野崎詣りや、大淀の30石と云つた調子、出發以來18粁を走つて目的の葛野郡中川村に着く。

過ぐる水害で一部を殘して**流失した小學校の工事場（寫眞2參照）**に臨時急設の古い天井板と丸太で造つたテーブルに小學生用の長い腰掛といふ戰場型の露天食堂**モンペイ姿の北山娘（寫眞3參照）**の運ぶ茶菓にバスの疲れを慰安された氣持ち。

幹事長鈴木氏の紹介で中川村々長山本末治氏の北山丸太に就ての長講を拜聽する講演中から拔萃して見ると北山丸太は1,000年の歷史を持つてゐるといふことであるが50年前に村の7割が火災に遭ひその10年後には再度の火災で3割萬家を燒失した爲め村には記錄がないが京都府歷史に由ると 1,100年前桓武天皇の御代に建てられた建築に北山丸太を使用されて居ると云ふことである。

北山丸太（寫眞4參照）の特徵は眞直である、正圓である。

本末殆んど大小なし、無節、木肌の緻密、純白で光澤がある。細くても年數を經て居る結果龜裂を生ぜず、色は永く褪色することなし等が重寶がられる理由である。



4.（久保田氏撮影）

この優秀材は土地柄や地形によつてのみ出來るのではなく、一に造林技能によるもので從つて技術の巧拙と細密なる注意及び手入れの如何によつて優劣が決るのである。

造　林　の　苦　心

植林に就ては先づ二樣に觀て好かろう。

一般杉は種子を以て苗木とするが北山丸太は苗木挿芽によつて育てるのと臺木の枝を育てるのとの二種になつて居る。（寫眞5參照）

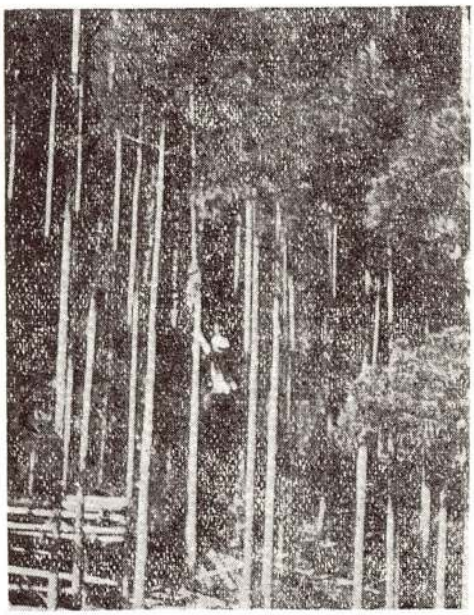
北山丸太は白杉であつてその種は本白、峰山白鬼灯白、外に芝原と稱す特殊杉あり、右各種の特色は省略するも苗木は樹液流動を初めたる5月初旬に挿し2年間其儘培養して山出と爲し、生育旺盛なる枝より長さ一尺位に伐り採り上部五六寸位の枝だけ殘し他はもぎ取り、根本1寸位を削り赤土粘土を卷き苗圃地へ挿植し水を施し日覆をかける。この苗木の選擇を誤つたら折角30年から100年も育てた木が役に立たん駄木となる。

苗木は苗圃地より山地に移植するのであるが、時季は3月の初めから20日間の短期間が最も好時季で1町歩當り4.500本としてある新植後4.5年間は6月と8月の2回に下刈し其の後5.6年は每年7月下刈を行ひ其後は隔年が枝打に當る年の前年に行ふ。但し垂木は成林後永久隔年に行ふことを原則として居る。

この外注意すべき事項は5項目による規則的になてつ居る1例に刈拂ひたる雜草等は苗木の肥料とする等等。

名物の一となつて居る枝打（寫眞6參照）こそは育成中最も林業上に重視されて居る從つてこの枝打技術は全國に有名で本見學もこの枝打實況が主旨である通り、枝打作業こそ北山丸太の生命であり、製品の優劣もこの技術により從つて技術者の選定こそ**根本的問題**である。前述の特徵こそこの枝打如何によつて生れるのである。

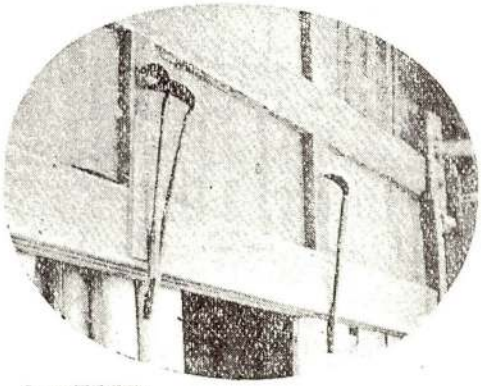
枝打は3月中旬より5月中旬までと 7.8.9.10.の5ヶ月間に定められて**梅雨期**は絕對に禁じられて



5.（岩尾氏撮影）



6.（井田氏撮影）



7.（井田氏撮影）

居る、と云ふのは切口から腐蝕する憂ひあるからである。枝打に就ては**15項目**が規則的に定められて居るが省略するもこの枝打は垂木にあつては梯子を掛けて**両刃の草刈鎌**（寫眞7參照）（京都に北山丸太用の專門鍛冶あり）を用ひこの鎌は**髯剃**りが出來ると云ふからその**鋭利**なるは想像される。

この鎌を1時間毎に規則的に研ぎ直して用ひることになつて居る。丸太は梯子もなく樹上に昇り鉈を用ひ樹から樹に猿の様に渡り樹上から**1時間**せねば絶對に下りないことになつて居る。世間で有名なのは垂木枝打でなくこの丸太枝打である。

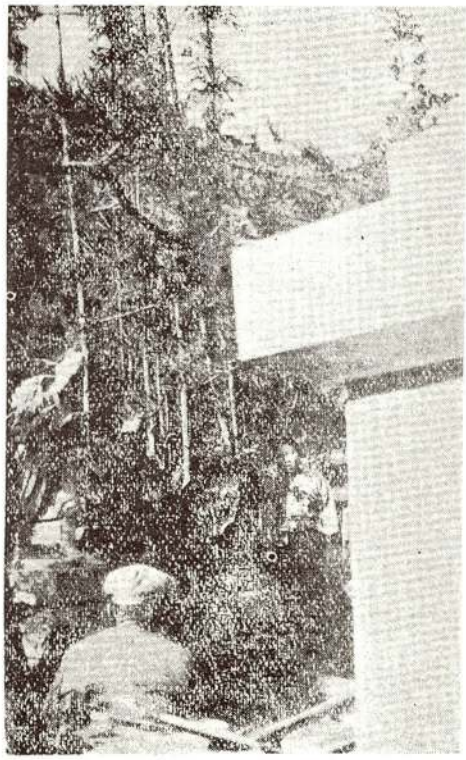
この枝打が1人前になるのには**10年**の修業を要すと云ふも一にその人格が尊重され愼重な氣持で打損ひをするとか枝を外れて樹に傷を入れる様な事があつた場合には忽ちにして劣材となり例ば人格の秀れた熟練者が高さ1間まで育てたその後を未熟者が不親切に手入れした場合にはその受次ぎ場所の下部は優秀で上部から曲り或は**節**や**コブ**が出來ると云つた譯で前記の**15規定**は絶對に尊守するは勿論木に對する親切と丁寧こそ缺く可からざることである、と。

杉丸太と云へば素人は直ぐ電柱を想像するであらうが筆者も無論その部類であつたが**奥尾**を過ぎて清瀧の清流に沿ふ兩山殆んど杉の密林なり、細くて亭々として長く然も殆んどが一寸に**先端のみに枝を持ち葉を持つ**その姿は嚴然たるものである。

丸太用挿木によつて1本立になつて居る林はさのみ感じないが根元は1株でありながら立枝は2.3本中には、7本も8本も、眞直に延びて出て居る様は北山にこそ見る**山姿**で紀南吉野杉の豪壯さと北山杉の瀟洒な山姿とは蓋し好き對照で恰も**武人と侍女**の好一對とでも云へやう。

30年から50年で徑直78寸から高さ5.6間はおろか10間もあらうと云ふ丸太用材のに**生長力**比して直徑2寸乃至3寸で高さ漸く2.3間の**垂木材は50年はおろか**100年、150年（寫眞8參照）を經て居ると聞かされこれが一に人工的造林法によつて斯くも隅りありと云ふは全く神技と稱す可きで、切口に見る渦巻の木目は1年に1筋宛增えて行くのであるが中心部程目が荒く外部に至る程、緻密で垂木用古木は全く**鑑眼鏡**を用ひざれば判定し難い。これによつても如何に古きかを物語るものと云へ

8.寫眞說明——1株から8本も出てゐる
150年以上と稱す垂木は木を摑んでゐる村の娘さんの手よりも細い。



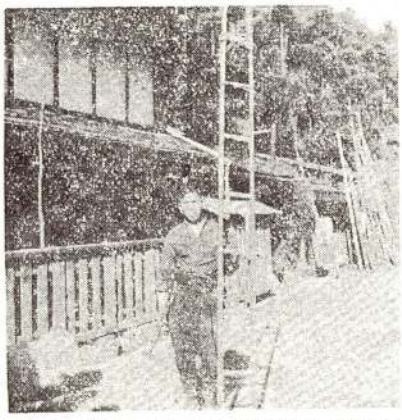
よう。

枝打實況を見る

村長に案内されて上の畑橋上から丸太の枝打實況を見るに50歳餘りの枝打士が猿の如くするすると長木に登り先端に近い樹上から並ぶ樹上に搖つては搖り搖り次へ次へと渡りつゝ枝打する樣は失禮乍ら正に猿技で實に鮮かなものである。

村長自らも（**寫眞9參照**）寫眞の樣に實演を見せて下つた事を感謝する。

聞けば16歳から數年間自ら枝打をしたと云ふ。この村の**素封家連**(**寫眞10參照**)は何れも山持ち山主であるが皆一樣に枝打をするとの事で無論村長も素封家の1人で然も現在**葛野郡町村會長**の榮職にある人。この村長にしてこの村人ありか枝を打ち**木を磨く**村人の**モンペイ姿**こそは眞面目で純朴



10. 枝打姿の美話をたくわえた村の素封家（杉原氏撮影）

さの表徴といへよう。斯くして育て上げた樹、垂木は若木で12年古木で50年位で伐り、丸太は30年から60年位で伐るが、直徑4寸內外で高さ30尺から40尺になつた場合は若木でも伐ることもある、伐採は**春伐り**と**秋伐り**に分ち春伐りは**3月25日よりの4月10日迄**を秋伐りは7月25日より9月中旬迄として居る。



9. 山田村長（中川氏撮影）

但し**丸太**は8月中旬より9月の30日迄を裏として居る、伐つた木は筵を以て木質に傷をつけない樣に皮剝をし垂木にありては五日間丸太は7日乃至10間枝付のまゝ立てかけて山で**乾燥**させるのである。この間に暴風雨があつた場合は忽ちにして**劣材**となるのである從つて吉の暴風雨季を避ける爲めに最もこれ等被害の少ない時期を選んで居るのであるが、この爲めに村人の天候を見ることは**海の漁夫**はおろか**氣象學者**も洗足しと云ふことである。

村長の言によれば暴風雨の爲めに毎年2.3**萬圓**の損害を被るとの事で本年の如き世間は**旱魃**でなげく雨無し年でも**5千圓の損害**があつたとの事である山出しした皮剝木は適宜の長さに切り**龜裂**を防ぐため材の中心から6分通り

まで**背割**をするのであるそして凡そ一ケ月間晝間は外に出して乾燥させ夜間や雨の日は納屋に入れるのである。

乾燥した木は1時間清水に漬け**乾燥中**に生じた輕微な**龜裂**の復舊を待つて山から採つた北山特産の**白砂**を以て**手で、ヂカ**に光澤の出る迄**磨き上げるのである**（**寫眞11參照**）

斯うして出來上つた丸木は茶室の丸垂木。竿緣。床柱。衝。長押。手摺り等の主として**裝飾箇所**に用ひられるのである。**値段**は柱用で高價なものになる1本**150圓**から**2.3百圓**もするのがある。

生產額1ケ年**20萬圓**內外と稱せられて居るが往年は販賣業者に好餌となるのと似た山丸太と混同され値段も亂賣に墜ちると云ふので8年前に是等を防止する爲め**13名の林業家**が集まつて資本金5萬圓の**北山丸太株式會社**を設立してその製品には之を證する爲め（北山丸太の證）のレッテルを貼つてゐる、似せ物との區別は素人には容易に判定し難いが年月が經つに從つて似せ物はは上物でも5ケ年位すれば**變色**するとのことである。

最後に北山丸太株式會社と製品を見學してモンペイ姿の社長吉田吉藏さんに（**寫眞12參照**）北山丸太のみに見る美くしい天然シボと人工シボや年數の識別法丸太や垂木の値段等實地の教育を受けて3時半北山丸太の見學を終る。

一行はバスを待合はして便乘するものもあつたが清瀧のせゝらぎに沿ふて三々伍々眺めあかぬ山村の秋色を愛で乍ら下つて行く。

途上3つ4つの幼子、一張羅の紋付姿の美婦氏はては腰のかがんだ老媼まで何れもきまつて腰にはモンペイ一行とすり違ふ度びに和やかな互に微笑みを交はして行く。陽は愛宕山に隱れんとし兩岸に佇立した山々には根元から7分通りまで同じ太さで先端のみに青い葉を持つ丸太杉や1本の株から數本も枝を出してる垂木丸太が林立してる中に眞紅な紅葉（**寫眞13參照**）や黃色い巨木が點在してる山姿は山水の名畵を見るやうである。丸太を滿載したトラックに砂埃を掛けられハンカチで顏を覆ひつゝ栂の尾に着く。茶で名高き高山寺の建札（栂の尾の絕景は寺院の庭にあり）についのせられて心許りの御賽錢を奉納し春の見學長野金剛寺の庭を想像しつゝ樣先に出て見ると是れは恐

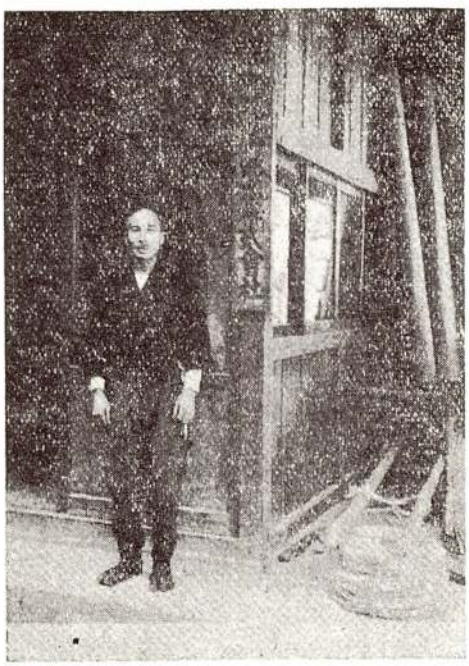


11.（井田氏撮影）

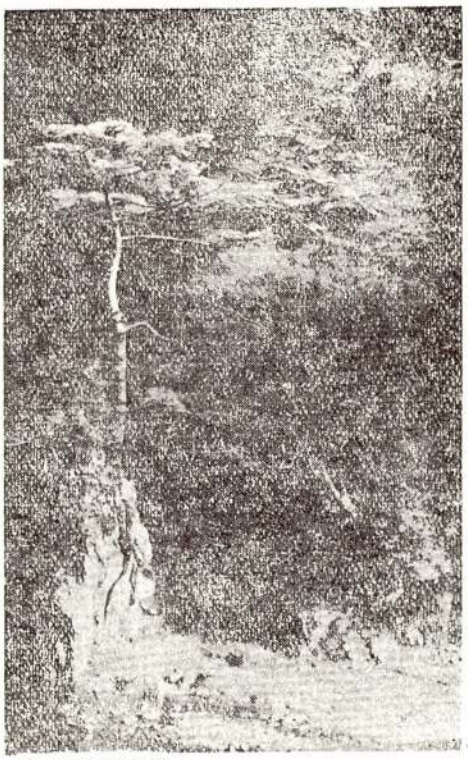
入つた。

庭の狭いこと受付子ユ建札の庭はと聞けば庭を通して向ふの景色を書いてあるんですよと見事な肩すかし氣の毒がつたか受付子建物は國寶ですよと付加へてくれた。(コロタイプ創始時代の巻物が参考になつた。)

高山寺上の茶庵を裏がら覗くと半分コンクリートの寶物庫か？知らんが妙なコントラストである高尾ユ列んでゐるタクシーの群れに京都行を交渉すると北野まで平常2圓位な賃金を7圓吳れと云うこれで統制が何處にあるんか、押合ひでバスの便をかり晩餐會場木屋町御地の料亭魚清に行く、加茂川の流れも東山三十六峰も月がないので眺め得ず規定の6時半會を開く。席順は前例に倣つト抽籤で決める位階勳等が末席になつて若い連中が床の間春季親睦會同様、前回は伊藤爲吉氏が最長老であつたがイトウミチヲ一行揃つて6人の愛兒が歸つて來てゐる關係か今回は妾を見す代つて登場が76歳の設計家で素人畵家の設樂眞雄先純白のつむりが特に目を引く。次に年順で云へば谷民藏氏池田實氏といつた處が御兩所にどちらが上かと聞



12. 會社玄關と吉田長社 (杉原氏撮影)



13. (久保田氏撮影)

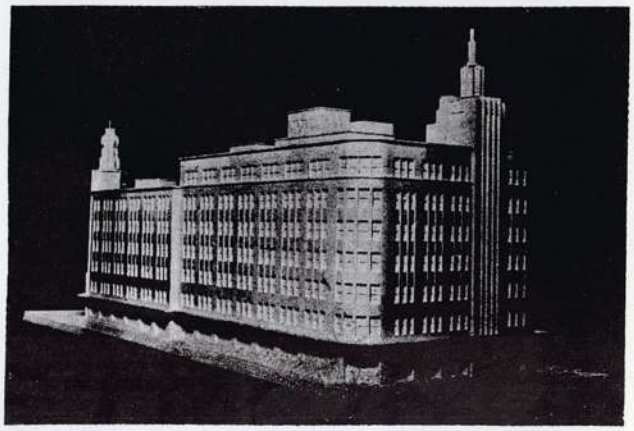
けば2 人共揃つて異口同音に判つちよるちやないか可愛そうなことを云ふて吳れるなと仰有る。

久方振りで京都市役所の三橋國太郎氏に遭ふ、昔の口癖で課長課長と連發すると君職制が變つてネと名刺を吳れる見ると京都市營繕部長と肩書が變つてゐた三浦幹事の挨拶に寔にお粗末でない袖が振れんので御辛棒をに、答へて上座の原田千歳君が一同を代表してではありません參加者の一員としてと數回繰返して後ち無い袖でこれ丈の饗應を受けるんだからある袖だつたら大變な御馳走が出るだらうと感謝して貰つた事は有難いが次の幹貰ひ有袖ばかりの人に代つて欲しいとつけ加へて貰ひたかつた。

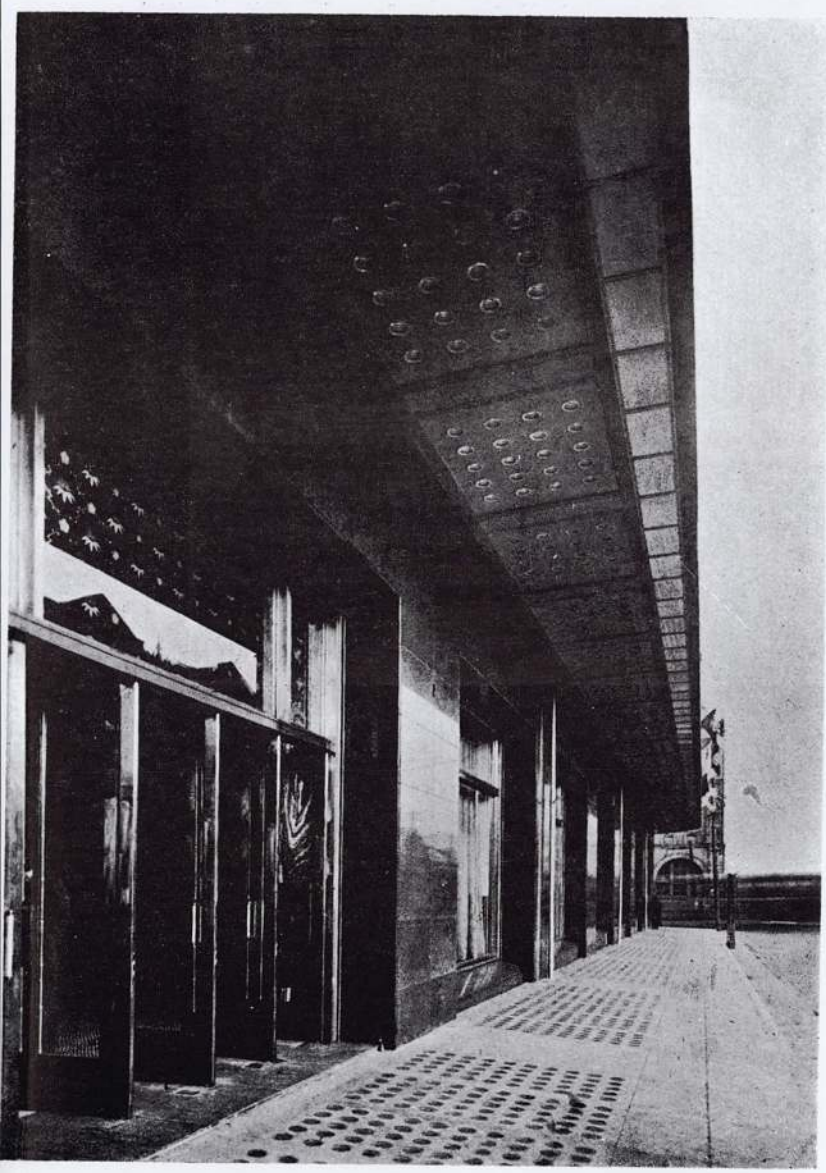
倶樂部室の幹事として何でも書けと云ふのでこんな駄文を寄稿して見た、建威ある建築と社會に載せる、のせんは編輯委員にお委せする。

終りに寫眞を寄せられた各位に感謝の意を表す

(倶樂部室幹事　高坂生)



將來計畫模型



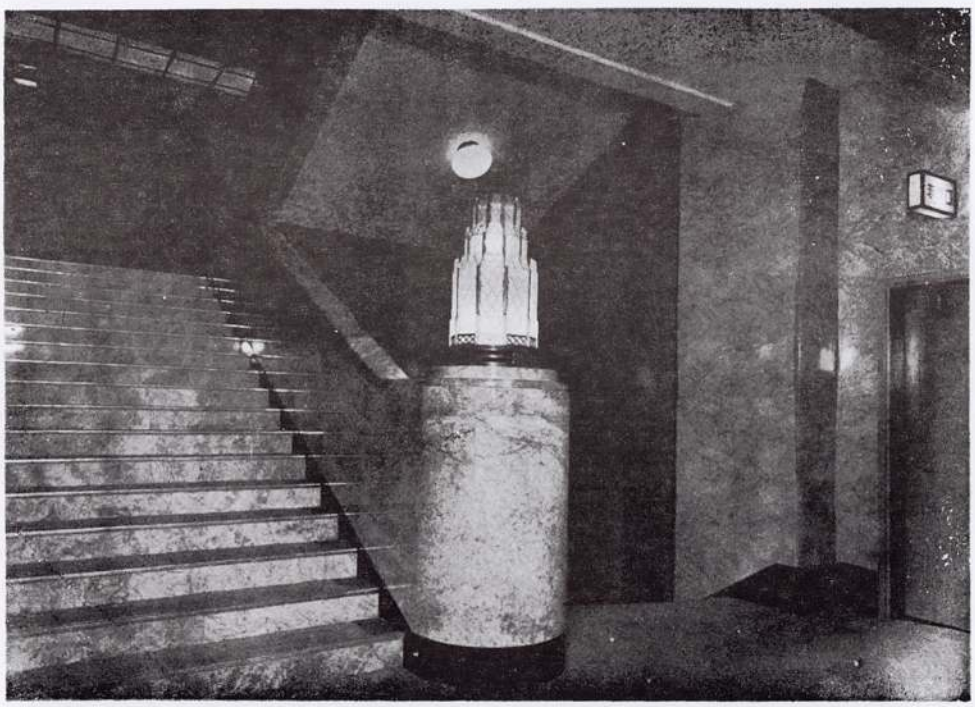
西側入口

1. 工事關係者
   設計監督　横河工務所
   工事施工　株式會社清水組
1. 建築建坪　462坪。地上2階　地下2階。延面積1750坪。軒高33尺7寸。將來7階建計畫
1. 昭和12年9月3日起工。昭和14年11月10日竣成。
1. 第2地階は電氣及機械室
   第1地階は賣場及事務室
   地上1階は賣場及事務室
   地上2階は賣場，事務室及書庫に區別す。
1. 鐵筋コンクリート耐震耐火構造にて外裝は1階福島產斫壁石，2階タイル。內裝は1階の柱，壁，床等全部大理石張。2階床は寄木。地下室人造石タイル張。防火上必要なる外部には「ステイールシヤツター」を設置す。
1. 避難設備
   各階より連絡ある非常階段を建物の外部に設置し又室內の客用階段及び店員用階段等全て避難設備を設けたり。
1. 防火設備
   「スプリンクラー」と町野式消火栓を設け，又消火栓は建物外にて市の消防「ポンプ」と連絡する「サイアミスコネクシヨン」を裝置。
1. 火災報知機
   店內各階に2ヶ所，又店內警防室と市消防署に迅速連絡す。
1. 電氣設備
   不慮の災害に備へ第1電氣室を地下2階に　第2電氣室を2階に設備。
1. 溫濕度調整設備
   各階に東洋キリア式溫濕度調整設備及換氣裝置を施す。
1. 鑿井設備
   鑿泉徑14吋，深さ400呎，2基涌出量各10.000石

（神戸）　三越新館　　設計　横川工務店　施工　清水組



一　階　賣　場

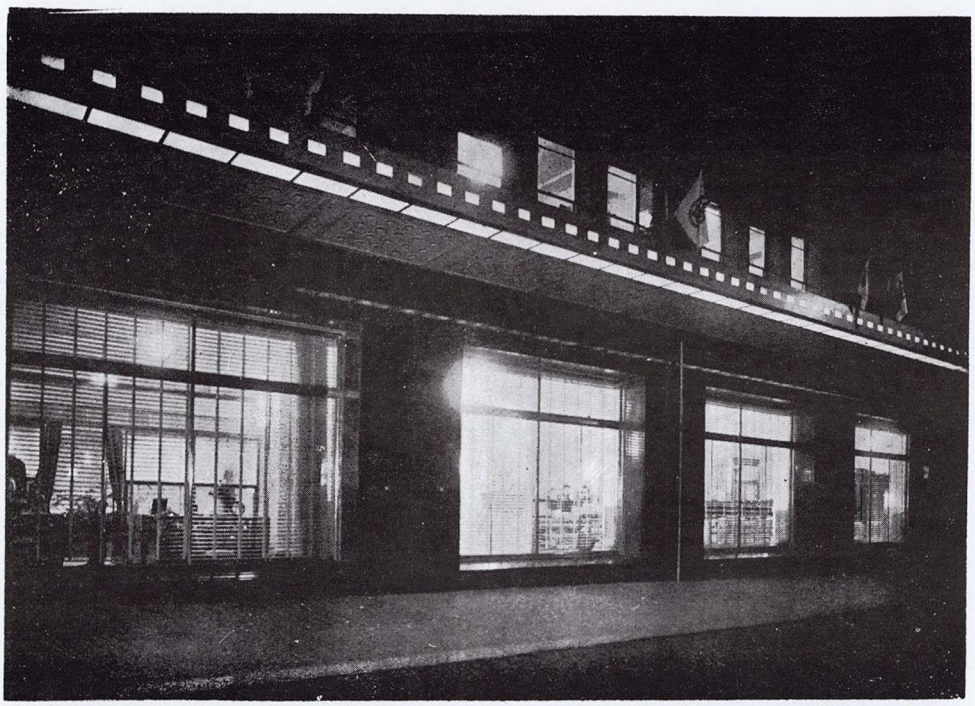


1 — 2 階段

(神戸)　三　越　新　館　　設計　横川工務店　施工　清　水　組

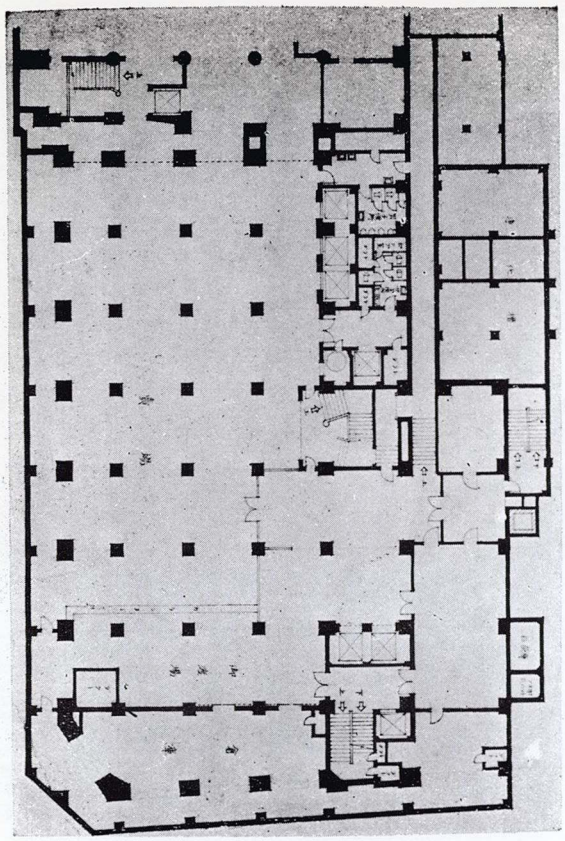


アーケード

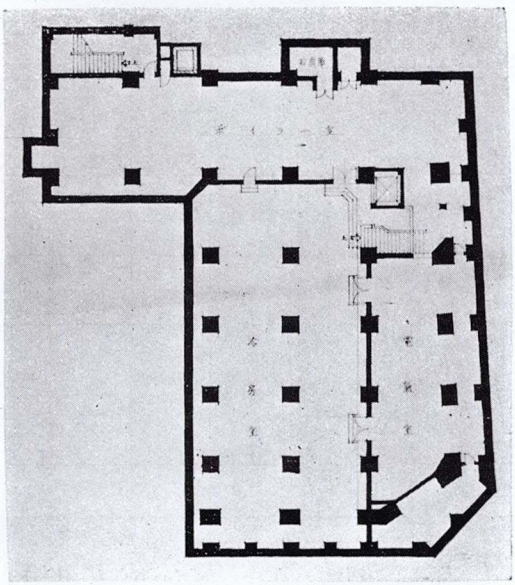


西側外観夜景

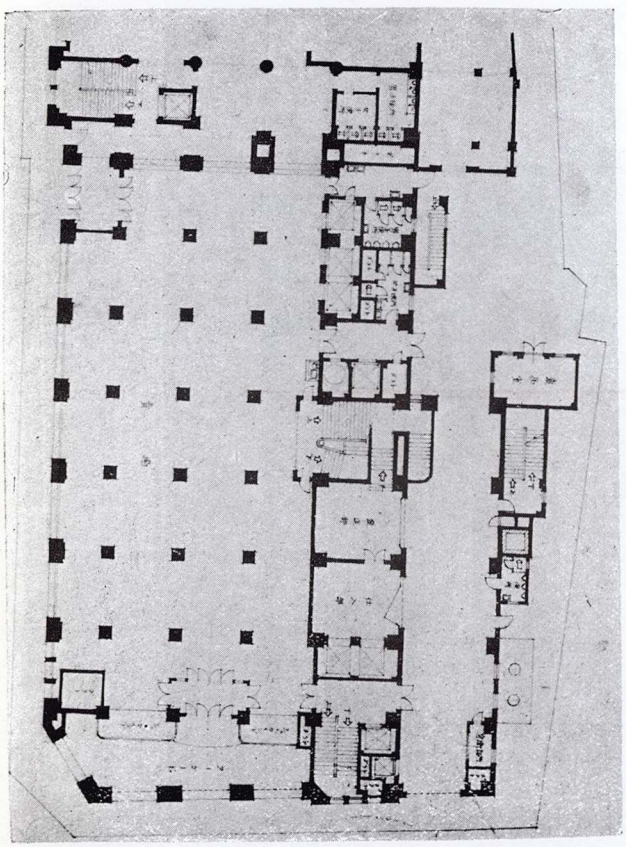
(神戸) 三越新館　　設計 横河工務店　施工 清水組



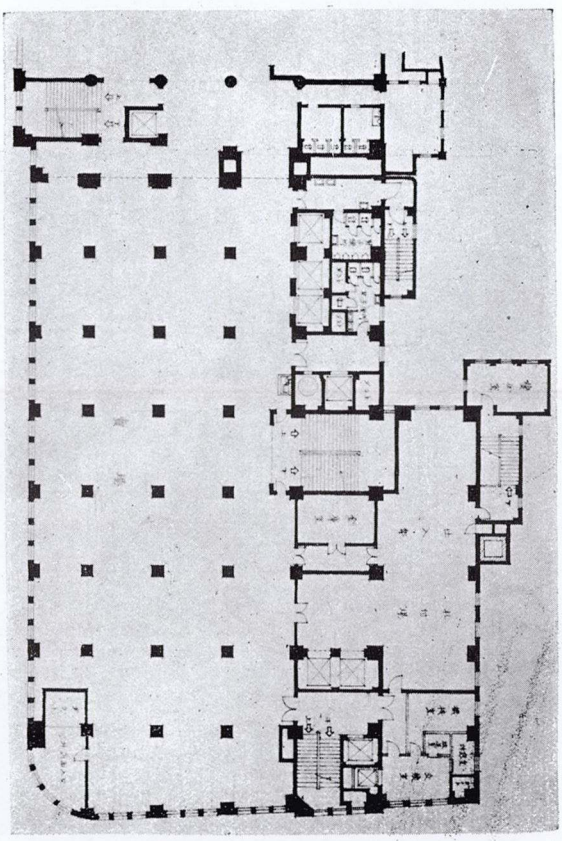
地下一階平面圖



地下二階平面圖



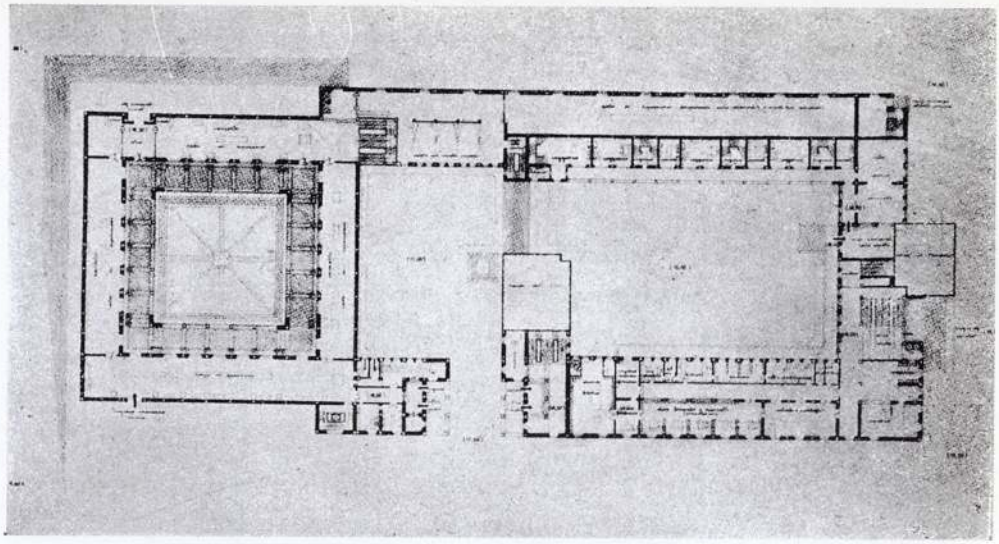
一面平面圖



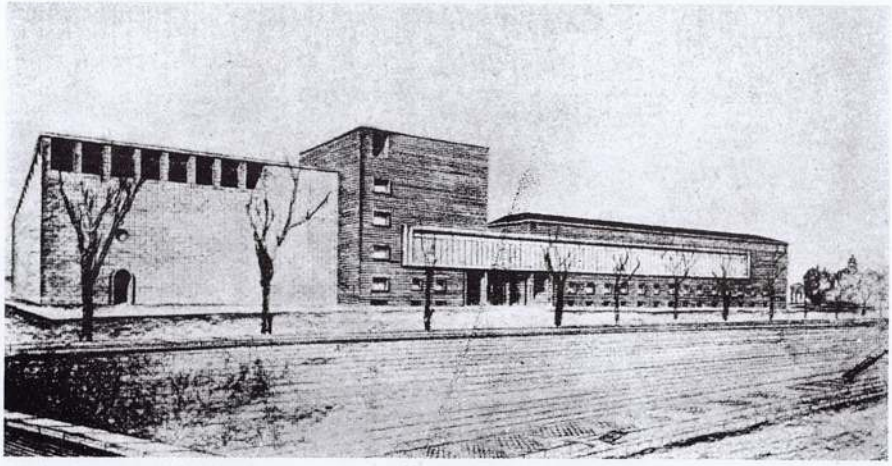
二階平面圖

(神戸) 三越新館　設計 横河工務店　施工 清水組

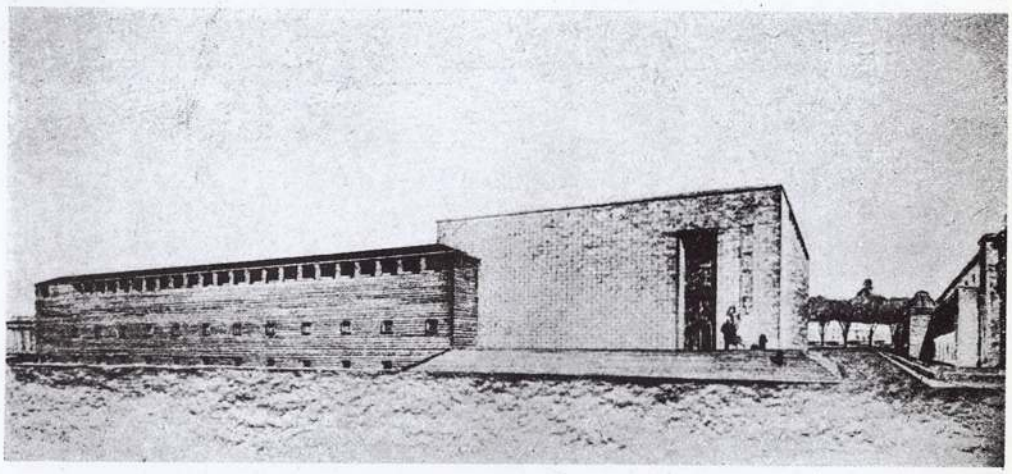
博物館と圖書館を併置する考古學研究所計畫建築家ルイヂ・チヤルリーニ　Luigi Ciarlini



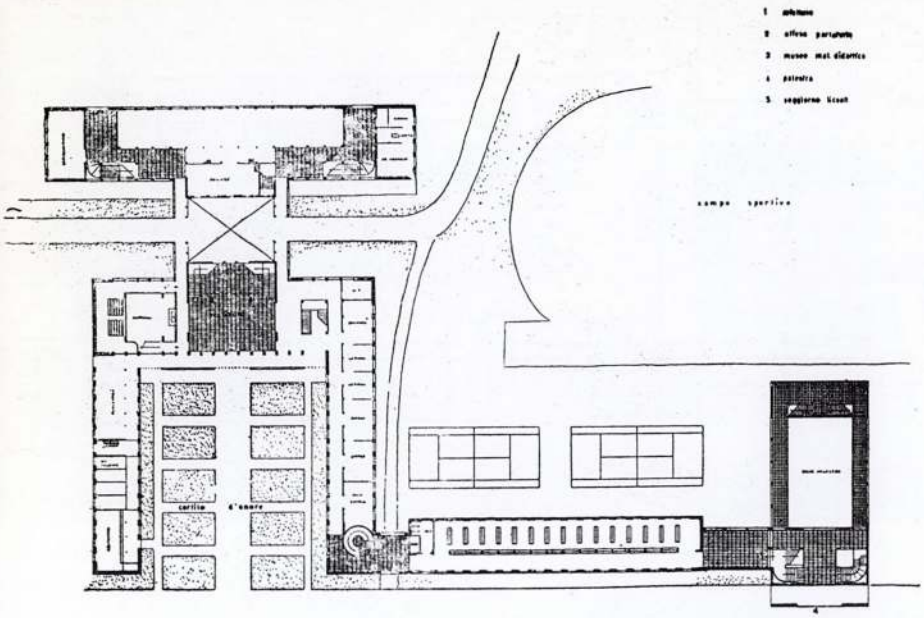
1・1 階平面圖



2・正面玄關透視圖



3・背面透視圖

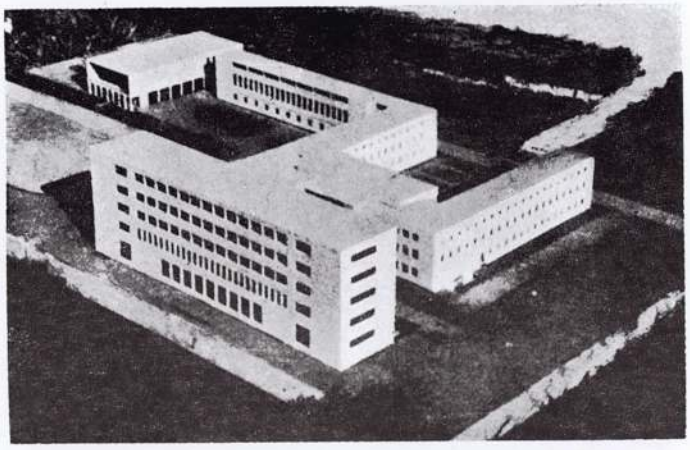


古典文化大學計畫

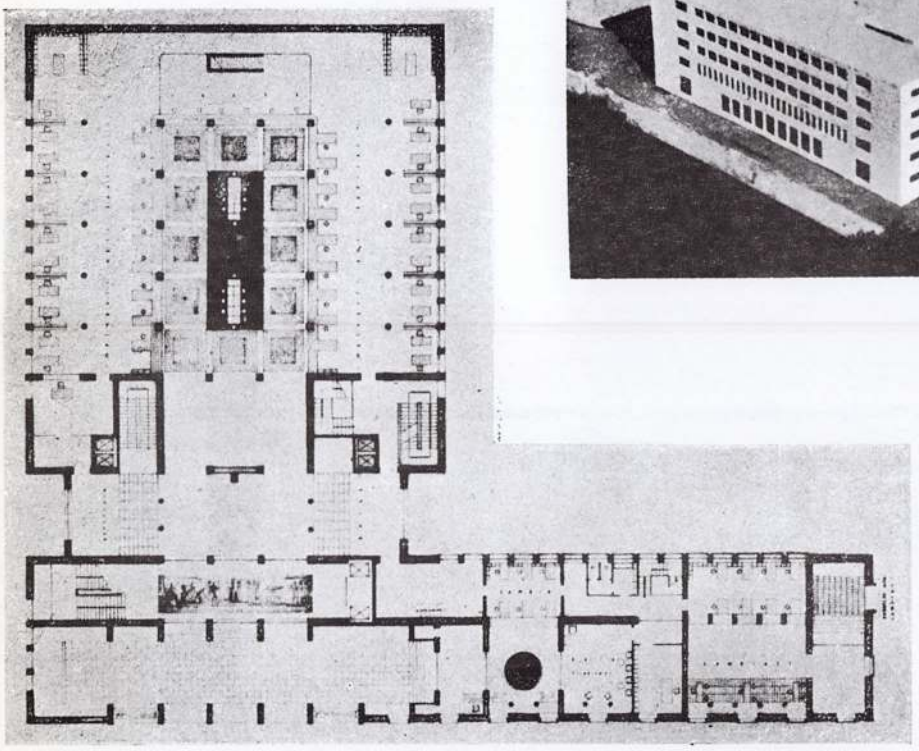
建築家クラウヂイオ・アンドレアーニ

Claudio Andreani

1・1 階平面圖



2・鳥瞰模型



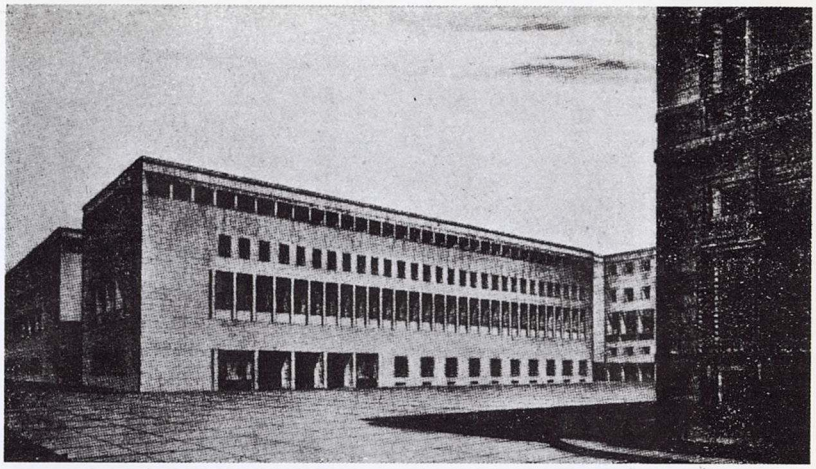
某銀行計畫

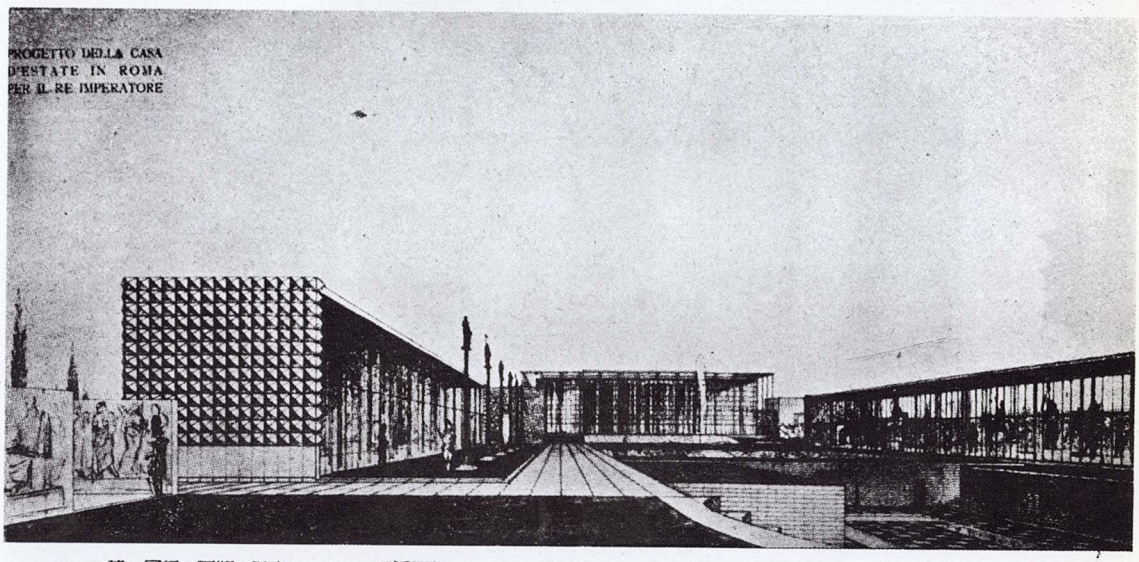
建築家ファヴィニ　レオナツトー

Favini Leonato

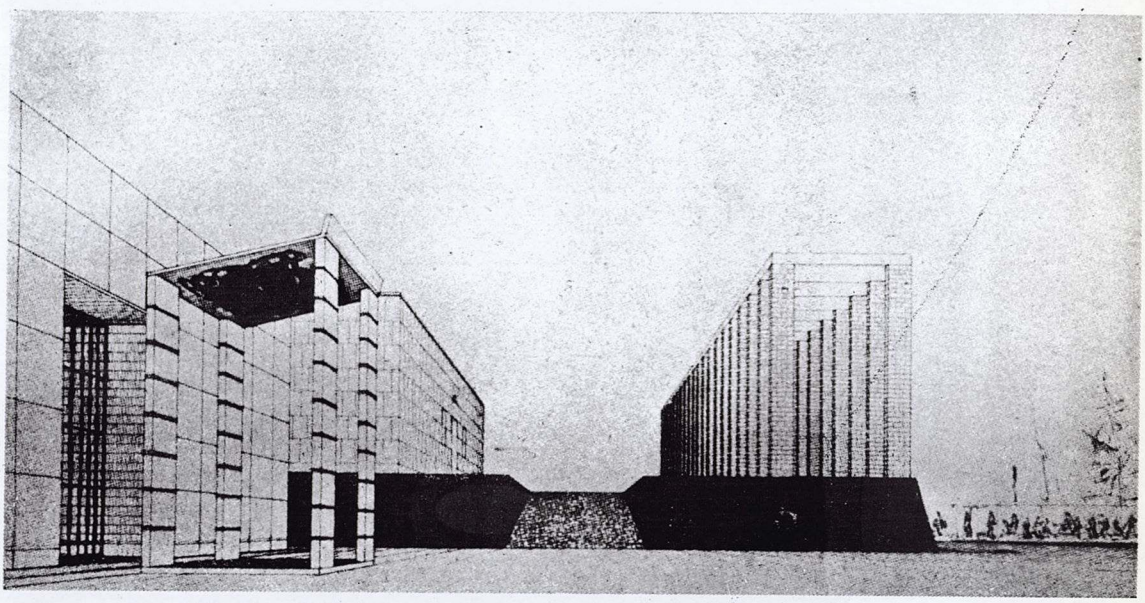
1・1 階平面圖

同　右　　2・外觀透視圖



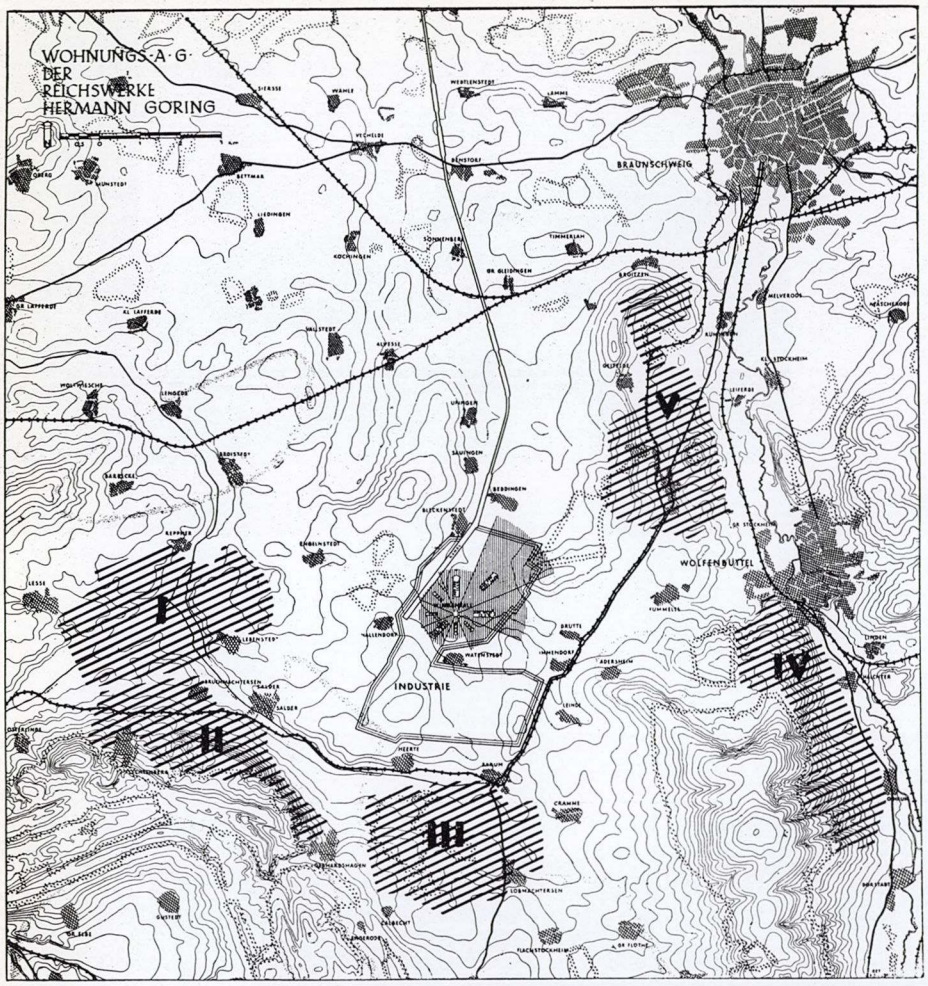


ローマに建つ宮廷（夏期）計畫　　1・內苑透視圖



同　上　　2・一部透視圖　　建築家　ルイツヂ・ヴアネツテイ　Luigi Vanetti

（Architettura, Settembre, 1939より）



5つの都市計畫の位置
圖中・I. II. III. IV. V

ブラウンシュバイヒ附近のハルツ地方は鑛產に富み．古くより採鑛．精鑛の工業が盛で．それらの技術者．勞務者のジードルンクも多くあつた。その中心に今度ヘルマン・ゲーリング工場都市が建設されることになつた。

その位置選定は主として工場施設との連絡及風向について考慮された。此條件によつて附近に5つの土地が選定された（第1圖參照）圖中1 2 3は工場面に鑛山に對して良好な交通關係にあり．又風向に對する位置も良い。5はブラウンシュバイヒとヴオルヘンビユツテルの2都市に直接つゞいて便であるが．鑛山作業場へ距離があり過ぎる。4は5と同樣である上．ブラウンシュバイヒに對して遠い點が不利である。新らしい市の文化的經濟的獨立性．發展性．蓄水排水．自然の休養地に對する住居區の位置．遠近交通の關係．將來の健康上好都合な擴張之らの諸點より見て5つの位置のうちで1が最適と考へられ選定された。（第2.3.4圖）

市の交通骨組は十字路よりなる。市の心臟部から東部中心の交通廣場まで3本の並列主道路が作られその中央のは市の廣いプロムナードとして考へられ．車の交通には兩側のが充てられる。交通廣場からは3つの主要交通路が分岐して夫々工場。ブラウンシュバイヒ及ドイツ各市に至る國道に連絡する。又市の廣い横道は北方の主停車場から南方に向ひ．心臟部で主道と交叉し．リヒテンベルゲル（鑛山地）に至る。市街交通や職場への交通の爲には環狀道路が授られてゐる。そしてそれは廣く植樹された綠線として造成される。この内に市街鐵道が走る。場所が廣々ととられるので喧噪．雜踏は ※



都市計畫（1）のモデル

（ドイツ）ヘルマン・ゲーリング工場都市計畫

建築家 Herbert Rimpl

※

住居區へ及ばない。

市民館を中心とする廣場に行政建物が位置を占め．學校及運動場は全市に普く分配されてゐる。市の各用途への割當は次の如し。

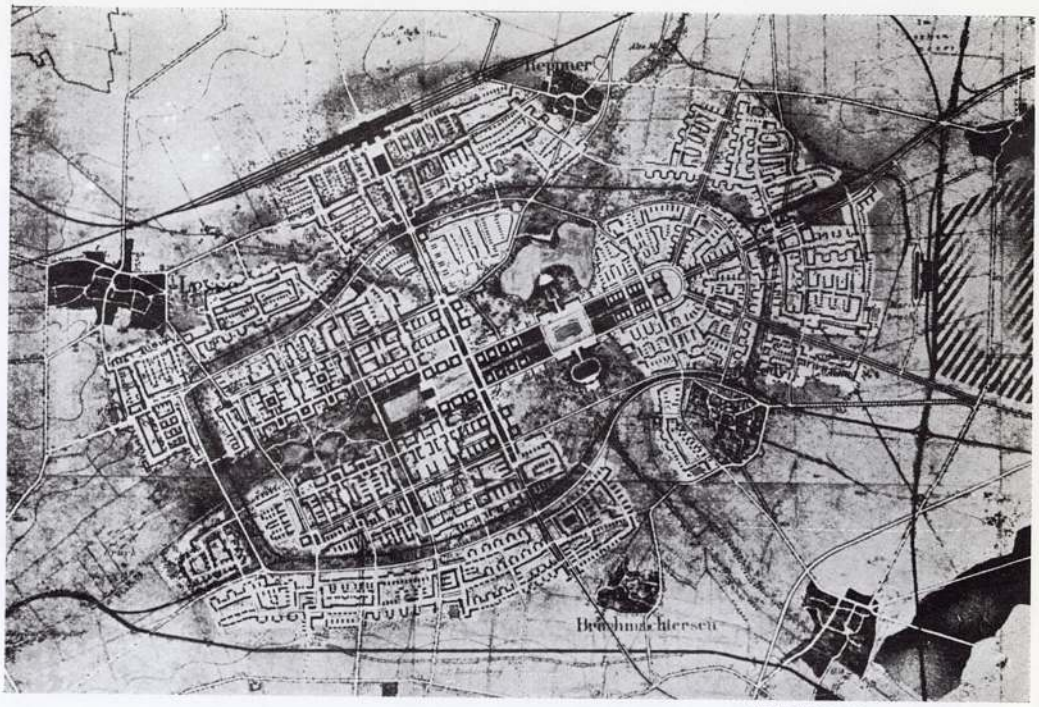
18% 建築敷地及建築附屬の中庭。
19% 道路敷地。
4% 鐵道敷地（市街鐵道も含まる）。
39% 公園庭園。
20% 公共敷地。

最初は1925ha の地に130,000人の爲に建設される。從つて1ha に付67人。尙擴張の爲西方に餘地が準備されてゐる。

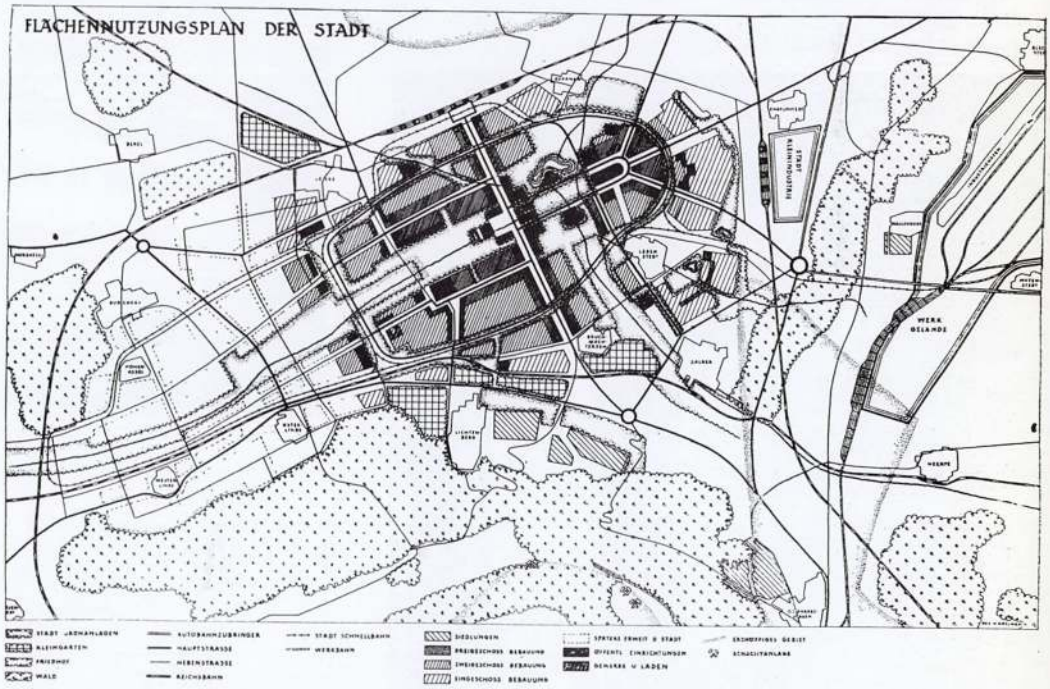
東部に於ては既に建設が始められた。東端の交通廣場の周圍に住居施設及び必要な商店學校が作られた。主道は建設が進み必要の度の增すまで暫くおくれる。道路に面する建物高は3階が固く守られ．かくて市街の高さと密度が取り去られる中心部は整然たる配置を取り．その他は柔か味をもつて綠の中に配置されてゐる感を與へる。西南方の休養地へは綠の歩道が用意され．遊園地や學校は交通路と交叉なしに達する樣計畫されてゐる。

見取圖（第4圖）に於て市民館が特に强調され．ついでヒューゼタルの廣い綠地のスポーツ施設が高い調子をもつてゐるのが見える之らの公共施設は住居が建ち學校が建ち各地から植民され凡てが完備した時之らすべてを新しい市に融合せしめる中心となるであらう

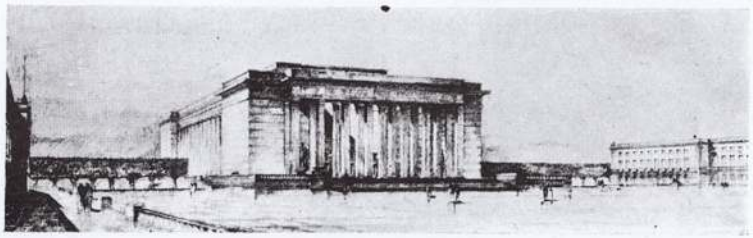
(Baukunet 1939より)



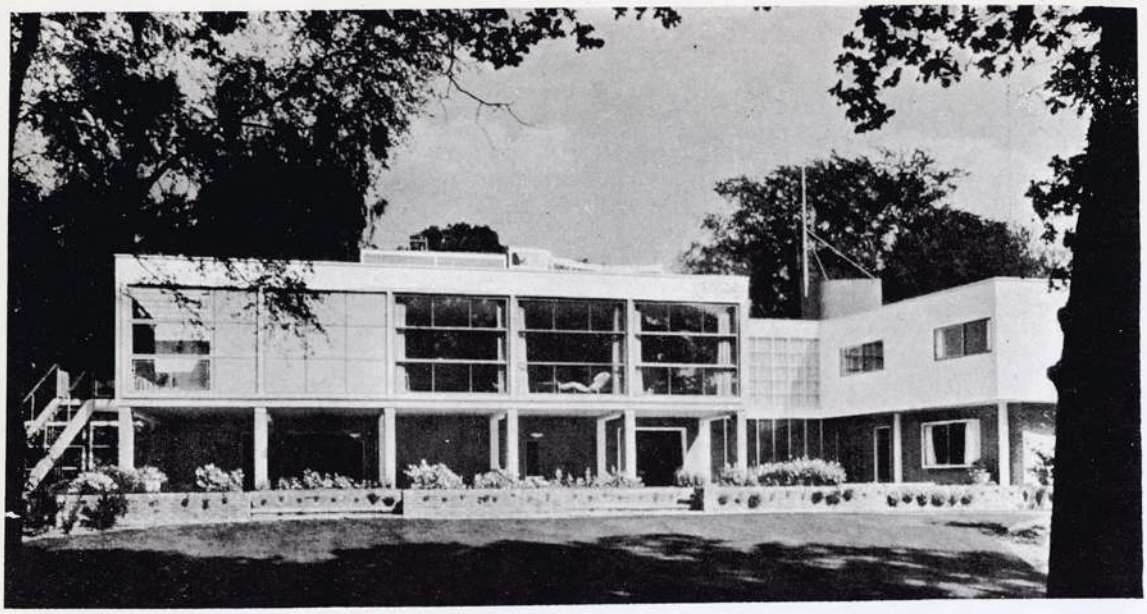
都市計畫（1）のラーゲープラン



同上 見取圖

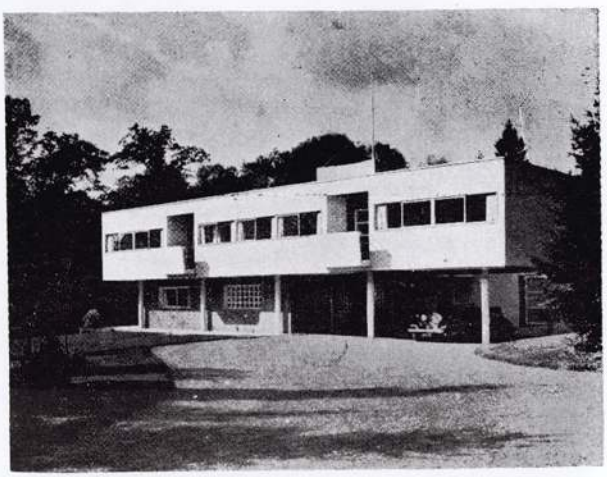


市民館透視圖

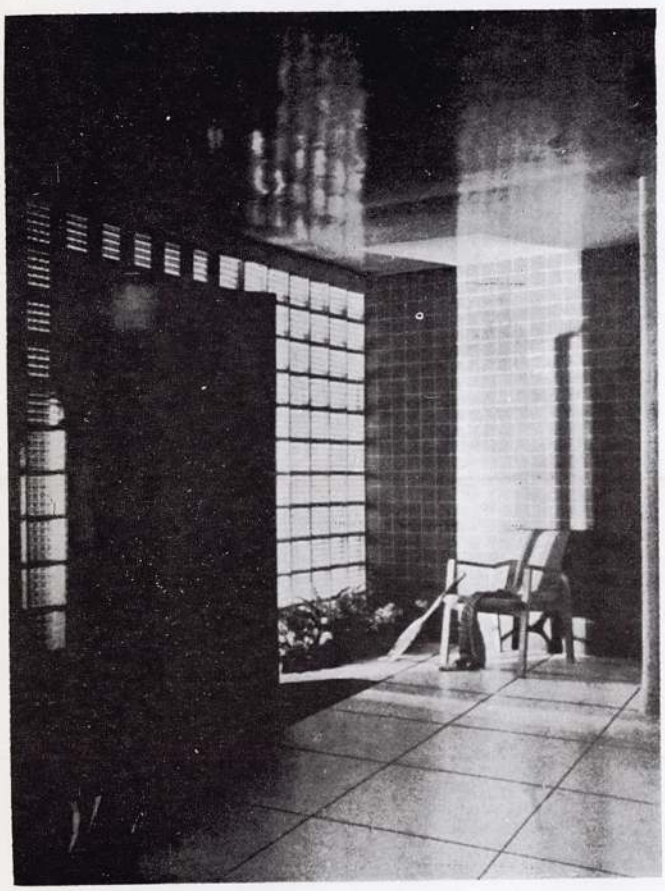


1・南側外觀

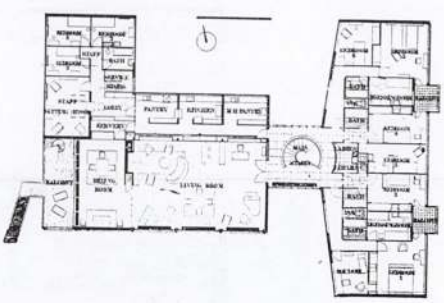
建物の骨格は鐵筋コンクリート造で，外觀は一階外壁が陳瓦積，二階外部外び一階外部迄がコンクリートの上に白色ペンキ塗仕上，又バルコニーの入込み壁は陳瓦色，窓は灰色のステールサツシュを用ひてある。室の配置は住居用の主要室を二階にとり，一階には吹放しの廣大なテラス及び車寄がある。



2・東側外觀

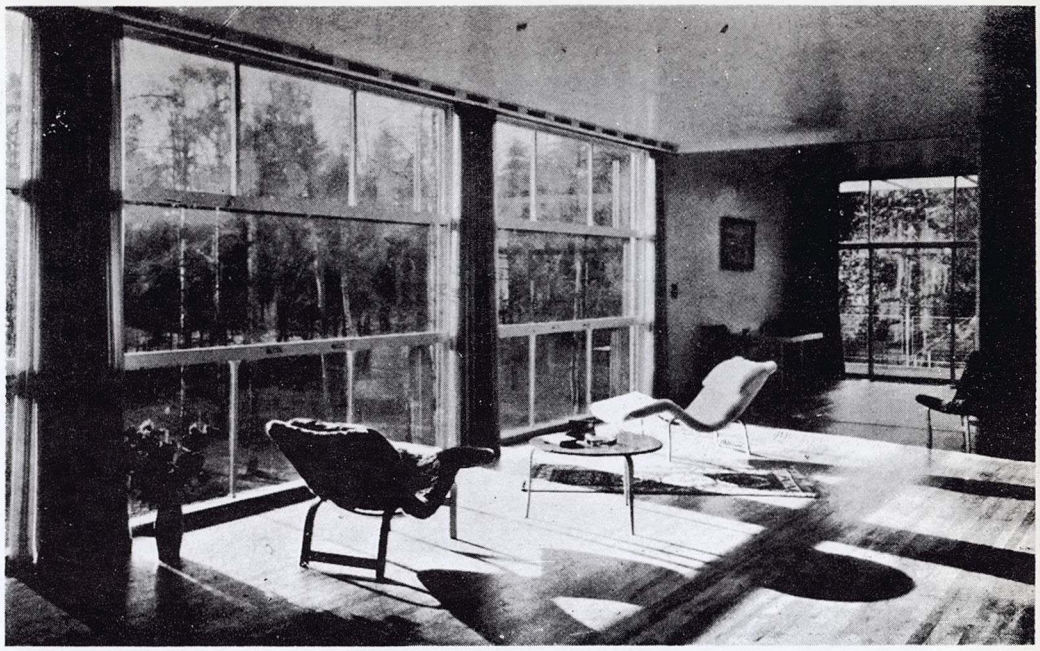


3・玄　關

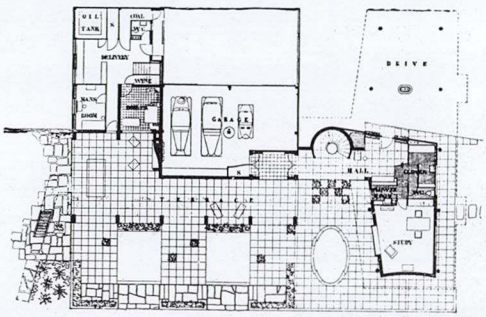


4・2階平面圖

7・居　　間



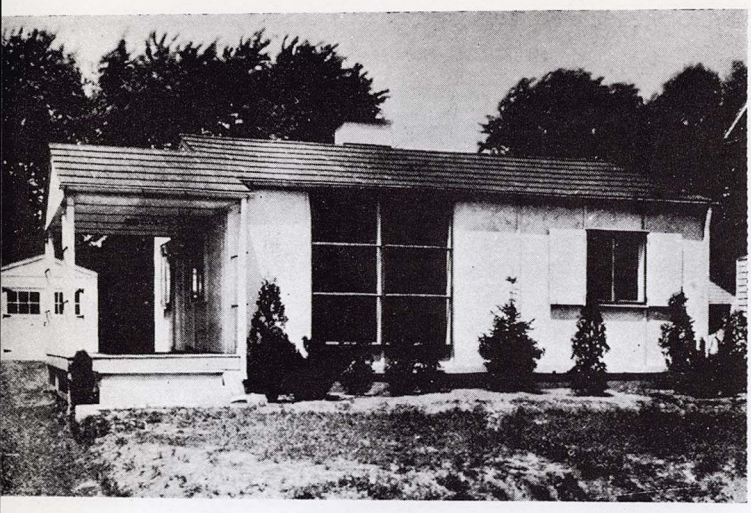
居間の窓の上下パネルは固定中央は上部へ上げ下げ，天井及外側壁は灰白色，床は楓，他の壁はクルミ板張，ファイヤプレースの周圍は赤色大理石



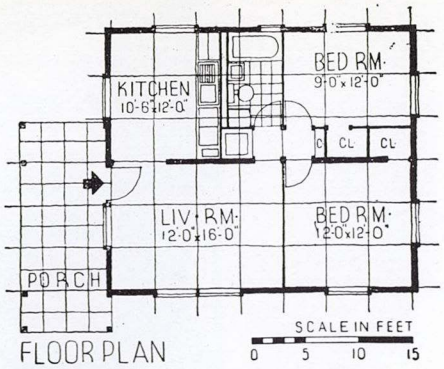
5・1階平面圖

7・居　　間



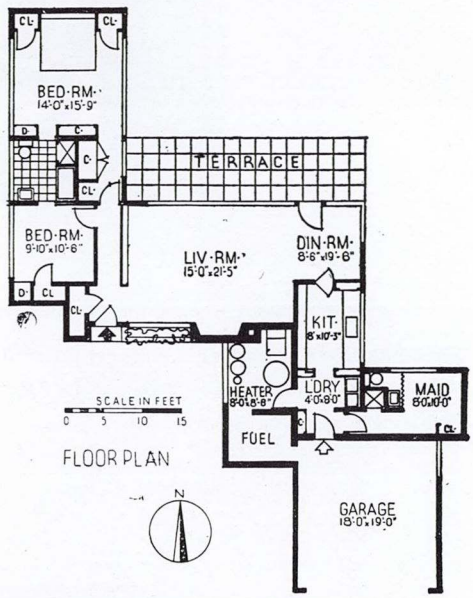


小住宅の外觀

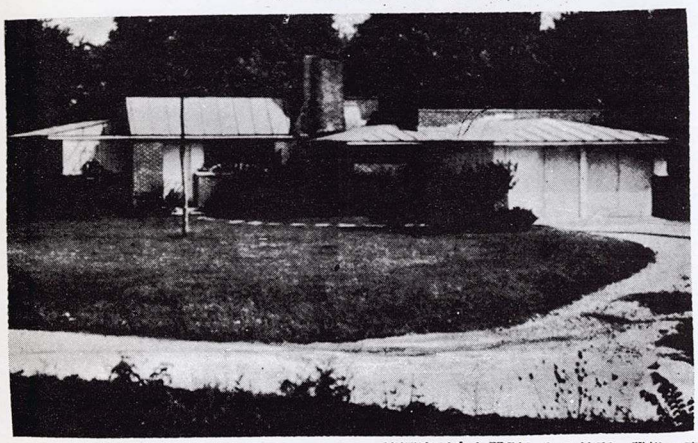


左の平面圖

セロテツクス會社製品にて作られた最小限住宅の1例である。
平面圖に見られる通建物を壁，床共に幅4呎の單位に區分し各部に能ふ限セロテツクス會社製品を使用する樣試みたものである。
非常に纏つたプランとポーチの巧な利用とは注目に値する。
建物の體積6,500立方呎。工費總額2,500弗
(Architectural Forum, Oct., 1939より)

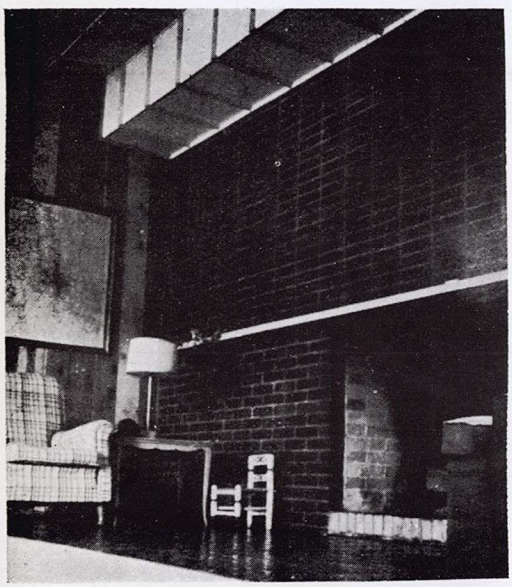


2. 平面圖



オハイオ州の住宅・1. 外觀

建築家が自ら設計した小住宅。敷地の南方に道路があり，北方が樹木の生茂つた雜地になつてゐるので，この住宅のプランは普通の場合とは逆に北の方を開放してゐる。寢室は茂みを考慮して兩側に置く窓を取つてゐる。壁，大井に煉瓦，板等を自由に使用して可成個性的な調子を見せてゐる。外壁は一部木造，一部煉瓦造。
建物の體積21,500立方呎。工費總額9,700弗。
(Architectural Foaum Oct,. 1939より)



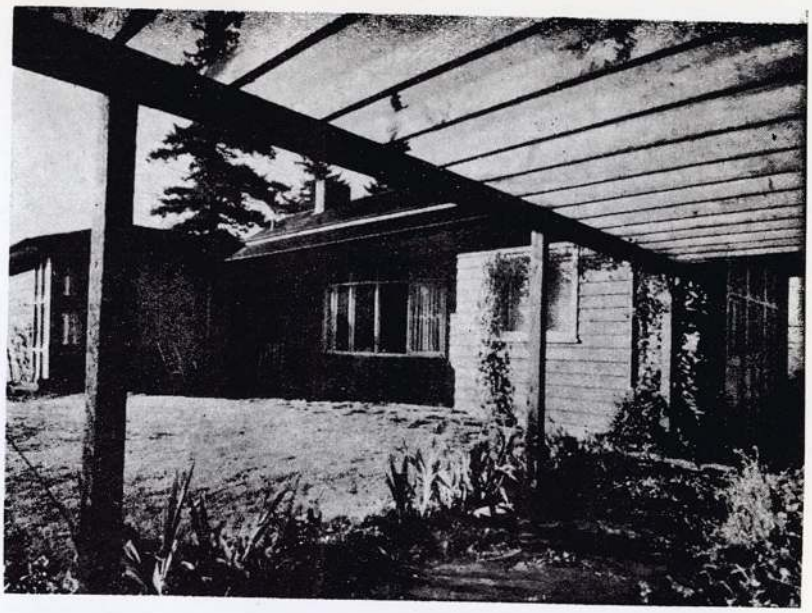
居間



同左

(アメリカ) 小住宅及オハイオ州の住宅

設計 Wilmot C. Douglas 設備 Harrison 及 Fouilhoux



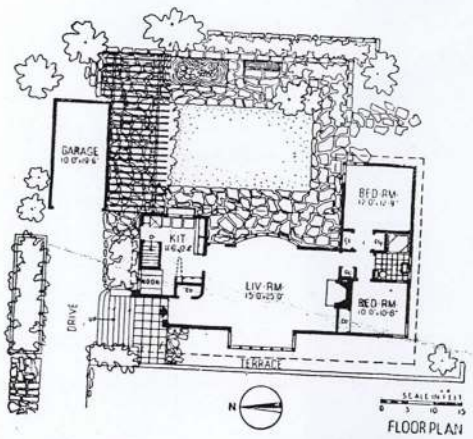
庭園の一部

曩にアメリカ，ガス協會に依つて行はれた住宅懸賞競技建作當選案を實施したものである。懸賞圖案としては可成に變つたプランであるが，敷地の利用，構造經濟等の點は非常に合理的に考へられてゐる。

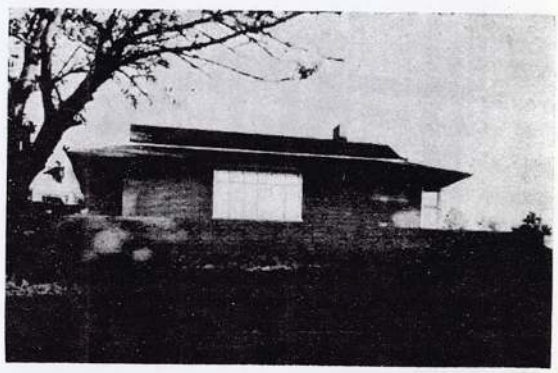
屋根の扱方は和風建築のそれに倣つたものがある樣である。

木造平家建　工費 5,100弗

(Architectural Forum, Oct., 1939より)



平　面　圖

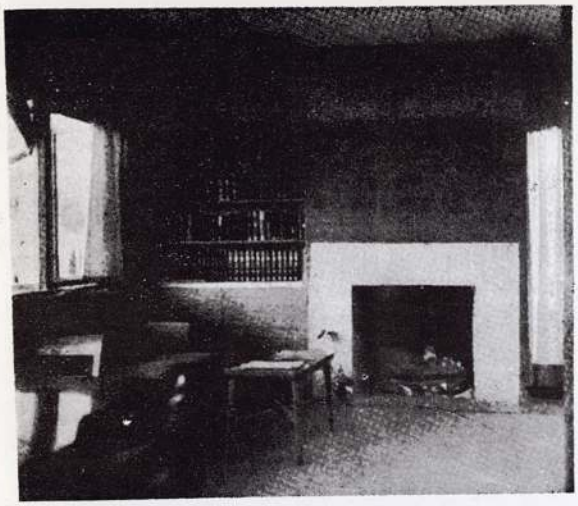


西側外觀

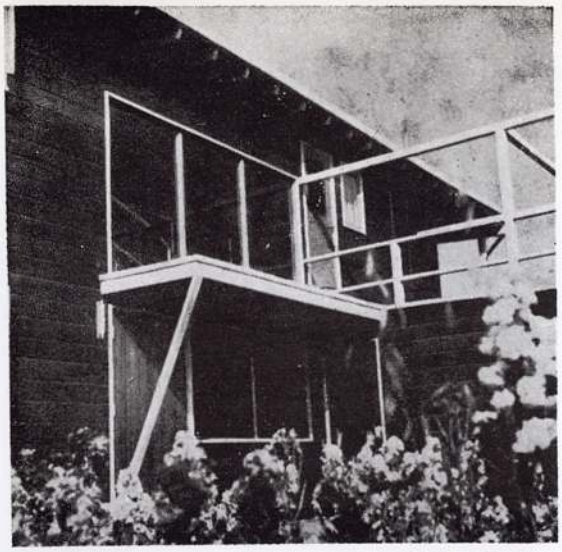


居　間

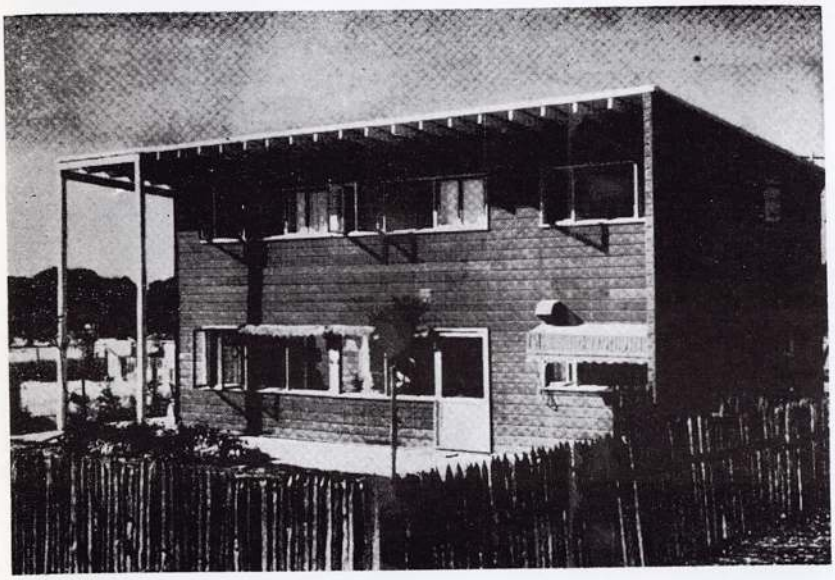
(アメリカ)　オレゴン州の小住宅　　設計　A. E. Doyle 建築事務所



居　　間



正 面 外 觀



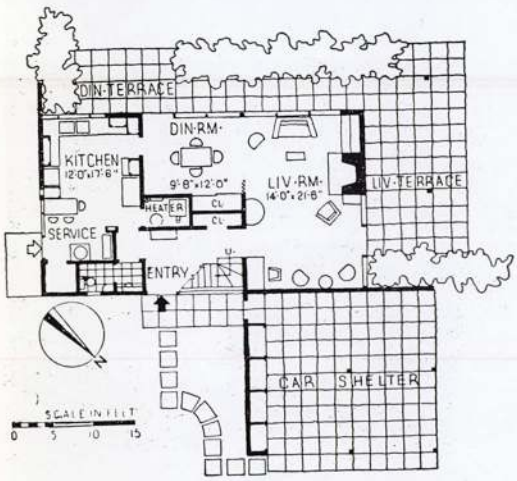
背 面 外 觀

アメリカ，ガス協會の住宅懸賞注作當選圖案の實施されたもの。

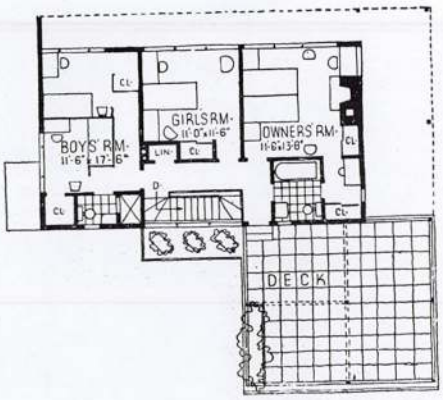
プランは非常に優秀であるが，外觀に於て失敗してゐると審査員は言つてゐるが，この外觀は必ずしも失敗ではないと思ふ。

木造2階建，工費 7,450弗

(Architectural Forum, Oct., 1939, より)



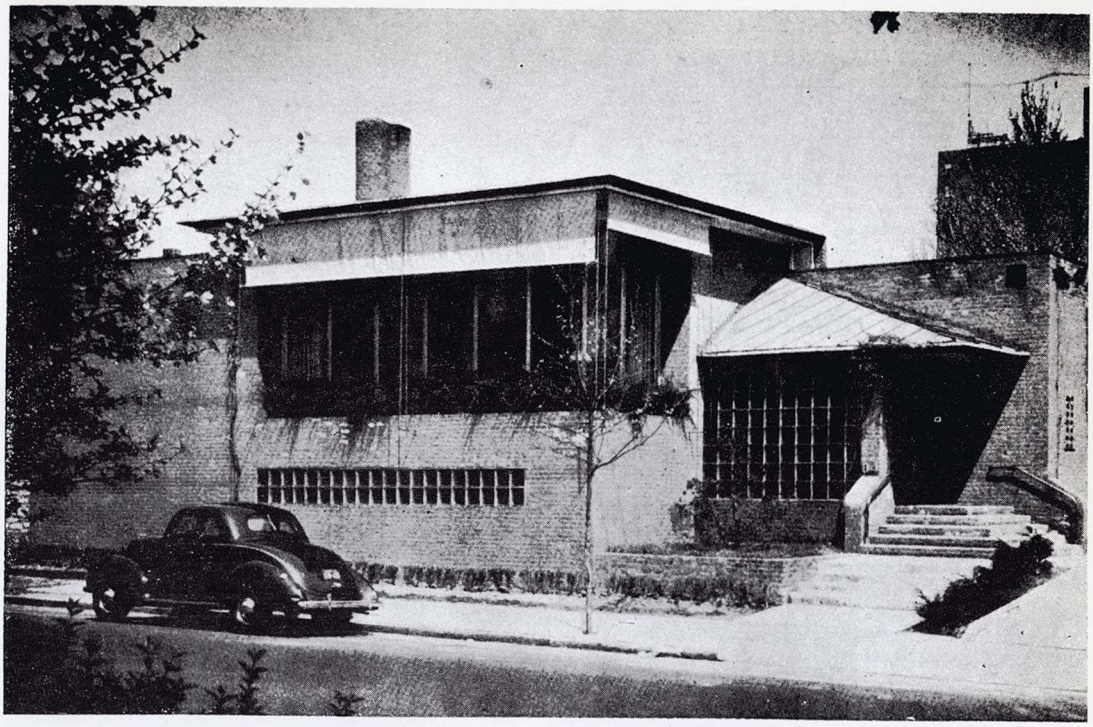
1 階 平 面 圖



2 階 平 面 圖

(アメリカ) カリフオルニヤの住宅

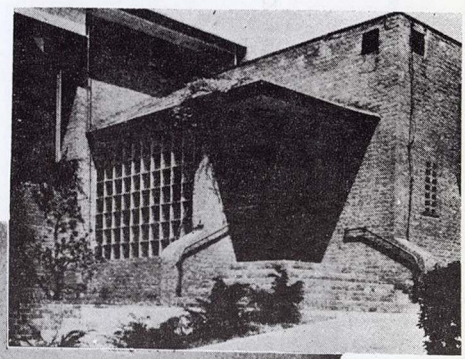
建築家 John Ekin Dinwiddle



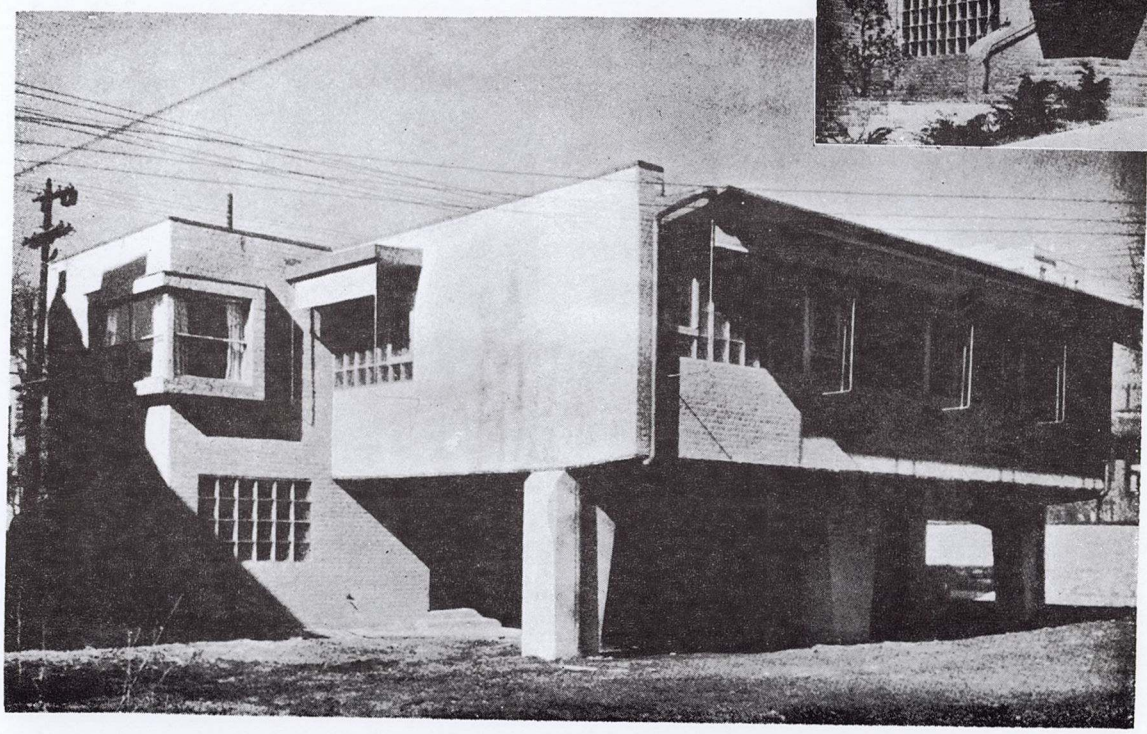
正面外觀

セントルイスに出來たこの診療所は　單階でありながら色々な業務が出來る樣になつてゐり又通行人からのぞき見されることが避けられる樣になつてゐる。と云ふのはFloorを街路よりはるかに上げたゝめであり，又建物の後方は自動車の置場にあてられてゐる。診療室に續いて應接係の室があるがこれは恰度待合室と事務室の間にあつてそれには覗き窓がついてゐる。

この窓から診療の狀體を見ながら醫者に患者の用意が出來たことや，又患者にどの室に入るべきかなどと指圖をする　又患者のカルテもこの室にをいてあつて醫者が必要なればすぐ見られる樣にしてある。（Architectural Record. Septe.nber 1939より）



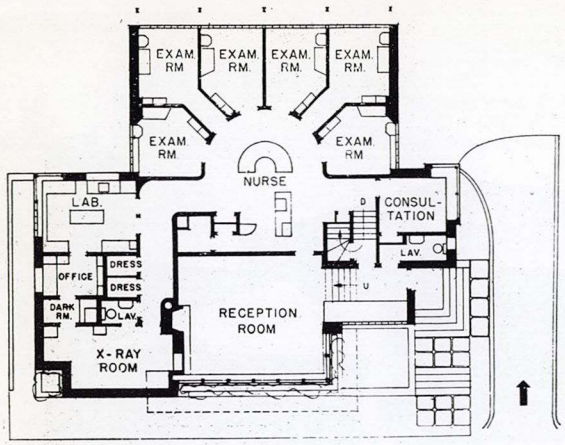
入　口



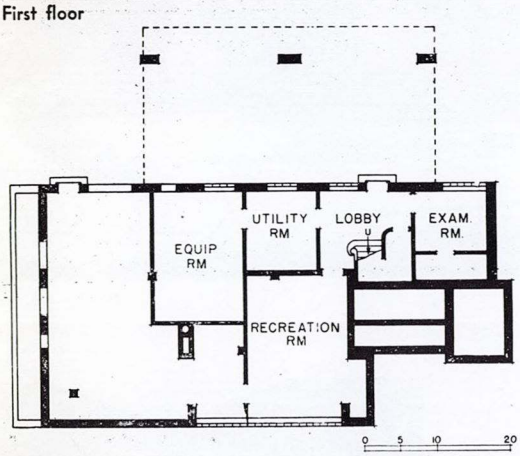
裏側外觀

（アメリカ）中央の一點から管理出來る醫者の診療所　　建築家 Harris Armstrong

1 階平面圖

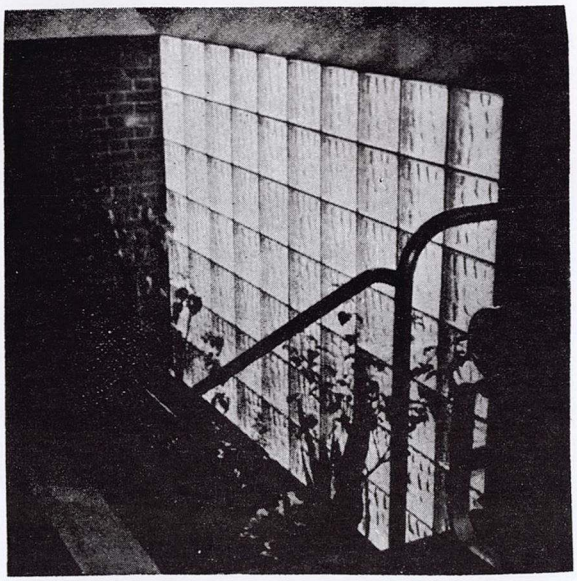


First floor

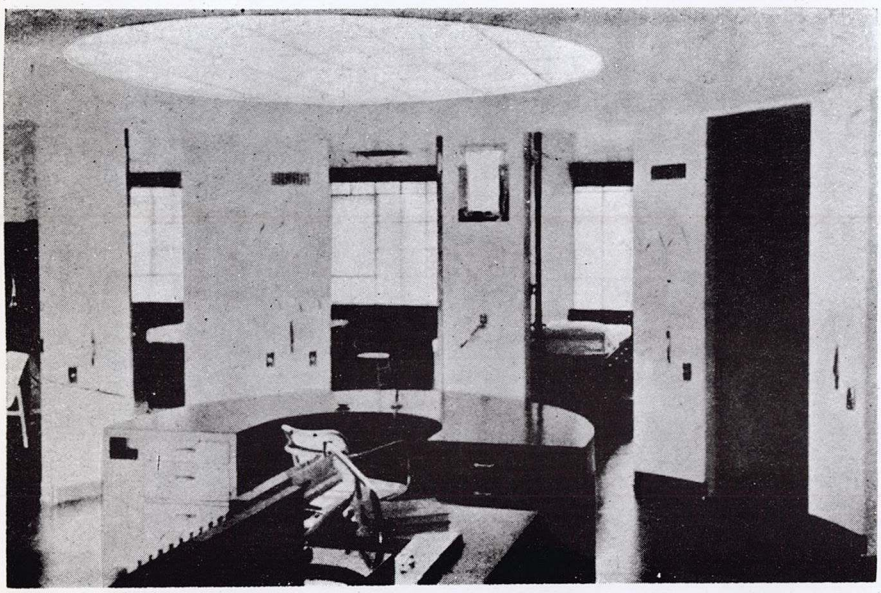


Basement

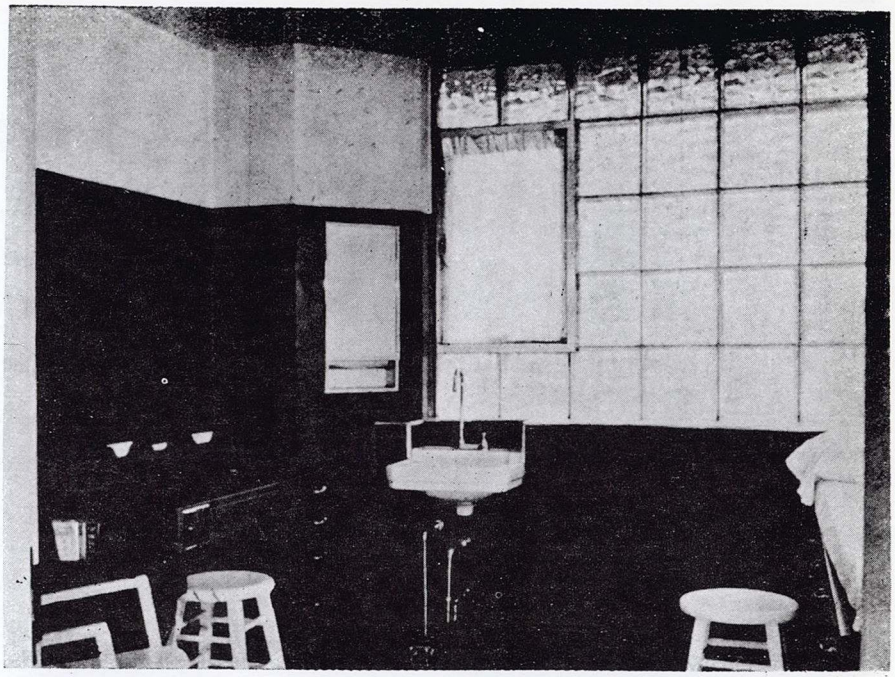
階下平面圖



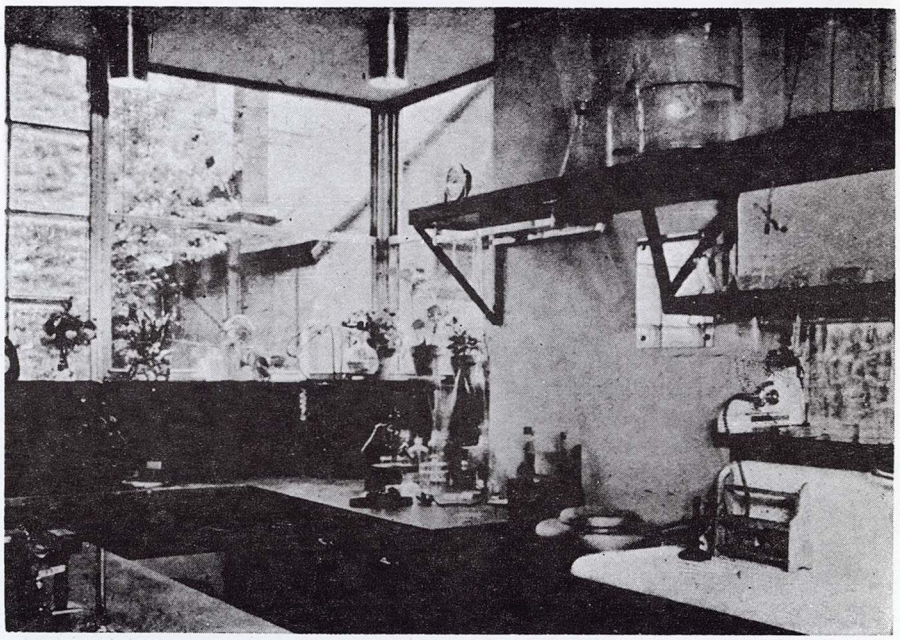
ロビーに通ずる階段



各診療室を管理する中央の机



1 診 療 室



實 驗 室 の 1 部

古建築新抄 (10)

藤原義一



石塔寺三重塔

石造建築物

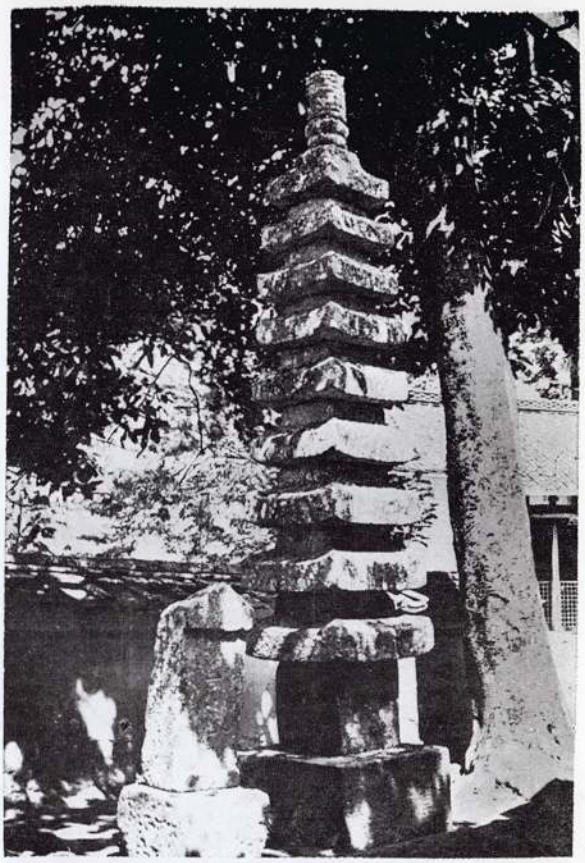
五輪塔の如きを建築物と云ふのは少々をかしい事もあるが墓標や記念碑は建築として取扱ふのが通則のやうであり、古建築の方でも五輪塔はおろか、すゐぶん妙なものまで建築の仲間入をしてゐる。日本建築に石造は勿論少く、有名な播磨の石の寶殿でも完全な建物と云ふ事は出來ぬ。大和佛隆寺の石室は平安時代の建築と稱されるものであるが之等は多少建築らしい處がある。併し何と云つても日本石造古建築の壓巻は近江の石塔寺、**三重塔**である。むかし阿育王が84.000基の寶塔を造つて世界に配置し、日本には2基建てられたのが1基だけ殘つてゐるのが之であると云ふ傳説を持つてゐる。高さ約35尺飛鳥時代の作である事は疑ひない。此塔は一旦地中に埋もれてゐたのが後世掘出されたもので、今尚この邊りには夥しい石塔類が埋沒し、近年堀出されたもの數千基が境内一帯に並べられてある。それは鎌倉時代から後のものばかりであるが中には銘のある立派なものも少くない。



上記三重塔のほとりにある五輪塔2基　向つて右の方のには貞和三年、同左の方のには嘉元二年の銘がある

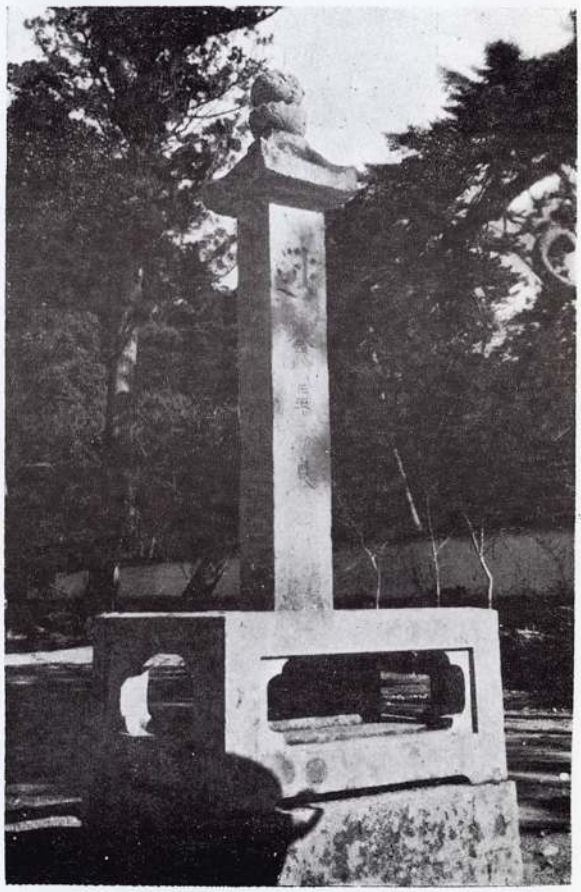
石塔寺五輪塔

寶林寺九重塔—京都府南桑田郡宮前村にある。正應五年の銘を有する。

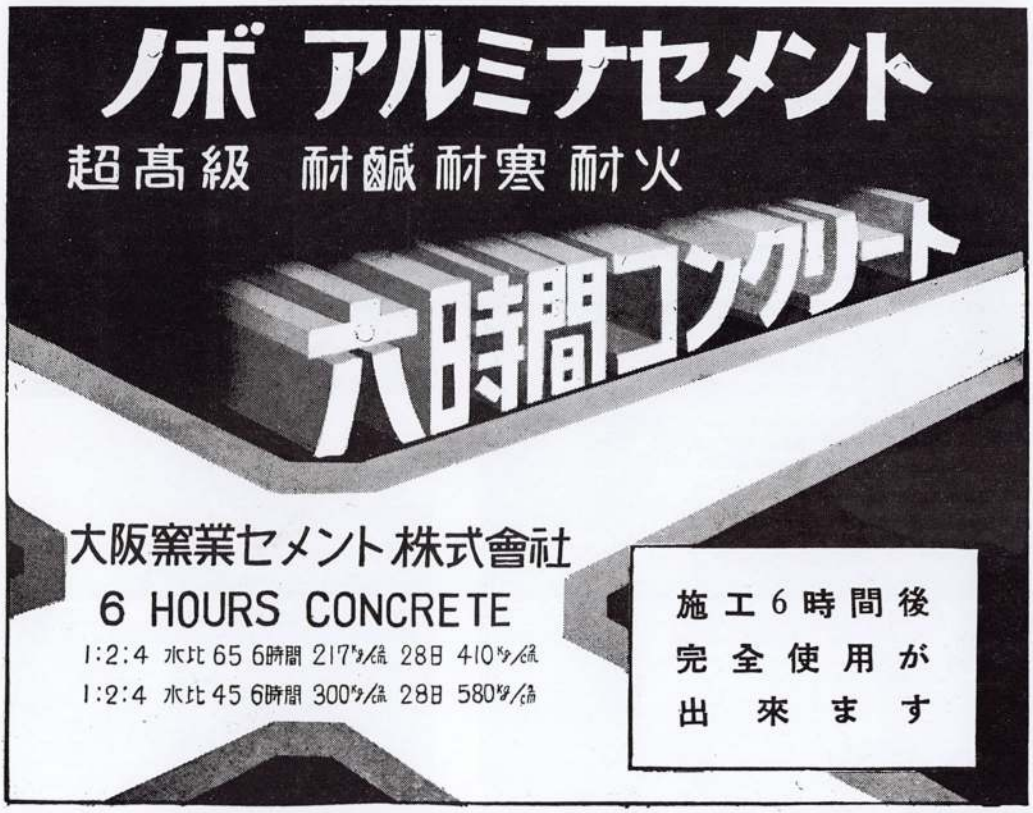


廣峯神社、寶篋印塔—姫路市背後の山頂にあり室町時代初期のもの、塔身の四方に胎藏界四佛の梵字を刻してある。





一乘寺町石、播磨の一乘寺、石段下にあり、自金堂一町と記し、町石である事が知られる。正和五年の銘がある。


ノボ アルミナセメント
超高級 耐鹹 耐寒 耐火
六時間コンクリート
大阪窯業セメント株式會社
6 HOURS CONCRETE
1:2:4 水比 65 6時間 217㎏/㎠ 28日 410㎏/㎠
1:2:4 水比 45 6時間 300㎏/㎠ 28日 580㎏/㎠
施工6時間後
完全使用が
出來ます



思ひ出さるゝまゝに

鈴木忠五郎

2500年代最終の年を送る。何んだか特別に感慨無量。大きな年代の境なる故か1日の境は餘り頭に上らないが月末だけは少々。更に年末は考へさせられる。更に大きく1世紀を劃すると思ふと、なんだが世の中が來年こそ一層明るく希望ある様に見え、送る氣持更に迎へる氣持。思ひ出さるゝ事は更に來るべき年への清算の氣持にもなる。思ひ出さるゝまゝ時間と空間を超越して並べて見る。何等かの纏りにする爲でなく、獨り微笑する、苦笑する爲かも知れないが。平沼内閣の投出しが、歐洲の世相が複雜怪奇、それに處する道、方法、妥當を得なかつたにある様である。この名言複雜怪奇は獨り歐洲だけではない。建築界にも白晝堂々たる複雜怪奇が見られる。その一つ二つを拾ふて見る。

先づ耐火木材、耐火塗料の件、法規化されながらさて實用にさるべき耐火木材ありや。耐久性と耐火性、更に施工加工を加味した耐火木材をや更に怪奇なることは耐火塗料の正體の發表なき事、即ち化學成分原素の組織、その製造法等の發表である。防水劑にしてもそうだが、耐火木材は今や國家的問題、科學日本の仕事たるに、更に工大研究所の一研究たるに、その正體の發表がない。直ぐに模倣されてしまふと云ふのかも知れない。直ぐに眞似られる位の考案ならそれでよいではないか。更によい考案の生れる、死馬たらしめても國家的には損失は少いと思ふが如何。

建築家にも、もつと科學的な原理、化學的基礎から、かゝる重大なる耐火塗料は納得させてから出發させて貰いたい。只燃えない一點張りでは、どうかと思ふが如何。

次に木材統制が實施されんとし更に住宅建築制限が出るらしい等、次から次から建築關係の法規が出る。それも出るらしいが少しも建築技術者がその法規草案には關係がないらしい。技術を含まぬ技術統制、技術法規なんか全く複雜にして怪奇極まると思はれるが。更に防火改修、模範街が生れたと書いてある。私は苦笑されてならない。モデルは、規格は、雛形は、相當實地に經驗を踏んでから生れるもの。あれは試驗所街だ、試作街だと云ふが至當かと思ふが。本年に於て建築技術者に大いに考へさせられ或思索の角度を與へて呉れた事は設計、監督、技術の外に、製作、工作、施工の實際技術が大いに必要になつて來た事を深く信ずる點である。防火改修は全く工作の製作の術である。設計や監督技術ではない。其處に手も足も出せず大いに論じ、思ふ様に進出出來ない點である。まして防空建築にした處で、更に煉瓦及鐵筋コンクリートを外にした防火建築草案等、更に代用品による建築改裝へ、技術、工作の技術の必要が次第に明瞭に建築界によつて來た感が與へられたと信ずる。次に複雜怪奇なるは事變にて少かるべき建築が多忙を極め技術員の不足に困る狀態國民の徴用令は第1番に建築技術者に向けられた。その理由は紹介所がいくら募集してもその必要なる人數を集められなかつたからであると。その必要なること。戰爭にも建築は無關係でない事が力強く證明されたので、これは嬉しいが出征、應徴で技術者益々不足せるに、否、不足で仕事にならぬ筈なるにその不足の聲が割合に小さいのには驚

く。何とかなると云ふ宿命觀からか、非常時色からかは知らないが不足ながら押し通せる方法、道が建築施工界に設計界にあることだけは、どうしても自覺しなくてはならないと思ふ。徵用令と交換と云ふわけではないにしても、同時に技術員の不足對策位、政府に献策され進言されて居らねばならぬ筈であるに、未だにその消息ない處を見ると複雜怪奇は此處からも見られる。

更に本年の建築施工界への異變は技術工の力の認識であらう。物資の不足、勞力の不足、代用品の使用の前には或程度の技術工への依頼を助長した。技術工作技術に自信のない監督者にしては、この異變對策にはどうしても技術工即ち下請の職人、棟梁の力を借りるの外なかつたわけである。更に勞力の不足は職工への助言、小言になるが、それによる能率の低下を我慢するわけに行かない點から、實際施工者の技術的意見が相當に尊重されだした事は否定出來ない事實である。これが職工向上の一助となればよいが之に反對に惡い方面に向ふなれば、どうなるや、感慨無量なるものがある。現在その對策ありや。職工への關心なき建築界、怪奇至極と思ふが如何。フオーアマン、職長の養成、不足が監督の技術員の不足以上に必要であると云はれ出した。やはり工作技術の必要が如實に現場に起りつゝある事實を示したものである。併し、建築界は工作界ではない。請負とはその事業の清算事業の如くに、要は纏りが付けば大體にすむものである。これが大原因をなしてゐるのではないか。請負者は異なるも工作者は同じ、建築界の複雜怪奇も此の邊にも少しはある樣だ。

本年は統制の强化に、その理解と馴致に暮らした感じ、防火改修等、耐火木材、徵用令等、の話題を多く含んで、物的にも人的にも忙はしく、くゝられた感じ、どうかして打開したい氣持で來春を待つ樣に考へられる。歐洲戰爭の擴大、筆者は心から希望する。それは地圖の色がどう變るかではない。20年の獨逸の臥薪嘗膽が何を腹に藏して居るかの見物がしたい樣な氣持がする。タンクを出した英國、毒ガスをだした獨逸。こんどは何の技術をだすか。如何なる社會相を示すか、火焰砲位ではなからう。殺人光線か、人造人間か、見たいからである。夢を現實に見る氣持から。

慌たゞしい歲末長々と、つまらない回想に、獨言に時間を頂いた事を多謝して筆を擱く。

國風談議

橿原神宮前綜合驛々舍の建築

中筋麻芳

この度大和橿原の地に建てられた、交通建築、橿原神宮前綜合驛々舍の建築に就いて、所感を述べたい。

この建築が計畫されるようになつたいきさつや建築に當つての事の運びに就いて、私は新聞記事や人の噂によるの外、詳しい事は聞いてゐないので、私がこうでもあらうかと推察してゐる事を、もし間違があるといけないから、念のためこゝに記してそれから論を進めよう。

紀元2600年を迎へるに當り、橿原神宮を中心として神域及びその近傍に大地域計畫が企てられ、その計畫の一部として、こゝに集る交通機關、省線、大軌、大鐵等の驛を打つて一丸となし、こゝにこの一大綜合驛が造られた。その驛舍の設計に就いて、關係せられた人々は多分次のように考へられたであらう。——(この意義深い建築の貴い使命、機能的な使命だけでなく、精神的な使命を思ひ、又建國當時に思ひをかへしてのなつかしい氣持に、神域を中心とする大和の天地の大らかな景觀にも精神的なつながりを欲して、これこそ日本の現代の建築であると自負し得る程のものを造りたい。)——と、まあ、こんな風な意圖により設計を進められたのであらうと想像する。

(かく想像するからこそ、私はこの稿を草した

のであるから、この想像にしてもし當つてゐなかつたら、この一文は作者の一讀を乞ふ必要はないのである)。

さて、本論に入るに先立ち、私は思ふ事あつて脇道から叙述の筆を進めたい。

近頃、茶道の流行は驚くべき勢で、あらゆる方面に、あらゆる階級に、猛烈に擴まつて行く。もはや、若い娘にお行儀を仕込む上の方便でもなく又老人の手すさびでもなく、有閑無閑、老年青年の別なく、實に多くの人々が茶事に關心を持ちつゝある。私の鄉里は不昧公の縁りの地であるからかも知れぬが、かかる地方の一小都邑に於てさへ茶は、日常の必要事であるかの如く、或ひは又、これが日本精神の眞髄ででもあるかの如く、重んぜられて擴まりつゝある。戰時になつても、何々の獻茶であるとか、何とか彼とかの唱名のもとに相も變らず盛に行はれてゐる。昔、武將が、大名が、茶を愛したといふ傳へをもつて、如何にも茶が精神の糧にでもなるかのように云ひ、茶道沒入の非難に對する唯一の杭楯とする人が多いが、その武將とか大名とかは所詮、不自然な無理な行爲(柄にもない大仕事)を企んだものが、自らの洗靜境を茶道に求めたのであり、或ひは世をすねた隱者達の逃避境であつたので、太陽の光を浴びて、人間性の眞實に少しもさからはず安穩に暮したもの、即ち多くの普通の人達には、この阿片——茶は用ひられる必要がなかつたのである。であるから茶道の流行は、この阿片の必要な——陽の光にめぐまれぬ——人々が多くなつたことを物語るものであつて、私の深く悲しみ憂ひとするところである。然し「やぶさめ」や「けまり」が祭祀に殘つてゐるやうに、茶も亦我等の生活に殘つてゐたとて別段、眞實の生活に邪魔にもならぬ。が、それは飽くまでも近代に殘る古代の形骸であつて、我等が擧つて後世に傳へねばならぬ程の「精神」では斷じてない事をついでながらこゝに强調しておこう。

さて、私の筆はもう脇道を過ぎて愈々本筋に近づいてきたのであるが、

上述の茶道の流行は、ひいては數寄屋建築流行の事實を我等の時代にもたらしたことを特記せねばならぬ。現代の一般人はもとより、建築家にして、この數寄屋建築を好まない人は少いであらう。理由なしに、或は相當の理由をつけて、建築家達は、これを愛することにかゝりきつてゐるように見える。細い丸柱、色々の組合せをもつ變化のある天井、青いたゝみ、拭きこんだ縁板、美しい爐縁、庭を眺めれば、愛すべき樹木のつゝましきゐずまゐ、こんな室にあぐらを組んで、あゝ好い氣持ちだと思はず首を振つたらカラカラと音がした、何の音か? 腦味噌のない頭を振るとこんな不景氣な音がするのだそうである。愛すべきこれらの建築家達は、自分等の生年月日をも知らないのではあるまいか、自分等の當然背負つてゐる筈の大問題、我々の建築、我々の時代の我々の建築、の荷も解かずに、そつくりそのまゝ床脇の地袋に投げこんで、肩を輕く平然とあぐらをかいて一服すつてゐるのである。讀者諸君は數寄屋建築の美しい寫眞を見たら、その美しい天井の上や、青いたゝみの床下に、我々に課せられた大きな問題が、義務が、むごたらしく投げこまれたまゝ、くすぶつてゐるのだと考へられよ。

まことに數寄屋建築は盲目建築家のよき逃避境である。我々はこんな境地から早く足を洗はねばならない。手先き器用に茶室など造つて居れば天命の果せる程、日本の建築家は樂な月日のもとに生れたのではない。我々は我々に課せられた問題を解くために、もつと努力し苦しむべきである。今時、ゴシツクやルネツサンス等に浮身をやつしてゐる人があれば、諸君はこれを嘲笑するに遠ひない。然し、數寄屋に醉ひしれてゐる人々は、一層あはれまるべき人々であらう。數寄屋は建築家を害ねる麻藥である。我々はこれに氣をとられてゐる間、我々の進歩をとげず、年だけは老ひて行

くのである。（あまり熱心に書いたから、讀者にして憤慨せられる方々もあらう。然し靜かによく考へなほして戴きたい、確かに私の心は解つてもらへる筈である。）

我々は最近、某誌上に、某大宗匠の作と稱する甚だ拙劣なる茶室建築——銘木商のカタログ然たる——を見た。建築家である讀者の中にはこれを見て卿か情なく思はれた方もあらう。が、諸君の好しとせられる數寄屋建築でも、冷靜に眺めるならばおそらくこれを見ると同じ程度の不愉快を味はゝれるであらうことを遠慮なく云つておく。

私は本筋に入ると稱して、現代の社會情勢の建築的一角を述べたのであるが、上述の事柄とよく似たことに、古い社寺城砦等の形式を新しい建築に取り入れて、東洋趣味と稱し日本趣味と唱してゐる事實がある。この問題は論議を盡されてゐるにもかゝはらず、新興滿洲國を始め東洋の到るところに未だに盛に行はれてゐるのである。そして最近このなげかはしい事實に更に1つの新口が增へた。我が農民建築型式の現代建築への採取がそれである。この傾向は、ゴルフクラブに、住宅に年と共に盛になつて行く。これはたしかに新口である。新しい手である。而して新しい手であるに過ぎない。我々は一體幾度、古い影の腐泥を頭上にひつかぶる運命にあるのであらうか。しかもかゝる傾向は、一數寄屋建築を始め、古社寺城砦農家等の古建築の形式的模倣、或は拙劣なる再現——一部の人々によつて「國風」といふ立派な名のもとに一括された概念としてまとめられつゝあるのである。あゝ！

近頃盛になつて來た。農民建築の研究、これこそ我等が渴望する日本建築歷史の眞髓なのであるが、上の如く考へて來ると、日本建築界全體のためには、この新しい有益な學問も早く見切りをつけた方がよいかとさへ、私は思ふ。といふのは、民家の研究は眞摯な態度でなされるのであるが、時としてそれが有閑的な發表の方法、讀者の惡趣味におもねるかの如き方法を以つて發表されることがあるのは甚だ殘念である。民家を喰物にする民家研究者は日本建築學界の害虫であらう。害虫諸君はつまらぬレンズの曲襞で惡趣味建築家にいらざる材料を提供せざらんことを望む。かゝる感想を持つ私の前に、こゝに問題とするところの橿原神宮前綜合驛々舍が、堂々と出現したのである。

こゝで私は、この建築の作者の意圖をもう一度考察して筆を進めよう。

作者はおそらく、この大和地方の農民建築の型式を採用することによつて、建國當時の宏大にして崇高なる天地に對する憧れを表現し、且つは紀元2600年の大祭典にふさはしいものであると考へられたのであらう。

秋晴れの1日を大和の山野に步を運ぶならば誰しも、このすみきつた青空が、このうれた赤い果實が、この稻の穗が、このすゝきが、この美しく立派な農家が、この足元の大地が、土が、2600年の前から、我々に傳へ殘されたものと思ひ、我々は2600年前の貴く澄みかへつた空氣を呼吸する程の愉快な氣持ちにもなるのであらう。この夢想には僅かの誤りもない、今我々のもつすべてのものは、さかのぼれば必ず2600年の歷史の向ふに、2600年前のそれぞれの前身があることに間違はない。

が、我々が今、大和に來て見る大和の建築は、建國當時の大和の俤ではなくて、支那佛教文化の浸潤せる奈良時代以降の大和の遺香である。であるから、この大和農家の型式をこんどの計畫に採用した事は、第1義的な失敗であつたと考へるが如何。內部壁間のレリーフの考證的なるに對して外觀上の扱ひは一寸見當外れであつたかと考へる。それに、大和農家の强烈なる特徵はあの屋根とあの切妻壁のみにあるのであるから、——外に局部的詳細な特徵がないので——形體的に參考とすべき材料に不足を生じ、作者の强烈なる藝術的

興奮にも拘はらず、多少の息切れが感ぜられたのは無理からぬことゝ云へよう。

上述の論旨を轉用するならば又次のように論ずることが出來る。

即ち、上述の「奈良時代以降」であるが、「奈良時代以降」といつても、それには建國以來のゆかしい歷史が先行してゐるのであるから、もつと正確に云へば「奈良時代以降」はとりもなほさず「建國以降」に外ならぬのである。かゝる考へ方によつて、容易に理解されるのは即ち、こんなことをして、我々が古い形骸を追つてゐる事は「現代を現代でなくしてゐる」といふ事である。又歷史を輕蔑してゐる事になるのである。云ひかへれば、我々はこんな古い形式をもてあそばなくても我々のなす現代的なる行爲には、2600年の歷史が先行してゐると云ふ事である。我々は現代的であると云ふ事によつて、我々が精神的に表現するところのものは、建國以來2600年の輝く歷史である。以つて、その2600年間の途中の形骸を追ふ事の如何に無意義なるかが了解せられるであらう。

我々が最も現代的ならんと欲して行ふところの現代的なるものにして始めて「國風」なる名稱を與へられて然るべきであり、中間的なる古き形骸の模倣行爲に「國風」の美名は斷じて與へることは出來ない。

我々は光輝ある紀元2600年を各々の生涯の中に迎へて精一杯の活躍を續ける建築家である。古い形骸の模倣は藝術ではない。藝術は創造である。その背後に脈打つ無限の思想と精神——我々のこの思想と精神は2600年の練磨の上に立つ——を表現するものでなければならぬ。2600年の時を流れて來た大きな力、歷史の奥底に脈動して歷史を決定して來た大きな力を知らねばならぬ。我々及び我々の子孫こそ、この力を今から未來永劫に流しつゞけて行く力自體であることを自覺すべきであらう。

☆　☆　☆

この建築を見て、私は作者の計畫的熱意の裏に藝術家らしい興奮を認めぬわけには行かなかつた。そこに私と一脈心の通ふような氣がしたのでなつかしく思ひ、この稿を草した。私の云つたことには間違があるかも知れぬ。又熱語重疊して或ひは作者、讀者の反感を買つたかも知れぬ、然し願はくば作者及多くの讀者の心を私の心の上に重ねて我々の思想を固めて行きたいと思ふのである。御教示を乞ふ。（14.10.13）

はがき回答

御返事

本年は我々のやうに學校にゐる者も建築界の忙しき空氣にふれて來ました。

本年は建築界も戰時體制に處するの道が開け困難な中にも昨年中頃の如き渾沌たる狀態もなく東亞新秩序の建設のために進む我が產業界の一方の戰士として着々とその使命を果し得たことを祝福します。

都島工業學校　益尾辰雄

鋼材節約方法の實行

建築用鋼材の拂底は愈々甚だしく危險と經濟とを冒して木造或は無筋コンクリート造を施工しつゝあるもの多きは甚だ遺憾である。速かに建築用鋼材配給制度の確立を望むものである。

然し乍ら他方に於て吾々は鋼材の無駄排除に努力を拂はねばならない、特に熔接の應用によつて多量の鐵材の節約せらるゝ事は明確である。然るに其の實行せらるゝ事の微々たるは眞に情けない次第である、識者の覺醒を促したい。

昭和14年10月15日

池田宮彦

鞄の靴

山口正

この標題は、おそらく活字の組み違ひで、本當は、**鞄と靴**といふのではあるまいか、と讀者諸君は思はれるかもしれない。が、これは決して間違ひではない。**鞄の靴**の話なのである。皮革が統制されて、我々の靴も昔ほど自由には得られなくなつた。そのために、色々な代用品が工夫され、中年のなりふりかまはぬ筆者等には、布製やゴム製の靴が歡迎され、若いおしやれの人達には、それ相應に豚や魚の皮が代用品として現はれた。この時に當り（これは少し物々しすぎる云ひ方であるが）筆者はよい思ひつきを實行して成功した。といふのは、使ひふるしの折鞄、はげちよろけになり疲れはてゝもう捨てゝも惜しくないような折鞄を靴製造家に提供して、1足の靴をつくつてもらつたのである。これ即ちこゝに云ふ鞄製の靴、**鞄の靴**なのである。さだめし無恰好な代物が出來たらうと、諸君は想像されるであらうが、なかなかどうして、頗る立派なもので、これなら、どんなに立派な紳士がおはきになつても、又どんな伊達者にはかせても充分滿足してもらへること請合である。外觀にもまして、賞嘆されるべきは、そのはき心地の斷然優秀なことである。安價で丈夫なことは申すまでもない。筆者が靴生活を始めて30年この方、こんな足ざわりのよい靴ははいたことがない。筆者は、日常相會するあらゆる人々に、**鞄の靴**の功德を述べたてた。電車の中などで、この鞄の靴を人前につき出して、傍に坐つてゐる見知らぬ人々にまで聞えるように大きな聲で、鞄の靴の一席を辯じあげるのは筆者近來のたのしみの一つである。この心地のよい靴に馴染んだ筆者の足は、通勤にも、現場通ひにも、散歩にも、この靴でなければならぬと主張した。途には登山にも防空演習にも、その外のあらゆる場合にも、**この鞄**をはいて出かけるようになつた。その必然の結果は、この鞄の靴が大變度勞して來て、筆者は鞄の靴の第2世を造るために、新しく、鞄を物色しなければならなくなつた。古くなつて捨てゝも惜しくないような鞄は、そうざらにあるものではないから、この計畫は多分實現するまいが、出來ればなんとかしてもう1足造りたいと思ひつゞけてゐるものだから、この頃では、人が折鞄をかゝへて立つてゐるのをみると、あゝよい靴になるなあと思ひ、しまひには、あゝよい靴をかゝへてあの人は立つて居るなあ、とさへ思ふようになつてしまつた。

つまらない身邊雜事をくどくどしく書きしるして、申譯ない次第であるが、筆者の底意は、この例によつて、**工夫すること**が、現下の時局に於いて、如何に必要であるかを强調したいのである。多くの貴重な發明、埋藏資源の發見、そういふ大きな事柄が期待されるのは申すまでもないことながら、こゝに記したような**些細な工夫**を各人が各持場に於いて試みることの必要を筆者は痛感してゐるのである。

☆　☆　☆

又我々の直面してゐる時局が餘りに重大であるがために、考へ方が一途になり、變轉自在の妙を得ぬことが多い。一寸した工夫を忘れて、途方もない無理の多い工夫を考へ出す、といふようなことがあり勝ちである。こういふ考へ方の態度は、例へば打ち込まれた太刀を受けることにかゝりきつてゐる受身の姿勢である。1歩とび下つて姿勢を改めてこちらから打込む積極的な態度、そういふ風な態度をもつて考へる、工夫する、ことが必要である。近頃方々で實施される、都市家屋の防火改修の方法の如きも、その考へ方に、工夫の仕方に、もつと妙案があるのではあるまいか。これに就いて識者の考へ方は專ら**燒けない家**を作ること、**家屋の延燒を防ぐ**ことにあるらしい。そして

燒けるものは何かといふ風に燒けるものゝ分析は試みられてはゐないらしい。こゝに筆者提唱の考へ方を進めるならば——。

燒けるものゝ分量は、家屋家財の方が、家屋よりも多いのである。であるから、一般家屋内に於ける家具家財の狀態を調べる。すゐぶん不用の家具家財が多い。これを整理して必要限度——最小限の居住形式——にとどめ、不用の分は處分するそしてその處分なしかねるもので平素身邊におかなくともよいもの、何等かの目的を以つて保存を要するもの等のために、都市には**市民倉庫**を建設する。この市民倉庫は都市の防火線として役立たしめ、また地階を防護室として利用するために鐵筋コンクリート造とし連續建築して都市を區劃する用にも役立たせる。無論かゝる方法の實施には、家具家財の管理、居住方法の統制などの問題を伴ふのであるが、防火改修の費用を以つて更に有効なる市民倉庫の長列を都市の中央部に獲得することは容易なことであらう。しかも家具家財の減少により我々の恐るべき**火の元**は半減するのである。

都市家屋の現況を詳しく見る者は、如何に多くの不用品が雜然と埃にまみれてしまひこまれてあるかに氣づき、家屋と家屋との間には、如何に多くの導火材料が積まれてあるかに驚くであらう。火災恐るべし、ではあるが、僅かの家具家財しか包含せぬ家屋の火災は、家具家財の充滿した家屋の火災と同じように恐れる必要はない。恐るべきは、押入一杯につめこまれ、或ひは長押上の棚に充滿した自家製の燒夷彈である。今我々の都市が空襲を受けたならば、我々の都市は空から落ちる燒夷彈より我々が我々の家屋に平素から用意した自家製の燒夷彈に身を燒く樣な事になるであらう。筆者の提案を用ふるならば、たとへ空襲により火災を起す事はあつても被害は少く、消火も亦頗る容易であらう。

☆　☆　☆

筆者は既に些細な工夫の必要を說き、更に、**積極的な工夫**を例を以つて說明した。最後にもうひとつ、**工夫はポイントを突くべきこと**を說明したい。これを簡單にいふならば、手を斬つたり、足を斬つたりするより、心臟を一刺しする方が敵を制すには早いようなものである。大きな災があるならば、萬の小工夫よりも、その根元を芟除するにある。大將を殺せば、敵は總崩れになる、背後の黑幕を倒せば、根のない木のようにばつたり倒れもするであらう。如何なる問題に就いても、そのポイントを突いた工夫でなければ勞多くして功は少い。この考へ方を現在人手不足の建築業界の事務の上に當てはめてみよう。

そもそも、用を果すに3種の手段がある。**その1.** 言語による場合に就いて考へるに、我々日本語を以つて自由に語り、意旨の發表に何の不自由もない。諸外國のそれと較べて勝るとも劣るところはないであらう。**その2.** 自身の移動による場合はどうかといふに、汽車、電車、自動車、汽船、飛行機とあらゆる便利な交通機關があるから、我々は容易に目的地に達し、用を果すことが出來、この點も亦諸外國のそれに較べて、日本のそれは決して劣つてはゐない。ところがこゝに問題となるのは、**その3.** 文字による場合である。筆者は今こゝで日本の文字を外國の文字に較べて論じようとするのではない。筆者がこゝに云ひたいのは、我々は片手で文字を書く。諸外國では10本の指で文字を書く。その差異を我々は何を以つてカバーしたらよいのであらうかを云ふのである。外國では、タイプライターは事務に、生活に、我々のペンよりも自由に用ひられてゐる。我々にはこれがない。便利なタイプライターがない。單なる機械1種類の問題に過ぎん、と諸君は笑ふかも知れない。然しこれは大和魂だけでは片附けられる問題ではない。我々の居住する家屋にしたところが、その製作に於いて、タイプライターに依らざる事務が含まれてゐる以上、我々の拂ふ建築費

は、我々の拂ふ家賃は、當然低能率による不當消耗を含んでゐるのである。諸君は、我々の生活に自動車のない場合を想像してみられた事があるか、文字の世界に於いて、我々は自動車にも比すべきタイプライターを所有せぬのである。我々の文字の世界の交通機關は駕があり、人力車があるに過ぎないのである。これでは諸外國と平等に競爭することは出來ない。出來るとすれば大きな犧牲が拂はれてゐるに相違ないのである。

この問題の深刻さに就いては、諸君は恐らく考へてみられたこともないであらう。若しそんなこと位よく知つてゐるといふ人があれば、知つてゐながら道を拓く力の無い點、筆者と同じ程度の意氣地なしである。如何に？　人手不足の請負會社に、官廳に、事務所に、あの澤山ならんでゐる印刷機、ゴツチョンゴツチョン型タイプライター、あれを廢して10本の指で打つ輕快迅速なる本當のタイプライターを利用する途はないものか。多くの事務所では、カーボン紙をはさんで、指先に力を罩めて數枚の寫しを造るといふ不快にして困難なる作業によつて、明細書と、仕樣書と、契約書が作られる。あれを快速タイプライターの仕事に移して能率をあげ、人手を省く工夫はつかないものか。あゝ何とかならんものかなあ……と筆者はいつも考へるのである。この考へ方は即ち問題の**ポイントをついた工夫**を求める考へ方である。

多くの細い問題にわたつて工夫を積むよりも、こうして根本問題たるタイプライター使用の問題を解決するならば、あらゆる經營體の幹部は人間を集める苦勞から救はれ、被庸者は連日の殘業から解放されるであらう。（14.10.30）

村野藤吾氏の言

時局的な刺激も常態と成り特に感想なるものも無之候　舉國的に建設、經營、擴充等もさることながら「文化」的貧困さを何と見らるゝか、編輯部諸兄も外國雜誌の轉載などにその日かせぎをせず路傍の小石にもするどい觀察を行ふ心を以て次に興る日本的文化の爲めに一段の御努力を切望仕り候（11.1.受付）

回顧痛快の1年

大下順三郎

永年の間、一般社會から、其の存在を輕視され勝であつた吾々建築技術者にも、此の昭和14年の回顧程、實に痛快なる1ケ年は、未熟な吾々には未だ嘗て味つた事はない。1昨年來の時局關係で或時は「建築技術者よ何處へ行く」てな事程左樣に、危惧された事さへあつた吾々の進路にも、正に坦々たる大道が拓かれて、老も若きも、どしどしと吸收されて行く處、實に建築技術者の當り年であつた。殊に過般の國家總動員法に基く徵用令に於て、爲政者が其の採否を、最後まで淩巡して居た、吾々建築技術者が、他の部門に率先して、晴の技術戰士として門出した事は、眞に胸のすく近來の「ヒツト」であつた。從來やゝもすれば、建築は恰も不生產的な一分野なる如く、誤られたる觀念を否定せしめたるのみならず、此の一事のみにても、吾々建築技術者が、現代社會に於て國家構成上、如何に重大なる部門であるかを再認識、否、驚異の眼を以つて確認せしめたのであつた。斯る好機に於てこそ、吾々は眼前の小康に滿足することなく、愈々其の國家的重責に恥ぢざる研讀を積み、多年に滯り山積せる諸懸案、就中建築士法案並に、各官公署諸團體に於ける建築課獨立等の實現に向つて、邁進すべきである。而して此の難關突破の要諦は一つに、吾々建築技術者の倦まざる一致團結にして、之がためには苟も同じ部門內に於ける區々たる理想論に禍ひされることなく、大乘的見地より其の實現に最善の努力を拂はれん事を切望して、意義深き皇紀2600年の佳春を待望しつゝ痛快の1年を回顧忘年致し度い。

隨　　想

松　本　儀　八

僅か一年の間に三代の内閣を迎えると云ふ事はこの非常時局に際して、一寸奇異でもあり、亦當り前のことでもある、と考へられるが、仲々重要な意味がある。

私は是れに對して兎角の批評を加へる事は差控えるが、これだけのことに依つても、東亞建設と事變心理なるものが、如何に困難なる事であるかを、考へさせられるのである。

最近國際關係の急速なる複雜化は、目ま苦しいものがある。歐洲の紛爭が歐米列國をして、東洋に手を延ばせまいと云ふ觀察は當らぬ、我々は歐洲の紛爭を對岸の火災視して居る譯には行かぬ。即ち東洋に對するソ聯の動き、アメリカの關心は甚だ注目に値する。この爲に我國の立場も、右すべきか、左すべきか、實に晏如たり得ないものがあつて、弱肉强食が、今日程痛切に感ぜらるゝ事はない。一步誤まれば、東亞の建設も、幾萬の貴い英靈も、徒勞となり、東洋永遠の平和は望まれない。我々は今や拔差ならぬ、大きな歷史の轉換期に一步を踏み入れ、好むと好まざるに拘らず、斷々乎として、大目的を完遂せねばならぬことゝ思ふ。事變は凡ゆる手段を盡して、急速に終息せしむべきで、一日たりとも延引を許さない事情にあるのではないかと思はれる。

東亞の再建は實に前途遼遠で、第二第三と幾多の難關が行手を阻んで居る。これが達成に、先づ國內機構のあらゆる部門の刷新統制がもつともつと强化されなければならぬと信ずる。

これを經濟的方面から觀れば、事變以來相當統制方針は擴大され、最近は一段と强化されたが、より一層の官民一致の努力が、要求されるのではないか、着々實施せられるであらうが、政府は宜しく右顧左眄することなく、全面的に且つ早急に國民の協力を求むべきであらう。

飜つて私共の關係して居る業界の分野に於ても事變以來相當の打擊を受け、一般需要は激減を示し、剩さへ人的物的資源の窮屈さに一時は營業繼續の困難さへ感する程であつたが、それは國內の不急建築の一齊中止乃至禁止に、起因するもので大建築は軒並にストツプを命ぜられ、延いては造作工事方面の事業も一頓坐の體に立到つた譯であつて、今や建築界の重點は軍需關係、生產力擴充關係及び大陸進出に集中されて居るの現狀である。他方、事變以來造船界は、今日迄の冬眠狀態から、俄然、活況を呈し、輸出の振興、外貨の獲得を目指し、船舶の新規建造著しく增加し、歐洲の險惡なる風雲は是れに拍車を掛けて未曾有の繁忙さを現出するに至り、從つてこの方面への造作事業の進出は素晴らしくなつた、特に客船は外客獲得の一國策として凡ゆる方面で外國に負けない國產材を使用する豪華船多數を建造する事となり業界も獨特の技術を揮ひ、其の優秀さをも認めらるゝ事となり正に優秀船建造時代の觀さへある。

特筆すべきは滿洲國を始め大陸方面で、東亞建設の最前線として逐次軌道に乘りつゝあり、將來の發展は內外共に注目の的である。この新天地に本格的進出をする時こそ洵に東亞一體融合の燦然たる技術の花を咲かせるべき時代であらう。

只、こゝに當面せる難事は人的資源の缺乏で、最近に至り一層深刻なるものがある、この爲に業界の腦みも亦相當なものである。この難關を遮二無二突破するには、異常の努力が必要である。斯かる惱みは獨り我業界のみではない、產業界全般の惱みであらう。是れを克服すること夫れ自身が我々に課せられた、現實當面の難關で、貴い試練でもあり、東亞再建の一步でもあらうと思ふ。

要するに斯かる非常時局に際會した我々は齊しく國策に順應し、苟しくも利潤追及のみに走らず滅私奉公、各々其の業を以て、皇國に報ゆべきであると信ずる。（11月10日稿）

文　献

綠帶都市が直面した1939年の出來事

この田園都市の第1年目の都市並政治的活動——將來に對する批判

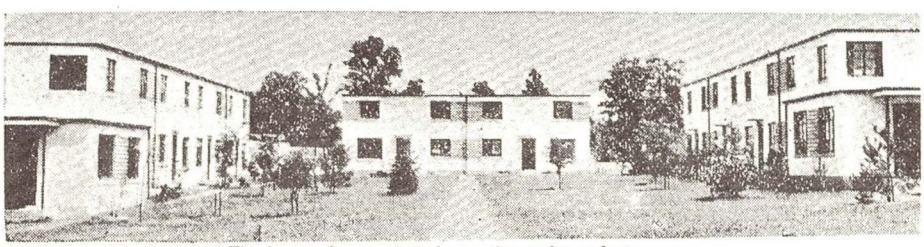
メリーランド大學政治科敎授　ヒュー・エ・ボン

Hugh A Bone: Greenbelt Faces 1939;—
Civic and Governmental Activities of this Garden City's 1st year —— An Evaluation for the Future;……
(The American City, Feb., 1939. P. 59.)

米國聯邦政府の計畫した3個の綠帶都市 1) の內で最古の綠帶都市 メリーランド (Greenbelt Maryland)は、1937年10月1日、歡迎裡に最初の居住者を迎えた。今日では約306棟のアパートメントと599戸の低層住宅のなかに約3.000人の人口が集合する樣になつた。此の都市は高原上に三日月型をして建設され、中心に建立された公共建築物は、各戸毎から容易に徒歩で達し得る距離に配置されてある。此の都市の位置はワシントン D. C の下町から北西12哩のところに位し且つ基本的街區が5個の優秀なる區劃 ("Super block") より構成されて居る。道路計畫は徹底的に從來の形式的方法を避けて居る。住宅はいづれも公園又は遊園地に面して居る。此の故に勝手口 (Service entrance) がいづれも道路に面して居る。此の都市では歩道は必ずしも道路と平行させないのを原則として居るが風は都合よく吹いて吳れる。

此の Greenbelt と云ふのは Maryland 州の一自治體に過ぎないが行政的な都市經營上の型として誇るに足るものである。5つの市會によつて Roy S. Braden 氏が此の都市の經營者として任命されたのである。彼は助役 O. Kline Fulmer 氏と4つのスタツフによつて援助されることになつた。之れは州內に於ける都市組織に關しその經營者を選定するのに比例代表の Hare システム (Hare System of proportional representation) を採用したところの唯一の都市である。然し乍ら此の方法は市會議員を選擧する場合には適用しないのである。

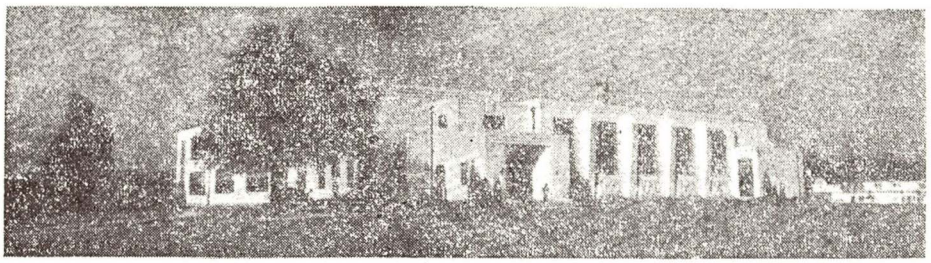
1939年に於ける市會の豫算案は、經常費(Current municipal expenses) として72.000弗の歲費が計上されたと謂はれて居つた。圖書館、テニス・コート、ハンドボール・コート、及厚生會館 (recreation building) 等の施設は近き將來に實行さるべきものとして考慮企畫中のものである。農家收獲局は (Farm Security Administration) 72.000弗の經費を以つて都市水泳池と浴場 (Bath-house) との建



The houses in greenbelt face, the parks and play arers

1) 綠帶都市の內で他の2個の都市と云ふのはウイスコンシンの Greendale とオハヨー州の Greenhills である。Greenbelt は勞働者救濟事業として約16.000.000弗の經費を費して建設されたものである。而もそれは國內移住局の計畫なのであつた此の試驗的試みの爲に 12.259 英町の土地が留保され、且つ都市の所有として社會的又は經濟的用途の爲として3.600英町の土地が用意されてあつた。從つて將來に必要な擴張の爲にも充分なる土地が用意されてあつた。

譯者註　要參考論文=Greenbelt Town : American City, May, 1936. P. 59. 及 Aug., 1935. P. 56. (筆者譯　綠地帶都市と同敷地計畫. 建築と社會. 昭和11年7月及同10月, 平野眞三氏. 新田園都市グリーンベルト市. 都市問題. 昭和14年3月117頁.



田園都市の學校と公會堂

築を殆んど完成せしめて居る。此の水泳池の維持費は、入場料を以つて賄ひ得る事を豫想されて居る。尙ほ昨年中は單に水泳用として使用された人工湖水の利用に關しては誇り得る施設が市會によつて次の夏期までに準備されるであらう。

此の都市は美望に價する多數のプログラムを以て1939年に直面して居るのである。最初の15ヶ月間（1939年1月までゞ）に於ける此の都市の交通事故としては僅か8人の負傷者が記錄されて居るのみである。此の事は、此の都市の街路の總延長が歩行用として殆んど利用されてないと云ふことを意味するのであり、此の事は都市計畫上等閑に附し得ざる重要な問題である。即ち街路の横斷に關し、見透しを著しく阻害する程各建物が隣接して建て込で居らないことと5つの徒歩道路が街路の下をくゞつて高低交叉をなして居り、殊に街路に接續して駐車場が建設され且つ交通に關する法制的取締が充分なのであつたこと等から招來した結果である。故に此の間に於て此の都市は僅か10名の拘引者を作つたに過ぎないのである。

此の Greenbelt は合衆國政府が地主であり且つ又家主でもあつて他に類例の無いものである。1室1ヶ月18弗のアパートメントから7室1ヶ月（煖房も含んで）40弗の長屋（attached house）までの階級の家賃を政府が蒐集するのに殆んど困難な問題が惹起しなかつたのである。而も居住人の年收總額は僅か1.000弗から2.200弗に過ぎなかつたのである。此の都市に於ける市民の不平に關する報告は敏速に承認し且つそれを補正して行つたのである。此の故に一般的感情に於て、米國政府はよき地主であり且つ又よき家主たることを得たのである。

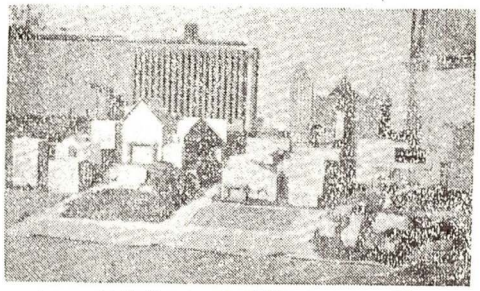
聯邦政府の所有であり且つ又Maryland州の聯合體でもあると云ふこの二重人格的存在のGreenbeltは、計畫事業が事業化される場合その法律的關係に於て或特別な複合した問題（Complex Problems）を惹起せしめたのである。農家收獲局は徴稅の代りに、Maryland 州と Prince George 縣との間に、互に相當する徴稅問題が惹起することを注意して居つたのである。が然し道路や學校建設といつた様な事業が聯邦政府、市會又は Maryland 州のいづれによつて事業化さるべきものであるかを確定することは、必ずしも容易なことではないのである。而も此の事柄に關する無數の問題は、前例がないと云ふことから問題を處理するのに數年間を要するのであらう。即ち市民が生活の必需として享有すべき施設が、市民によつて提供さるべきものであるか、或は何れかの聯邦當局によつて設備さるべきものであるかに對しては、既に問題が惹起して居るのである。

此の都市の教育施設としての小學校並中學校建築は、採光通風に關する科學的考慮は勿論體育設備等に至るまでそれが頗る現代的な整然とした施設なるを以つて、その整然さの故に魂を奪はれる程魅力あり而も合衆國中かゝる類例は見出し得ないものであることを誇りとして居る。かくして此の小學は自治體の中心としての都市の中心地になつたのである。此の建物の街路側面には、此の組織の序言と云つたものが戯曲化されて薄肉彫の彫刻が彫られてある。

高度なる都市活動 [2]

斯くして新年を迎へた Greenbelt への最も嚴密なる觀察は高度なる都市生活と都市活動に就てである。此の高度なる活動力の源泉は、最初 "Green-belt 市民協會内に存在して居つた。此の協會の活動の目的は Greenbelt 市の行政的能率を

註 [2] Intense Civic Activity.



ボール紙模型による住宅問題の歴史の展示
（田園學校に於て５つ段階の計畫として）

高め、市民の啓蒙を計り、規則を制定し而して Greenbelt 市民の一般的福祉に對するあらゆる備へをなす" と云ふことであつた。而も市民にして成年ならば、何人と雖も此の協會の會員たる資格を備へて居るのである。協會は委員及委員補によつて高級なる組織として毎月第１月曜日に集會が開かれる事になつて居るのである。而も此の集會への出席者は200人を下ると云ふことは極く稀であつたのである。此の集會に於ける討論は實に活潑なものであり且つ又此の都市に於けるあらゆる會合の内で此の集會は最も特殊なる性質と機能を持つて居るのである。更に之に加ふるに都市住民の内７才から21才までの小市民への少年市民協會は、議會的な方法を以て此の若い自治集團に對し、意見の發表に關する發言の經驗を獲得し得る機會が與へられる樣な構成となつて居る。

１週間中のカレンダーに示された此の都市の行事を一瞥するならば、趣味倶樂部（Hobby Club）ボーイスカウト、Cubs, ガールスカウト、未就學兒童母の會（Pre-School Mother's Club）學齡兒童母の會（School Age Mother's Club）、ラヂオ倶樂部、グライダー倶樂部、寡婦倶樂部、田園倶樂部 Duplicate Bridge Club、水泳倶樂部、カメラ倶樂部 アメリカ軍團及常連顧客倶樂部（Fetter Buyers Club）等の行事が示されてある。

宗教的要求に應じて非宗派的 Greenbelt Community 教會が建立され且つ其處を學校の大講堂（School auditorium）としても利用して居る。更に又朝の一定した禮拜プログラムに從つて居る Church School はあらゆる年齡の人々への施設としてそれを擴張して利用して居つたのである。キヤソリツク教派や Latter Day Saints の Church of Jesus Christ の會員及 Holy Name Society 等は此の Greenbelt 内に於て集會を持續して居る。毎日曜の夜に催される青年會（Young PeopleSociety）は比較的多數の出席者に樂まれて居る。

驚くべき大多數の人々が、彼等自身で音樂や芝居に絶大の興味を持つて居る事が示された。Greenbelt Players は約50名の會員を擁し且つ又彼等自身の慰樂の爲、大當りを續けて居る一幕物を演出したり又は "Play Shop" 等を演じて居る。ダンスバンドはChamber音樂集團（Chamber music Group）と同樣に演奏會を催し、合唱團は慰安と教育とを兼て音樂活動を昂進さすべく毎週集會を催して居る。

體育に關するものはGreenbeltの生活活動中最も顯著なもの丶1つとして行はれてゐる。Communityは厚生監督者を肩して16ケ所の遊戲場、ピツクニツク地（湖邊に添ふた）體育施設及一般的Community festivals の生活に當たらしめて居る。男子部のグループは彼等自身で the Greenbelt 體育協會を組織して Greenbelt 中のあらゆる組織の内で最も活潑なる活躍を續けて居る。此のグループは内部の機關として野球、蹴球、ボウリング及バスケツトボール等のチームを組織して居るのである。テーブルテニス（ピンポン）ソツカー及ハイキング等は一般的に不定期的に何日でも行へる他の娯樂設備と同一視されて居つた。上記に指摘した如く之等の計畫は、次の夏までに水泳及ボート部等へも擴張される豫定となつて居る。

以上の諸活動以外に、１週間５夜でうの替りの興行を打つ劇場がある。故に市民の何人でも最早經濟的缺乏の故に若は Washington への交通の故に體育活動の貧困と云ふことがあり得なくなつたのである。更に又運動場、遊戲場及庭園等への無限の擴張が可能であると云ふ利便は他の多くの都市の如くその廣さ及安全性が制限されたる厚生計畫でない全く拘束されざるところの厚生計畫を開發し得る輝しき機會が此の Community に與へられたのであらう。

Greenbelt 市民によつて經驗された他の興味ある Community としての經驗は、共同保健計畫、信用組合（a Credit Union）及樣々な小賣店及サーヴイス・ステーションが、市民の協同組合として引繼がれる豫定であると云ふことである。而も此の組合は故 Edward A. Filene 氏によつて利益を考

へない組合として組織された消費組合（Consumer Distribution Cooporation）として經營されるのである。で、若し之等の活動が現在の見込の様にその成功を證明し得るものとすれば、筆者は未來の American City 誌上に於て更に此の點に就て論及したいと思つて居る。

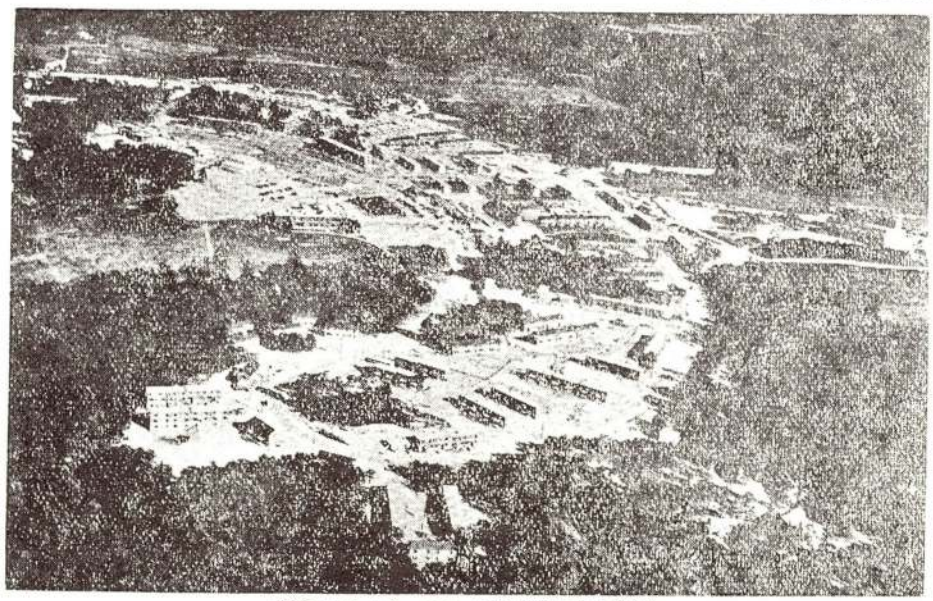
教育活動 3)

Greenbelt 市民に就て、最も貪望的な興味の一つは教育に關する事柄である。1938年9月に此の問題に直接利害關係のある300名の人々によつてなされた所謂「教育的利害と希望」に對する討論會の模様が報告されて居る。第1年目の終りに市民協會の教育委員會（The Educational Committee of the Citizens Association）は、子供と大人の爲めの、繪畫と彫刻に關する自由藝術學級と幾つかの家庭經濟學級（Home Economics Classes）を招來せしむるに成功した。昨年10月15日までにMaryland大學へ献納する大學として現代政治問題と叙述に關する名譽科（Offer College Credit Courses in Contemporary Political Problems and in Accounting）の調整を行つたのである。教育委員會は1939年までに成年者の會議所、Panels 及夜間討論グループス（"Neighbour-hood night" discussion groups）を持ち來らすところの見込を付けて居る。

以上に加ふるに、大多數の倶樂部は互に多くの計畫を調査研究してゐる。即ち此の事をよく説明して居るのは書食組合（Launching Cooperatives）に對して廣範圍な豫定計畫を持つて居る協同組織委員會（the Cooperative Organizing Committee）と市場の買賣、配給及品質等を相互組合運動の調査研究を問題として居るよき顧客倶樂部（Better Buyers Club）並 Home Makers Club[4] とである。

小學校は機能的な若くは進歩的な教育の原則に從つて經營されて居り學課は勉强の基礎單位に關して計畫されて居る。例へばピツクニツク、ペエージエント又は花卉園の植込等の計畫、購買及注文と云つた類ひの各單位が1週間中に4乃至6成就することを要求されて居る。去年などは5つの段階に分つて、ボール紙の模型を造つて住宅問題に關する原始時代から現代までの歴史的叙述をなさしめた。又兒童達は彼等の學用品やキヤンデー等を買ふ爲め彼等自身で消費組合式な店を設立した。而も支費額は各自10仙宛で且つ利益は既に分配されたのである。

斯くの如き方法による教育に就ては此の都市並に縣からの甚大的支持を受けたのである。傳説的な在來の方法を持續して來た少年部のみが此の新しい教育方法に高度な而も頑强に批判的態度を保



建設中のメリーランド綠帶都市空中寫眞

3) Educational Activities

4) 結婚助成倶樂部の様なものであるまいか（譯者註）

ち續けて來たのである。が然し此の事が實は實際的意味に於て決定的に有利となつたのである。此の故に學校は縣下に於ける父兄や訓導達の訪問を非常に受けたのである。從つて父兄訓導會（Parent-teachers meetings）は常に多くの人々を引き付けて居り且つ又此の教授法に非常なる興味を感ぜしめたのである。

結　　語

此の Greenbelt の都市並行政活動に關する前述の根據に付て、最初の年には如何なる結論を誘致し得たであらうか。此の質問に對する多くの答はいづれも論爭的なものである。然し乍ら筆者は此處に一般的に了解し得ると考へられる觀察を提供するならば、

第1の段階に於ては、此の都市社會は異狀に高度な道德的水準を有して居り且つ又居住者は安全性と健康とそして安泰と幸福とが適當に按配されて享有されるのである。從つて居住者の多くは精神的にも、經濟的にも、彼等の今日まで經驗した限りに於て最高の生活標準を樂しむ事が出來るのである。

第2の段階として、筆者の知り得る限りに於て、此の Greenbelt は他の如何なる都市よりも、更に多くの俱樂部や都市活動機關が各中心地（Capita）毎にある。そして此の都市の市當局は、どちらかと云へば興奮し過ぎて居ると云ふことが出來る。何故なれば彼等は彼等の希望する以上更に活潑なる活動にたづさはるべき多くの事を計畫したり或は多くの事を試みたりして居るからである。例へば市民協會（Citizens Asstociation）が最近在宅日（Stay-at-home）と云ふものを豫め定めたり、或は12月の最後の週間は、都市のあらゆる俱樂部と都市活動のモラトリアムの聲明を決議したと云ふことは、むしろ滑稽であるが同時に又容易ならざる問題でもある。

更に又多くの部分に於て、市の支持し得る財政の限度を越えて、更に多くの事柄や計畫を期待して居ると云ふ傾向がある。既に幾人かの更に將來を見透す市民は「彼等の眼識が都市の歲入より以上に大である」と云ふ熱心なる連中に關しブレーキを置く企てがあるのである。

そこで Greenbelt は昨年（1938）からより以上の程度に此の實驗的な社會の關連性に就て人々の教育問題が惹起して居るのである。多くの教育事業は、都市の財政的貧困性を協力手段で解決される以前までは更に貧困の狀態にあつたのである。都市は好ましからざる壓迫を克服し或は都市の公共的關連性改善の問題も生じて居るのである。又當時の新聞の論調は此の都市は現世には存在し得ない「ユートピアン」的生活を以つて表現され且つ又可笑しき出來事であるとして之を誇張して傳へてゐる。

昨年中に實驗された Greenbelt の出來事は、人道的に云つても又は心理學的に云つても著しい成功であつたと云へる。此の都市に關しては、聯邦政府へ財政的拂戻の可能があるか或は自給自足し得る可能性は單なる想像でしかなかつたのかのいづれであらうとされてゐる。後者の場合若し充分なる實驗が可能であるとするならば、都市生活を革新する見込が充分あるとされて居る「田園都市」の動向に非常なる刺戟を與へることになるであらうと、されてゐる。米國の都市歷史の長い期間を經過した都市計畫に關して、此のデモンストレーションが樣々の失敗を克服しつゝ成功を齎した事を喝采する前に、現實性は之れに關する豫じめの批評と注目に價する報導とそして組織立つた調査をば要求する。（龜井幸次郎）

戰時下勞務者の動態

戰時下の生產擴充にともなふ、現在の產業戰線には一體どの位の勞務者が動員されてゐるか、厚生省勞働局調査の實數が11月14日發表され顯著な移動を物語つてゐる。昨年12月末現在の勞務者は約6.765.000人だつたが去る6月末現在の調査に依れば一躍8.136.000人に急テンポの飛躍ぶり、もつともこの數字には昨年末の6.765.000人には含まれてゐない農業、漁業勞務者の約990.000人が加算されてゐるが、然も約半年間に380.000人が增加した譯である。尙之を部門別に見ると工業方面は昨年末の3.855.000人が4.468.000人、鑛業鎭山方面の436.000人が474.000人に時代の寵兒振りを示してゐるが一方平和產業部門は漸次減少の傾向を辿つてゐる。やはり不急產業より時局般賑產業への動きの大きいのがわかる。

引張力を受けるコンクリートの隅部

本文は Engineering New Record September 28, 1939に D. B. Gumensky 氏によつて、述べられたもので、四角形の導火管の内隅に内壓により引張應力、曲げ應力を生ずるが、これに抵抗するため5種の配筋法をもつた試驗材を作成、試驗結果よき配筋法を求めたものである。

その試驗材は Fig. 2 (第2圖) に示すもので配筋法はA. B. C. D. Eの5種がある。

Aの配筋のものは3吋の隅肉を持ち、又隅筋 (Cross bar) を持つてゐる。この配筋のものが四角形導水管に多く用ひられる。

Bの配筋は隅筋を持たぬもので、第2次的重要さのものに或は以前に多く用ひられたものである。

Cの配筋は出來得るだけ鐵筋を短かく且配筋を簡便にしやうと努力した暗示にとんだ配筋である

D. E の配筋は鐵筋端の折曲げを内方向とし、鐵筋の折曲げが一部に群ることを防ぎ配筋を容易にしたものである。

試驗材は圖の左上部の如き寸法の大きさで、これは10呎角の導水管と同一寸法とし、荷重も實際の場合の水の内壓力と同じ荷重にしたものである

隅部のモーメントは Mc=12.73T 呎封度に等しい。ここにTは引張棒 (圖に於てPull bar) に起つた引張力である。試驗の狀態は Fig. 1 (第1圖) に示す。

各配筋法につき試驗體は3個づつ、計15箇試驗した。型枠の構成、鐵筋の曲げ、鐵筋の組立等1/16吋の公差のもとに作成し、コンクリートは一練りのものから凡ての試驗體を作つた。コンクリート打込後華氏70度の濕氣ある室にて試驗の日まで保存した。試驗は材齡28日に於て行つた。このコンクリートの平均强度は 4,1170粁/口″である。

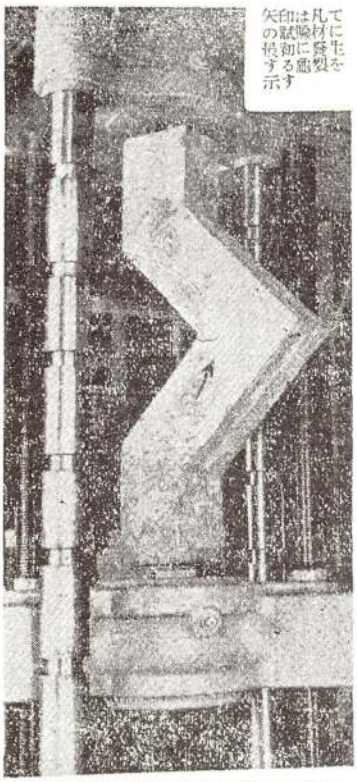


Fig. 1. Coner specimen under tension; arrow indicates first crack location typicall for all specimens. (第一圖)

引張試驗の場合、引張力は1秒につき4000封度の割合で加重した。引張力は二度讀んだ。それは試驗體の内隅に最初の龜裂を認めた時と破壞した時である。これが次の第1表に記されてゐる。この試驗の結果最も注目すべき點は最初の龜裂が、總ての試驗體に於て殆ど等しい引張力によつて生じてゐることである。これは總ての試驗體に於て略等しい强度である鐵筋とコンクリートの附着應

(第二圖)

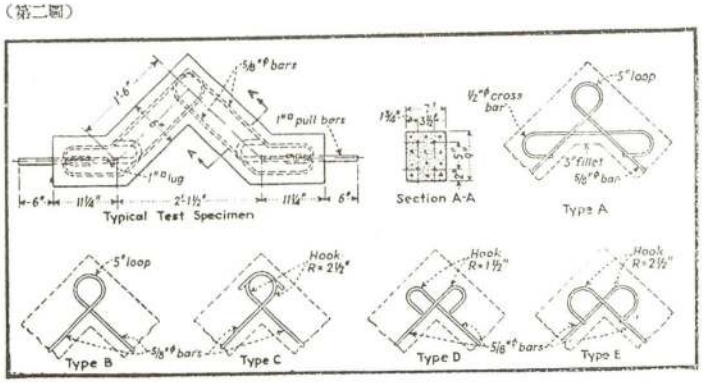


Fig. 2. Test specimen dimensions and five types of Corner reinforcement.

力度の缺陷から生ずるものと考へ得られる。試驗體の終局强度は、附着應力度或は、寧ろ鐵筋端の折曲げのコンクリート中に於ける碇着力によるものであらう。

第1表　15の試驗體の引張試驗の結果

配筋型	配　筋　法	最初の龜裂引張力(封度)	終局引張力(破壞)
(A)	5吋の輪形¾吋の隅筋	6,733	22,336
(B)	5吋の輪形	6,733	10,266
(C)	5吋の折曲げ	6,133	8,666
(D)	3吋の折曲げ	6,100	7,533
(E)	5吋の折曲げ	6,150	6,533

上記は3個試驗體の3個平均の値

この實驗から隅部は完全な輪形に鐵筋をなし、それにつけ加へるに隅部に短い隅筋（Cross bar）を入れ、コンクリートは隅肉（Fillet）をつけたものが最も丈夫であることがわかつた。丸く輪形にまいた鐵筋の中に入つたコンクリートが、終局强度を高めるに役立つ。隅筋は略その挿入鐵筋の量に比例して隅部の强さを增加する。（堀口甚吉）

共通の中心なき8つの放射狀トラス

サンフランシスコの世界博覽會の音樂堂に風壓りの中心支持が用ひられた。この音樂堂は幾數なしに3500人の席を設け、何れの場所に於ても音樂聽取上最上條件を滿足しなければならなかつた。この爲には、八角形の平面が最も經濟的である。

この八角堂の塔屋根は、急に地盛した上に築いた基礎の不動沈下からの危險を避け得るやうに構造する必要があつた。それに對して考へられたのが次の考案である。

第一圖

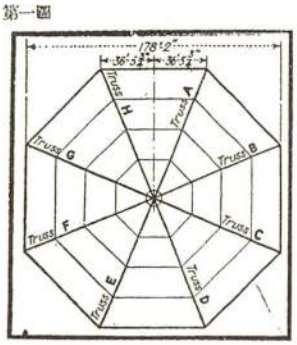


Fig. 1. Radial trusses are arranged in pairs over the octagonal.

第1圖に明かなやうに4對の放射狀トラスを用ひ各トラスは3鉸迫持からなつてゐる。

各對のトラスは他のトラスからは全く分離してゐるので一つのトラスが基礎の不同沈下を起しても他へこれが影響しないやうになつてゐる。迫持の半分である8つのトラスは、中心部のパネルを除いて同形である。中心部パネルは中心のピンが各對の迫持によつて異なる高さになるやう差をつけてある。第2圖はこれを表はしたものである。

各トラスの床面の下は⅞"×8"からなる水平繋ぎ鈑を持つてゐる。この鈑は長さ30呎でピン接合になつてゐる。この繋ぎ鈑は中央の1本の杭から引かれてゐる鎖に接續されてゐる。

屋根面は1/12の勾配を持つ。音樂堂の天井、壁はテックス類をはり音響的效果を與くしてある。このテックス板は側壁は間柱に、天井は棰の下に張られてゐる。故にトラスはこのテックス板の下に露出してゐる。

八角形のまわりの壁は高さ72呎で1平方呎に付15封度の風壓に對して設計されてゐる。又震度0.1の地震に對しても安全な樣に設計されてゐる。壁は基礎の局部沈下を防ぐ樣筋違を入れた。

（堀口甚吉）

第二圖

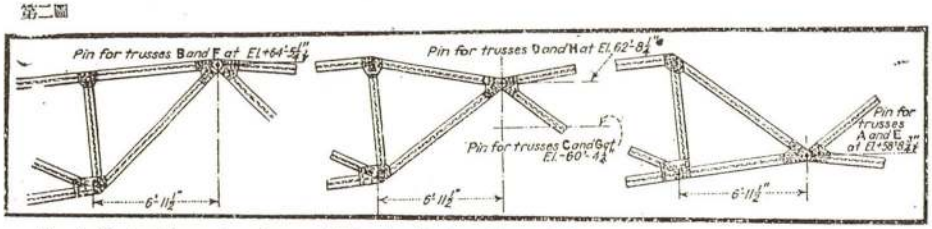


Fig. 2. Center hinge elevations and joint details for eight radial trusses.

會報

材料委員會（第8回）

時　11月2日午後6時50分—9時

所　陳列場別室

出席者　委員長　松久保

幹事　道田

委員　秋田、久保田、楠瀬、島田、矢田

鈴木

協議事項

1. 用材生産統制規則に關する件
2. モーラ研究所製金網に關する件

常務會（第20回）

時　11月6日午後5時10分—6時

所　陳列場別室

出席者　理事　片岡會長　坂　副會長

常務　黒田主記　伴野主記

三浦主記　藪中主記

久保田主計　松井主計

龜井編輯　新名編輯

柳橋編輯　堀口編輯

議事

1. 用材生産統制規則に關する講演會開催の件
2. 細則一部變更に關する件
3. 建築學會より厚生施設展覽會共同主催方申出の件
4. 日本技術協會より會誌交換方申出の件
5. 助手辭職願出の件
6. 會員詮衡

報告

1. 忠靈塔講演會終了報告
2. 建築學會より同講演會終了挨拶
3. 入營者報告

評議員會

1. 昭和14年11月6日大阪市北區中之島3丁目3番地朝日ビルヂングに於て評議員會を開會す
1. 出席者下の通評議員25名

伊藤和夫	飯田賢次	石井春雄
石川寛三	石川純一郎	大下順三郎
岡本松太郎	片岡　安	龜井幸次郎
久保田種吉	黒澤　研	黒田　茂
芝田知重	新名種夫	柳橋　諒
中島喜平	中野順次郎	坂　靜雄
伴野貞三	堀口甚吉	松井清之助
三浦　茂	矢田鐵藏	藪中一眞
米倉威夫		

1. 午後6時1同着席會長理事片岡安氏議長となり只今出席者22名にして定款第24條に依り評議員定員43名の2分の1以上の出席に付本會成立の旨を告げて開會を宣し直に議事に入る（開會中3名出席す）

議案第6號　昭和15年度收支豫算の件

議長擔當常務より說明の旨を述べ松井主計常務立ちて各員に配付の原案に付詳細說明ありたる後1.2內容に付質問あり之に對し議長並常務より詳細回答し他に質問なきを以て議長より讀否を諮り（贊成々々の聲あり）異議者なく滿場一致可決す

議案第7號　會費滯納者處置に關する件

議長より會費滯納者の氏名は讀み上ぐることを差控へ此机上に置くを以て御覽を乞ふ旨を述べ其勸込に付最善を盡したるも到底望みなく止むなく定款第14條により本案を提出したる次第を說明し止む得ざるものと認め異議者なく除名處分に附することに可決す

議案第8號　評議員補缺選擧に關する件

議長より評議員小宮賢一、中井新一郎氏の兩氏今般內務省並神奈川縣に夫れ夫れ轉任のため辭任申出あり任期は尙1ケ年あるを以て之が補缺選擧の可否に付諮りたる結果通常總會に於て補缺選擧を行ふことに異議者なく可決す

議案第9號　細則1部變更に關する件

議長より本案は緊急動議として提案の旨を述べ

細則第7條中入營の次に應召及應徵を加ふること

同第8條中評議員の定數を60名に變更すること

の二件に付第7條は最近會員中より應召並應徵者あり之に對して入營と同樣に其期間中會費を免除し第8條は最近多數の會員增加あり隨て評議員の定數を增加せんとする旨夫々其理由を說明して贊否を諮りたるに異議者なく原案に贊成

ありたるを以て通常總會に提案することに可決す

1. 次で議長より本評議員會議事錄の代表署名者に下の二氏を指名し其承諾を得たり

中野順次郎君　　米倉威夫君

1. 茲に於て議長より本日の議案は以上で全部終了に付評議員會は之を以て閉會する旨を宣し散會す時に午後6時50分

用材生產統制規則に關する講演會

時　　11月8日午後6時40分—9時40分

所　　協會倶樂部室

出席者　約250名

1. 午後6時40分三浦主記常務より11月1日より實施せられし用材生產統制規則に關し當路の方より御解說を拜聽することとし本夕此講演會を催すことになりし旨を述べて開會の辭となし下記の通り夫夫講師を紹介す

用材生產統制規則に就て

大阪府農林產物檢查所長

地方技師　兵藤時次郎氏

木造建築統制規則に就て

大阪府建築課

技　師　宮脇晴美氏

1. 兩講師共其規則に就て解說的講演あり出席會員一同大いに稗益を得
1. 午後9時より質疑應答に入り多數會員の質問に對し講師並に檢查所員より懇切なる回答を與へらる
1. 午後10時數中主記常務より講師に謝辭を述べ閉會の挨拶あり盛會裡に有意義なる本講演會を閉づ

陳列場二日會秋季懇親會

時　　11月9日午後6時20分—8時

所　　風月堂

出席者　淺野スレート株式會社、淺野物產株式會社、伊藤元商店、大阪窯業株式會社、オリエンタル製造所、大阪陶業株式會社、河津裝飾家具店、木下謹三商店、佐久間工業株式會社、三機工業株式會社、須貴商會、大倉洋行大阪支店、泰山製陶所、東洋理化學工業所、內外土木建築材料合資會社、內外木材工藝株式會社、中原家具裝飾店、日本窒素肥料株式會社、日昭ライト株式會社、日本金屬工業株式會社、日本陶織社日本特殊礦土株式會社、野澤幸三郎商店、平松鈎戶車製造所、松井邦彥商店、南育宏商店、矢橋大理石商店、ユニオントレーヂングコンパニー、ライトラバー工業合資會社、リーダ建材工業株式會社

中西幹事長、伊東幹事、小川幹事、黑田幹事、小林幹事、米倉幹事

1. 午後6時20分中西幹事長より一場の挨拶を述べ諸報告をなす
1. 今期退任代表者に對し謝辭を述べ新代表者推薦方法につき諮る

佐久間工業大西氏より前例により幹事會に推薦方を一任したしとの議あり滿場贊成

依て幹事に於て協議の結果下記の通推薦す

大阪窯業株式會社

河津裝飾家具店

田島應用化工株式會社

ライトラバー工業合資會社

1. 午後7時一同食堂に參集幹事長より挨拶あり開宴
1. 午後8時盛會裡に閉宴散會す

建築倶樂部室秋季大會

時、昭和14年11月12日錦秋の日曜を期して恒例の倶樂部室主催に係る見學並に懇親晚餐會を洛北紅葉の京都高尾路より洛中加茂川畔魚清にて開催す來り會する者90有餘名近年稀なる盛會裡にいとも有意義な一日を過せり下に當日の概要を記錄す

次　第

時、14年11月12日（月）午前9時40分集合

集合所　京都驛西口降車場前

見　學　京都府葛野郡北山丸太枝打實況其他

中　食　中川小學校にてなす

懇親晚餐會　魚清　京都市木屋町御池下る

會　費　金三圓也　省營バス往復代及中食晚餐費

此日天氣晴朗にして小春日和滿點の見學日和なり午前9時には早くも數名の參會者を見定刻既に90名省營バス特別の計ひにより2臺の臨發に殆んど間切の狀態にて中川村に向ふ午前11時10分頃中川小學校に着、校庭に特設の席に1同着鈴木幹事長本日の催につき一場の挨拶ありたる後同村長山本末治氏を紹介、同村長は北山丸太の起源より今日の盛況に至る經過及植林より製品に至る迄詳細懇切なる說明と苦心の結果を物語り一同稗益する處不淺夫より質問應答後、小利製材所よりの厚意

による溫き中食と茶菓ビールなどを喫し午後1時10分同校を辭し數町經だてたる附近の植林にて枝打實況を見る。同所にては經驗の村人2人の外村長自らを垂木に登り特に吾等の爲めに枝打を實施せられたるは一同いたく感銘せり此有樣を撮影せる者多くさながら競寫會の光景又面白し夫より、磨木實況を見つゝ北山丸太株式會社に至り山なす製品につき一々說明及見學をなし更に其の聲價につき認識を深めたり、此處にて健脚家若手連は高尾迄徒歩し途中の風光觀賞する者50有餘、午後2時30分頃迎ひのバスに殘餘乘車一路京に向ひ京都下の森町着一同下車6時開宴迄自由行動となる。

徒歩の1行は栂尾、槇尾、高尾の三尾を賞觀し京都着の組は天滿宮參拜其他思ひ思ひに散亂、亦1部は晩餐會場に直行し圍碁、將棋に耽り時を待つ、所謂東山三十六峰一望の魚清席は又格別なりしが一同の顏揃ひしは日沒後にて80有6名席定るや三浦幹事は幹事長に代り挨拶、高坂幹事より寫眞呈供方の懇望あり直に開宴、原田氏會員の一員として感謝の辭あり、清水組京都支店の斡旋による京美人のサービスに興愈愈つのり和氣藹々裡に8時半閉會解散せり。

最後に今回の催につき當初の下調査より會場並に當日の中食及晩餐會につき不斷御配慮と御寄贈を辱ふせし小利製材所殿及清水組京都支店殿に對し深甚の謝意を表し擱筆す

因に當日の席出者下記の如し

安宅順一	阿部日出夫	荒木久義
井上喜博	井田茂夫	伊藤鎭一
池田實	岩尾保衛	岩木泰蔥
浦野廣次	大下順三郎	大曾根昌平
大塚錦三	岡崎正時	岡村忠一
岡本忠行	荻野賀一	奥村丈太郎
加藤勝彦	加納眞一	川合安平
河津喜之助	河村茂	木原佐吉
北垣熊之介	北村久男	久保田種吉
小林謙三	左谷陽充	佐村木實
酒井勇三郎	佐竹義雄	境正一
清水榮二	設樂眞雄	下田稔
白石英男	鈴木強	住野一義
伊達正信	高永新治郎	竹中景一
武田經一	谷民藏	塚本猛次
寺石重正	朝永國次郎	中川了文
中西六郎	中谷榮藏	長坂昇
七尾健三	西村信一	野中駒市
原田千歲	伴野貞三	平尾善保
藤原精之亮	星廣文	前崎長造
松尾橋梁株式會社		松岡織江
三木作	三橋國太郎	三好喜三郎
宮川豐藏	宮島祐一	宮後光三
森田德太郎	森本治一	森本義雄
森山要	藪中一夏	山崎孝麿
山吹市治郎	山本夏雄	吉崎源三郎
吉村孝義	米倉威夫	渡邊義三
山本磯十郎	木下昌次	高坂信次郎
鈴木金太郎	高松平太郎	三浦茂

職員　大和、戶川、山內、近藤

以上

設備委員會（第7回）

時　11月14日午後6時30分－8時30分
所　倶樂部室
出席者　委員長　岩尾
幹事　增井
委員　石井、藪中、北川
協議事項
1. 防空避難實驗に關する件
2. 防空用濾過に關する件

法制委員會（第9回）

時　11月14日午後6時30分－8時
所　陳列場別室
出席者　委員長　玉置
幹事　武田
委員　板井、島田、村田、平野、森口
横見
協議事項
1. 建築關係法令集編纂に關する件

災害强度委員會（第11回）

時　11月15日午後6時30分－8時30分
所　陳列場別室
出席者　委員長　渡部
幹事　淺野
委員　黒田、竹花、矢田、嘉山、長尾
後出、池田、熊野
協議事項
1. 建築物强度計算用風壓規準案解說に關する件
1. 本年度本委員會報告に關する件

常務會（第21回）

時　11月20日午後5時－5時40分

所　陳列場別室

出席者　理事　今林副會長　坂副會長
監事　松本監事　山脇監事
常務　黒田主記　伴野主記
藪中主記　岩尾主計
久保田主計　松井主計
龜井編輯　新名編輯
堀口編輯

議事

1. 木造建築統制規則に關する講演會開催の件
2. 法制委員會より圖書購入方要求の件
3. 新評議員會開催日取に關する件
4. 助手採用に關する件
5. 用材講演會講師謝禮の件
6. 會員詮衡

報告

1. 用材生産統制規則講演會終了報告
2. 倶樂部室秋季大會終了報告
3. 入營除隊者報告

通常總會

1. 昭和14年11月24日大阪市北區中之島3丁目3番地朝日ビルヂングに於て昭和14年度通常總會を開會す

1. 出席者下の通會員44名

安宅順一	淺野新一	井上新二
伊藤正文	飯田賢次	飯干君美
池田達雄	池田弘純	今林彦太郎
岩尾保衛	尾龜清四郎	荻田眞之助
景山正明	片岡安	龜井幸次郎
北垣熊之介	黒澤研	黒田茂
小林俊三	澤部實之介	新名種夫
鈴木金太郎	鈴木孫市	薗部茂
田中芳郎	高木太作	玉置豊次郎
寺石重正	寺岡眞	中島喜平
中西六郎	中村眞藏	長尾清一
野中駒市	羽原德衛	伴野貞三
平川眞實	平野忠雄	藤重士希雄
本田長次	松井清之助	三浦茂
藪中一良	山脇友三郎	

1. 午後5時40分一同着席會長理事片岡安氏議長となり只今出席者37名なるも定款第24條但書により本日は再度の召集に付定數に依らず成立の旨を述べて開會を宣し直に議事に入る

議長　議事に先立ちまして本日の總會議事錄の代表署名者に景山正明、中島喜平兩君を御願ひ致しますから後刻記錄が出來ましたら御署名を願ひます

選擧　第1監事2名選擧
第2評議員半數改選並補缺2名選擧

右一括して選擧を行ひたいと思ひます御投票洩れの方はありませんか若しあれば投票函に御投票を願ひます

御投票洩れなき樣ですから是から開票に移ります就ては開票立會人を御指名申上げますから指名の方は直に別室にて御開票を願ひます

黒田茂君　小林俊三君
鈴木金太郎君　伴野貞三君
平野忠雄君

以上5名の方に御願ひ致します

茲に於て右立會人は投票函を別室に移し直に開票に着手す

1. 議長引續き議事に移ります

第1號議案　昭和14年度事業報告を主記より致します。三浦主記立ちて別紙事業報告を朗讀且つ說明をなす。

議長　煩雜を避くるため報告は要點のみにて至極簡單の樣ですが非常時局下に於ける本會のなすべき相當程度の事業を行ひたる旨附言せり御質問ありませんか御質問なければ次に移ります

第2號議案　昭和13年度決算報告に就て主計より申上げます。松井主計立ちて別表の通り詳細說明をなしたり

議長　13年度は事變下にありて會員中應召等相當あり又業界多端なりしため豫期の收入を得難く爲めに下期に入りて役員會にて假りに實行豫算案を作成し大體に順應して收入との按配を考慮し出來得る限り緊縮をなし其結果未收入を含むと雖も若干の剩餘を生じたる旨附言尙會計內容一切に就ては多年住友信託株式會社の會計檢査を受け萬全を期しある旨を述ぶ

此時山脇監事起立

只今主計よりの報告內容を一々査閱したる結果萬遺漏誤謬なきことを證明する旨を述ぶ

議長　御質問ありませんか異議なし異議なしの聲あり。

夫れでは御承認として次の剩餘金處分に移り

ます。

第3號議案　昭和13年度剰餘金處分の件

第4表の處分案御覽下さらば既に說明申上げる迄もない程簡單であります。

即ち13年度收支殘1.838.85並前年度繰越金664.19計2.503.04を事業費以下三件に夫々準備金として積立することに致し度御承認願ひます。異議なしの聲あり。

議長　夫れでは御承認として次に移ります。

第4號議案　昭和15年度收支豫算の件を主計より說明すとて松井主計起立別表第5第6表により夫々懇切なる說明あり。

議長　本年度會員委員會の努力により差引500有餘名の會員增加を見尙15年度も充分努力して會費の增收を計り度依て前年度より相當多額を計上したる旨を述べ一層各位の努力と援助を希望したり。

支出に就ては前年度よりも必要の科目に若干增加をなし時局下の活動に備へた積りです。尙事業費は其事業に對應して相當の活動をなさんための基本として計上しましたが實際に際しては寄附金其他の方法により收入を得る途も考慮を有する旨を附言し質問の有無を問ふ。

中西評議員起立　建築學研究誌は前年も問題となりたるものなるが印刷を京都にてする不便建築學研究會との事情、大きさ等を考へて建築と社會誌に包括するか又單行本とするか一考を要するものに非らざるやと思惟す此事は希望として申述ぶる旨の發言あり。

議長　御希望充分拜聽する旨回答

飯田評議員起立

基本金や職員退職積立金等につき意見あり

議長　經常豫算に非ざるも資產表に示す通り夫々考慮せられある旨答ふ。

外に御質問なきやを問ふ。異議なし異議なしの聲あり。

議長　夫れでは御承認と認めます。次に

第5號議案　細則一部變更に關する件

細則第7條中入營の次に應召及應徵を加ふ。

同第8條中評議員定員を60名に變更

議長　右2件に關し第7條は最近會員中より應召並應徵者多數あり之に對し入營と同樣に其期間中會費を免除し第8條は最近多數の會員增加に伴ひ必然的に定數を增加せんとする旨夫々其理由を說明あり贊否を問ふ。異議なし異議なしの聲あり。

議長　夫れでは御承認と認めます。之で議案全部御承認終了いたしましたので開票終了迄暫時休憩致します。

午後6時45分再開

1. 今林副會長再開を宣して議長席に着き片岡議長退出に付代つて開票の結果を發表します。

監事開票結果

總投票數　1.242票

內白票　18票

當選　605票　鈴木一幸氏

同　597票　井上福藏氏

次點　7票　松本儀八氏

同　5票　山脇友三郎氏

（以下略）

評議員半數改選開票結果

總投票數　1.890票

內白票　33票

無效　4票

當選　98票　宇都宮藤次郎氏

當選　94票　伊藤正文氏

同　94票　三浦茂氏

同　93票　玉置豊次郎氏

同　92票　中西六郎氏

同　92票　井手正雄氏

同　91票　北垣熊之介氏

同　91票　伊藤武文氏

同　91票　野中駒市氏

同　90票　北川正彌氏

同　90票　塚本益次氏

同　89票　松久保敬三氏

同　89票　羽原德衛氏

同　89票　久保田種吉氏

同　89票　澤部實之介氏

同　89票　花輪正虎氏

同　89票　政岡基次氏

同　89票　荻田眞之助氏

同　89票　長尾清一氏

同　89票　增井敏克氏

次點　7票 新名種夫氏　次點4票大下順三郎氏

（以下略）

評議員補缺開票結果

總投票數　1.230票
內白票　12票
當選 596票　淺野新一氏
同　593票　菅　陸二氏
次點　3票　中西六郎氏
同　3票　堀口甚吉氏
（以下略）

1. 今林議長右之通夫々當選決定致しました。之を以て本日の總會を終了致します。一同拍手
時に午後6時50分

會員動靜

入會者

會員

澤部實之介君　兵庫縣川邊郡伊丹町大鹿門之前三地（大阪府警察部建築課）
新道弘君　京都市左京區白川西町78（內務省神社局）
武田政一君　布施市足代北1ノ347（大阪陸軍造兵廠大阪工廠技術課營造掛）
松本實君　住吉區濱合町280（株式會社大阪組）
三藤清一君　旭區千林町1401（吉澤工務所建築部主任）
柳下實君　兵庫縣武庫郡甲東村仁川（柳下實建築事務所（電仁川21）
淺野重弘君　東成區片江町128（東洋紡績株式會社營繕課）
井戶田重太郎君　布施市菱屋東529（大阪市電氣局計理課營繕係）
伊東武夫君　姬路市白國會住社宅（東洋紡績株式會社營繕課）
牛島修君　東區杉山町大阪工廠技術課營造掛內（大阪工廠技術課營造掛）
梅田功君　神戶市灘區新在家南町5ノ9（株式會社竹中工務店神戶支店（電三宮304）
加藤忠君　尼崎市常光寺塚本（東洋紡績株式會社）
酒井清一君　住吉區田邊西之町8ノ6（酒井建築事務所）
谷川一雄君　奈良縣生駒郡法隆寺村亘松（陸軍雇員）
高崎照夫君　住吉區阪南町3ノ4（建築請負業自營）
西村喜代來君　府下豐能郡豐津村大字垂水（京阪電氣鐵道株式會社）
橋本利夫君　府下北河內郡三郷町高瀨889（電守口149）（大阪市土木部公園課）（電北濱5050）
山下正君　奈良縣磯城郡櫻井町842（大阪工廠技術課）
山本武夫君　府下三島郡吹田町1316（森建築設計事務所）

地方會員

蔦田小二郎君　東舞鶴市桃山通
安藤龍太郎君　兵庫縣飾磨郡廣村廣畑鴻池組廣畑出張所內（鴻池組廣畑出張所長）
佐野清助君　東京府北多摩郡三鷹村下連雀302（警視廳建築課）
齋藤德太郎君　東京市芝區寧平町1（第一師團經理部付）
萩野敏男君　東京市荒川區尾久町6ノ1（東洋紡績株式會社）
杉野啓君　奉天滿鐵總裁室防衛室內（滿鐵）

特別贊助員

窪島宗治君　旭區赤川町528（鐵工業）
大塚信雄君　北區曾根崎上1ノ7（土木建築請負業）
小倉良造君　尼崎市昭和北通3ノ45（材木商）

普通贊助員

長井義雄君　旭區大宮町6ノ38 野山辰二郎方
吉村政治君　天王寺區大道2ノ66（大阪工廠）

退會者

會員

浦田孝君　光田喜三郎君　角野孝君

特別贊助員

荒木弘夫君

普通贊助員

前川長年君　生田重義君　水口庄太郎君
宮津勝彥君　丹田誠一君

轉居・轉勤

會員

塚本吉平君　埼玉縣入間郡入間町稻荷山公園內　公山方
海上靜一君　福岡市馬場新町9　福居貞信方
寺山新造君　兵庫縣加古郡荒井村荒井27
岡本田島君　新京市大同大路406（東邊道開發株式會社工務部建築課）
片山末男君　天王寺區大道1ノ130
福島葆光君　兵庫縣武庫郡精道村山打出中田11　西山孝一方（電芦屋3057）
窪島芳市君　北支派遣多田部隊經理部付
小杉憲一君　神戶市林田區長田村字口一里山1ノ527　內田方
大石忠夫君　西區江戶堀下通5丁目セントラルハウス（電土佐堀3400）
國藤武君　新京市興安大路307
高橋壽男君　高雄市田町2ノ45（臺灣不動產株式會社）
小室千代松君　名古屋市西區花木町2ノ8
佐藤榮吉君　旭區南島町678ノ1
伊藤久治君　長谷部竹腰建築事務所（電北濱6531）
大倉直三君　（電吹田689）
中澤吉郎君　岩手縣釜石市大只越第三割66（釜石警察署建築係）
木村梅次郎君　西宮市津州仁邊町68
中島智喜君　西成區千本通2ノ24　中島喜平方
實崎靖君　旭區森小路町649　松本方
岩波揚君　東京市澁谷區代々木山谷町453　伊東方
三澤萬之進君　東成區勝山通9ノ72（電天王寺24）三澤建築事務所自營

地方會員

粟井一馬君　上海北四川路永樂坊32號
江藤艮親君　朝鮮咸北羅南第十九師團經理部
小山秀吉君　東京市麴町區永田町2ノ31
藤重士希雄君　岡山市廣瀨町152　國武安巖方
前田善增君　東京府西多摩郡福生村タヒ第1號工事場淺沼組出張所內
藤幸好雄君　戶畑市本町3丁目　株式會社戶畑出張所內
王丸源次郎君　兵庫縣武庫郡甲東村字松籟莊
渡邊雄君　新京特別市義和路306 房產社宅111號
細川義夫君　廣島市仁保町大河甲15
生澤尙君　新京特別市關東軍經理部東寧派出所內
賀屋好男君　奉天市大和市揚武街馬路灣國際ビル新館30號
藤井完君　新京市特別市義和路306 房產社宅112號
藤原義一君　京都市左京區松ケ崎東懸木町14
渥美禎君　堺市一條通4丁　岩佐辰三郎方（假寓）
龜山武雄君　名古屋市千種區田代町御棚妻48
林豪藏君　神奈川縣逗子町逗子804
池田官治君　中支那漢口市日本租界西小路26號
前田敏男君　新京特別市至善路政府第5代用官舍802號（大陸科學建築研究室）
石橋三四二君　東京市豐島區椎名町5ノ4126
千代木善根君　廣島市皆實町3ノ962ノ5

特別贊助員

藤田重太郎君　豐中市岡町東禮通2丁目
入江千壽君　神戶市葺合區宮本通2ノ19ノ62屋數ノ4
西野弘行君　岡山縣兒島郡兒島町小川金光教會所橫
大崎嘉藏君　布施市東足代33

普通贊助員

今津三郎君　東淀川區下新庄町582
石原佐津喜君　兵庫縣武庫郡魚崎町橫屋字石田575
八尾正次君　西成區粉濱東之町4ノ13
西峯茂君　京城府元町4ノ121 廣池厚男方（龍山朝鮮軍經理部工務科）
吉田忠勝君　府下三島郡味舌村字正雀78ノ2
小川靜一夏君　京都市伏見區下鳥羽柳長町6
白井利夫君　東京市牛込區若松町67光榮館內

改姓

會員

加藤雄三郎君（舊姓石川）

會員名簿（昭和15年度）正誤

昭和15年會員名簿中下記の通り訂正致します。

16頁　賴母木圭吉氏行中賴木圭吉とあるは**賴母木圭吉**の誤り

23頁　伊藤正文氏行中**工學博士**脫漏に付挿入

30頁　尾邊清四郎氏行中株式會社須賀商會（電福島1257）とあるは（**電福島1157**）の誤り

35頁　加藤善吉氏行中工學院とあるは**東工科**の誤り

同頁　乙部勇氏行中乙部男とあるは**乙部勇**の誤り

50頁　清水榮二氏行中早大とあるは東大の誤り

58頁　伊達正信氏行中關商工とあるは**關高工**の誤り

同頁　高田利一氏行中**出征**印あるは誤りに付削除す

66頁　中島猪之吉氏行中中島猪吉とあるは**中島猪之吉**の誤り

74頁　早苅五朗氏行中兵庫とあるは神高工專の誤り

76頁　福島蕊光氏行中株式會社清水組大阪支店設計部大阪設計係（電土 676）とあるは**株式會社清水組設計部大阪設計係（電土666）**の誤り

92頁　杜眞雄氏行中杜眞雄とあるは杠**眞雄**の誤り

112頁　鈴木甫氏行中株式會社木村組とあるは**株式會社大林組**の誤り

123頁　本莊光和氏會員（地方在住）の欄にあるは**會員**の誤り

142頁　寺井一勇氏行中一男とある**一勇**の誤り合資會社洋家具製造販賣所とあるは**合資會社寺井洋家具部**の誤り



建築倶樂部室秋季大會・北出丸太の植林見學の一行
野中氏撮影



編輯後記

★聖戰第3年も本月を以て多端に終る。本誌も亦本年は誠に多端な1年であつた。

矢繼早に公布せられた建築關係の法令を取扱ふだけでも一仕事であつたが、豫算に赤字を出し過ぎて內部的に編輯が叱られたほかは先づ以て大した不評判もなく、12月號まで漕ぎつけ得たことは、全く執筆者の助力と會員の支援とに依る。

★本月號は恒例に依つて平凡ではあるが「本年の回顧」を中心とした。難しい題目では年末多端の執筆者にお氣の毒である。御送附を得た玉稿中輕いものは紫煙室に、少々理窟めいたものは本文へと分載した。御諒承を乞ふ次第である。

★本文中永瀨氏の「故橋本勉君を偲びて」は明朗溫厚にして逸話の多かつた故橋本氏の俤を彷彿たらしめる好文章である。

★災害强度委員會報告第2報は各種建物の强度計算用風壓基準を示すものとしてよき資料である。

★文獻は龜井氏のもの、堀口氏のものとも、兩氏專攻の方面よりの新しい取材であり、好個の文獻である。

★稟書回答の餘りにも少かつたのは依賴文の意味が徹底しなかつた爲でもあらうか。

★寒さの急襲に、散り遲れてゐたプラタナスの葉が音を立てゝ車道の上を走る。引續いて年內に出さねばならないから本號の編輯を終ると直に新年號に取り掛らねばならぬ。御苦勞樣にも忙しい限りである。（新名種夫）

建築と社會

第22輯　第12號

毎月1回1日發行　定價　1册　50錢（郵稅3錢）
12册　6圓（〃　36錢）
昭和14年12月1日印刷　昭和14年12月5日發行

發行・編輯兼印刷人　戸川弘
大阪市北區朝日ビル日本建築協會內

印刷所　プラトン印刷社
大阪市西區江戸堀南通2丁目13番地

發行所　社團法人　日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3　朝日ビル
電話長北濱(23)4501番(9)
振替口座大阪39975番

特約販賣店　柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋西
電話土佐堀2440番
振替口座大阪2084番

禁轉載

本號に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告掲載料金

普通	1頁	1回	15,00
普通	1/2頁	1回	8,00
普通（前附第1頁）	1頁	1回	45,00
普通（前附第2頁）	1頁	1回	40,00
普通（後附第1及最終頁）	1頁	1回	25,00
アート（中挿）	1/2頁	1回	20,00
表紙2	1頁	1回	60,00
表紙3	1頁	1回	45,00
表紙4	1頁	1回	80,00
建築事務所錄	1欄	1回	1,50
（建築關係業者案內）	1欄	1回	5,00

廣告掲載御申込は本會へ直接願ひます。
本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ、振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

“建築と社會”第22輯第12號　廣告索引

ア　旭硝子株式會社……10
　　淺野スレート株式會社……13
　　旭レール株式會社……1
エ　榮進社……21
　　荏原製作所……25
オ　大阪窯業セメント株式會社……中挿
　　大阪伊丹商店……22
　　大野製作所……表紙 2
　　岡田建材店……19
　　奥村重兵衞商店……20
カ　關城化學工業株式會社……表紙 4
キ　桐田商會……16
ク　久保商店……17
サ　佐久間工業株式會社……11
　　坂田ベンチレーター製作所……4
　　三正商會……17
セ　政正合資會社……8
タ　田島應用化工株式會社……26
　　大洋組……2
ト　東京芝浦電氣株式會社マツダ支社……23
　　東洋リノリユーム株式會社……表紙 3
ナ　南滿鑛業建材合資會社……14
　　内外土木建築材料合資會社……22
ニ　日本建築紙工株式會社……14
　　日本陶織社……4
　　日東物産株式會社……12
　　日本機械工業株式會社……24
　　西原衞生工業所……9
　　西孫南店建築金物部……5
ノ　野澤幸三郎商店……6
ヒ　平松釣戸車製造所……18
マ　松井商店……8
　　松下電器株式會社コンデット部……3
ミ　三井物産株式會社……7
ム　村田商會……前附 1
ヤ　矢橋大理石商店……5
ヨ　横河橋梁製作所……15
　　淀川鐵工所……19

用材檢查關係令規

（附、木造建物建築統制規則大阪府施行細則）

昭和14年12月

社團法人 日本建築協會

目　　次

1，輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律(昭和12年9月10日法律第92號) … 1

2，用材生產統制規則(昭和14年9月27日農林省令第45號)…… 2

3，用材生產統制規則第2條ノ規定ニ依ル指定ノ件…… 3

4，用材生產統制規則第3條第1項ノ規定ニ依ル指定ノ件…… 3

5，用材生產統制規則第3條第2項ノ規定ニ依ル指定ノ件…… 3

6，用材規格規程…… 4

7，大阪府用材檢查規則…… 18

8，特殊規格許可ニ關スル件…… 24

9，用材檢查員駐在所位置及管轄區域…… 25

附、木造建物建築統制規則大阪府施行細則 …… 28

用材生産統制規則

1.輸出品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律 （昭和12年9月10日 法律第92號）

改正　昭和13年法律第85號

第1條　政府ハ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ物品ヲ指定シ輸出又ハ輸入ノ制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第2條　政府ハ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ輸入ノ制限其ノ他ノ事由ニ依リ需給關係ノ調整ヲ必要トスル物品ニ付左ノ措置ヲ爲スコトヲ得

1　命令ノ定ムル所ニ依リ當該物品ヲ原料トスル製品ノ製造ニ關シ必要ナル事項ヲ命ジ又ハ制限ヲ爲スコト

2　當該物品又ハ之ヲ原料トスル製品ノ配給、讓渡、使用又ハ消費ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコト

第2條ノ2　前條ノ物品ノ需給ニ關係アル產業ヲ營ム者又ハ其ノ組織スル團體ハ當該物品ノ需給關係ヲ調整スル爲政府ノ認可ヲ受ケ需給調整協議會ヲ組織スルコトヲ得

前項ノ者需給調整協議會ヲ組織セザル場合ニ於テ政府支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ前項ノ者ニ對シ需給調整協議會ノ組織ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ組織ヲ命ゼラレタル者其ノ認可ヲ申請セザルトキハ政府ハ規約ノ作成其ノ他組織ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得需給調整協議會ノ成立アリタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ其ノ會員トス

第2條ノ3　政府ハ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ需給調整協議會ニ對シ當該物品ノ需給關係ノ調整ニ關シ必要ナル決定ヲ爲スベキコトヲ命ジ又ハ需給調整協議會ノ會員ニ對シ需給調整協議會ノ決定ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第2條ノ4　本法ニ定ムルモノノ外需給調整協議會及需給調整協議會ニ依ル需給關係ノ調整ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第3條　政府ハ第1條ノ制限若ハ禁止又ハ第二條ノ命令若ハ處分ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徵シ又ハ帳簿其ノ他ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

第4條　第1條ノ規定ニ依リテ爲ス制限又ハ禁止ニ違反シテ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ3年以下ノ懲役又ハ1萬圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テハ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル物品ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第5條　第2條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分又ハ其ノ命令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者ハ1年以下ノ懲役又ハ5000圓以下ノ罰金ニ處ス

第6條　第3條ノ規定ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虚僞ノ報告ヲ爲シ又ハ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ6月以下ノ禁錮又ハ3000圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ政府ニ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虚僞ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ

第7條　法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前3條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前3條ノ罰金刑ヲ科ス

第8條　本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用スル本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ支那事變終了後1年以內ニ之ヲ廢止スルモノトス

附　則　（昭和13年5月24日 法律第85號附則）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

2.用材生産統制規則　（昭和14年9月27日 農林省令第45號）

第1條　本則ニ於テ用材トハ本邦ニ於テ生產セラレタル木材ニシテ薪炭ノ用ニ供セザルモノヲ謂フ用材ハ素材及製材トシ素材トハ丸太及ビ柚角ヲ、製材トハ板類、挽割類及挽角類ヲ謂フ

第2條　素材ハ農林大臣ノ指定スルモノヲ除クノ外農林大臣ノ定ムル規格ニ付道府縣ノ行フ檢查ニ合格シタルモノニ非ザレバ之ヲ讓渡シ又ハ原料若ハ材料トシテ使用スルコトヲ得ズ但シ農林大臣又ハ地方長官ノ指定スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第3條　製材ハ農林大臣ノ指定スルモノヲ除クノ外農林大臣ノ定ムル規格ニ依ルニ非ザレバ之ヲ生產スルコトヲ得ズ但シ農林大臣又ハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

製材ハ其ノ規格ニ付道府縣ノ行フ檢查ニ合格シタルモノニ非ザレバ之ヲ讓渡シ又ハ原料若ハ材料トシテ使用スルコトヲ得ズ但シ農林大臣又ハ地方長官ノ指定スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第4條　前2條ノ規格ハ用材ノ樹種、材種、形質又ハ材積ニ付之ヲ定メ告示ス

第5條　農林大臣又ハ地方長官樹種、材種、形質又ハ材積ニ依リ用材ノ用途ヲ指定シ又ハ特定ノ用途ニ供スル用材ノ範圍ヲ指定シタルトキハ當該用材ヲ指定セラレタル用途以外ノ用途ニ供シ又ハ指定セラレタル範圍以外ノ用材ヲ該用途ニ供スルコトヲ得ズ但シ災害事變ニ際シ緊急ノ必要アル場合又ハ農林大臣若ハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第6條　業務用ノ原料又ハ材料トシテ用材ヲ使用スル者ハ農林大臣ガ用材ノ樹種、材種、形質又ハ數量ヲ指定シタルトキハ其ノ指定ニ違反シテ用材ヲ使用スルコトヲ得ズ

附　則

本令ハ昭和14年11月1日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前生產シタル用材ニシテ其ノ樹種、材種、形質又ハ材積ニ付道府縣ノ證明ヲ受ケタルモノニ付テハ第2條第3條第2項ノ規定ハ之ヲ適用セズ本令施行前生產シタル用材ノ所有者ガ本令施行後3月以內ニ於テ自ラ其ノ用材ヲ原料又ハ材料トシテ使用スル場合ニ於テ其ノ樹種、材種、形質又ハ材

積ヲ本令施行後2週間以内ニ地方長官ニ届出デタルモノニ付亦同ジ

3.用材生産統制規則第2條ノ規定ニ依ル指定ノ件

農林省告示第364號

用材生産統制規則第2條ノ規定ニ依ル檢査ヲ受クルヲ要セザル素材及之ヲ受クルヲ要セザル場合左ノ通指定ス

昭和14年10月13日

農林大臣　伍　堂　卓　雄

同條ノ規定ニ依ル檢査ヲ受クルヲ要セザル素材

1. 御料、國有又ハ道府縣有ニ屬スル素材
2. 徑2寸未滿ニシテ元口徑四寸未滿又ハ長六尺未滿ノ針葉樹ノ素材但シ松ニ在リテハ徑1寸未滿ニシテ元口徑2寸未滿又ハ長3尺未滿ノモノ
3. 徑5寸未滿ニシテ元口徑7寸未滿又ハ長6尺未滿ノ濶葉樹ノ素材
4. 銘木類
5. 廢材及屑材

同條ノ規定ニ依ル檢査ヲ受クルヲ要セザル場合

1. 素材ノ生產者ガ1年間100石ヲ超エザル範圍ニ於テ其ノ生產シタル素材ヲ原料又ハ材料トシテ使用スル場合

4.用材生産統制規則第3條第1項ノ規定ニ依ル指定ノ件

農林省告示第365號

用材生産統制規則第3條第1項ノ農林大臣ノ定ムル規格ニ依リ生產スルヲ要セザル製材左ノ通指定ス

昭和14年10月13日

農林大臣　伍　堂　卓　雄

1. 御料、國有及道府縣有ニ屬スル製材
2. 銘木類
3. 廢材及屑材
4. 濶葉樹（けやき、しほぢ、やちだも及かしヲ除ク）の製材

5、用材生産統制規則第3條第2項ノ規定ニ依ル指定ノ件

農林省告示第366號

用材生産統制規則第3條第2項ノ規定ニ依ル檢査ヲ受クルヲ要セザル場合左ノ通指定ス

昭和14年10月13日

農林大臣　伍　堂　卓　雄

1. 製材ノ生產者ガ1年間100石ヲ超エザル範圍ニ於テ其ノ生產シタル製材ヲ原料又ハ材料トシテ使用スル場合

2. 同條第1項ノ規定ニ依リ農林大臣ノ定ムル規格ニ依リ生産スルヲ要セザルモノト指定シタル製材ニ係ル寓合

6.用 材 規 格 規 程 (昭和14年10月13日 農林省告示第367號)

第1章 素 材

第1條 材種ハ丸太ニ在リテハ徑ニ依リ、柚角ニ在リテハ幅ニ依リ之ヲ左ノ3種ニ區分ス

1. 小 6寸未滿ナルモノ
2. 中 6寸以上1尺未滿ナルモノ
3. 大 1尺以上ナルモノ

第2條 形量ハ樹皮ヲ除キタル材ノ部分ニ付徑、厚、幅、長又ハ丸身ニ依リ之ヲ區分ス

第3條 丸太ノ徑ハ材ノ最小徑トス但シ長15尺5寸以上ナルモノニ在リテハ材ノ長ノ中央ニ於ケル最小徑、稍端部ヲ附シタルモノニ在リテハ元口ヨリ四尺ノ部分ニ於ケル最小徑トス

前項ノ規定ニ依ル最小徑ガ6寸以上ナルモノニ在リテハ最大徑ト最小徑トノ差ガ其ノ最小徑ノ100分ノ20以上ナルトキハ其ノ平均數ヲ以テ其ノ徑トス

第4條 柚角ノ厚及幅ハ最小橫斷面ニ於ケル邊ノ缺ヲ補ヒタル方形ノ短邊(厚)及長邊(幅)トス

第5條 長ハ末口ト元口トヲ結ブ最短直線トス但シ梢端部(直徑1寸以下ノ部分)又ハ頭巾苔ハ目度孔ノ部分ヲ包含セズ

第6條 單位寸法ハ徑、厚又ハ幅ニ在リテハ5分、長ニ在リテハ5寸トシ單位寸法ニ滿タザル端數ハ之ヲ切捨ツルモノトス

第7條 丸太(稍端部ヲ附シタルモノヲ除ク)ノ材積ハ徑ノ自乘ニ長ヲ乘ジ柚角ノ材積ハ厚及幅ノ相乘積ニ長ヲ乘ジ計算ス但シ長15尺5寸以上ノ丸太ニ在リテハ徑ノ自乘ノ10分ノ8ニ長ヲ乘ズルモノトス

前項ノ材積ノ數量ニ付テハ石(10立方尺)ヲ其ノ單位トス

第8條 柚角ノ形量ニハ其ノ最小橫斷面ニ於ケル邊ノ缺ヲ補ヒタル方形ノ四邊ノ和ニ對スル其ノ方形ノ邊ノ缺ノ和ノ100分率ニ依リ左ノ丸身區分ヲ附スルモノトス但シ其ノ100分率ガ20ニ滿タザルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

1. 小丸身 100分率20以上40未滿ナルモノ
2. 中丸身 100分率40以上60未滿ナルモノ
3. 大丸身 100分率60以上ナルモノ

材緣ニ於ケル缺ハ丸身ト看做ス

第9條 品質ハ左ノ各號ニ揭ゲル缺點ニ依リ之ヲ區分ス但シ長ノ計算上除外シ得ベキ部分ニ於ケルモノハ之ヲ缺點ト看做サズ

1. 節
2. 曲
3. 木口割又ハ引拔
4. 目廻

5. 木口ニ於ケル腐又ハ空胴

6. 疵、鉄ケ、穴、蟲喰又ハ材面ニ於ケル腐

7. 枯材、胴打、捩レ、入皮、隠節、瘤等ニシテ顯著ナルモノ

第10條　節ニ付テハ其ノ數、其ノ長徑及其ノ存スル材面ノ數ニ依リ缺點ヲ附ス但シ長徑3分ニ滿タザルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

死節ニ在リテハ其ノ長徑ハ生節ノ2倍ト看做ス

第11條　曲ニ付テハ根張ヲ含マザル內曲面ノ最大矢高ノ最小徑ニ對スル 100分率ヲ以テ缺點ヲ附ス但シ其ノ 100分率ガ針葉樹ニ於テハ10、濶葉樹ニ於テハ20ニ滿タザルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

第12條　木口割ニ付テハソノ長ニ對スル割ノ長ノ 100分率ニ依リ、目廻ニ付テハ其ノ弧長ノ材ノ末口ノ周圍ノ長ニ對スル100分率ニ依リ缺點ヲ附ス但シ其ノ100分率ガ10ニ滿タザルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

木口割又ハ目廻ニシテ同1端ニ2箇以上在ルトキハ其ノ最長ノモノヲ其ノ長トシ兩端ニ在ルトキハ各端ニ於ケル其ノ最長ノモノノ和ヲ其ノ長トス

引拔ハ木口割ト看做ス

第13條　木口ニ於ケル腐又ハ空胴ニ付テハ其ノ面積（2箇以上存スルトキハ其ノ面積ノ和）ノ2分ノ1ノ末口斷面積ニ對スル100分率ニ依リ缺點ヲ附ス

第14條　疵又ハ缺ケハ其ノ長徑ノ節、穴、蟲喰又ハ材面ニ於ケル腐ハ其ノ長徑ノ2倍ノ節ト看做ス但シ材ノ利用ヲ妨ゲザルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第15條　丸太ノ品質ハ之ヲ4等級ニ分チ缺點ノ種類及程度ニ付左ノ缺點箇數表ニ依リ其ノ箇數ヲ計算シ節又ハ曲ノ缺點箇數ナク他ノ缺點3箇以下ナルモノヲ一等、節又ハ曲ノ缺點1箇ニシテ他ノ缺點3箇以下ナルモノ及節又ハ曲ノ缺點箇數ナク他ノ缺點4箇乃至6箇ナルモノヲ2等、節又ハ曲ノ缺點2箇ニシテ他ノ缺點3箇以下ナルモノ、節又ハ曲ノ缺點1箇ニシテ他ノ缺點4箇乃至6箇ナルモノ及節又ハ曲ノ缺點箇數ナク他ノ缺點箇數7箇以上ナルモノヲ3等トシ1等乃至3等ニ該當セザルモノヲ4等トス

種　類	程　度	箇　數
節　（針葉樹）	小丸太　1材面ノミニ存シ其ノ長徑ガ5分ヲ超ユルモノ又ハ隣接2材面ノミニ存シ其ノ長徑ガ1寸ヲ超エザルモノ	1
	2材面ノミニ存スルモノ又ハ3材面若ハ4材面ニ存シ其ノ長徑ガ1寸ヲ超エザルモノ	2
	前2號ノ限度ヲ超エテ存スルモノ	3
	中丸太　1材面ノミニ存シ其ノ長徑ガ1寸ヲ超ユルモノ又ハ隣接2材面ノミニ存シ其ノ長徑ガ1寸5分ヲ超エザルモノ	1
	2材面ノミニ存スルモノ又ハ3材面若ハ4材面ニ存シ其ノ長徑ガ1寸5分ヲ超エザルモノ	2
	前2號ノ限度ヲ超エテ存スルモノ	3

	大丸太　1材面ノミニ存シ其ノ長徑ガ1寸5分ヲ超ユルモノ又ハ隣接2材面ノミニ存シ其ノ長徑ガ2寸ヲ超エザルモノ	1
	2材面ノミニ存スルモノ又ハ3材面若ハ4材面ニ存シ其ノ長徑ガ2寸ヲ超エザルモノ	2
	前2號ノ限度ヲ超エテ存スルモノ	3
節　（濶葉樹）	小丸太　1材面ノミニ存スルモノ	1
	隣接2材面ノミニ存スルモノ又ハ2材面ノミニ存シ其ノ長徑ガ2寸ヲ超エザルモノ	2
	前2號ノ限度ヲ超エテ存スルモノ	3
	中丸太　1材面ノミニ存スルモノ	1
	隣接2材面ノミニ存スルモノ又ハ2材面ノミニ存シ其ノ長徑ガ3寸ヲ超エザルモノ	2
	前2號ノ限度ヲ超エテ存スルモノ	3
	大丸太　1材面ノミニ存スルモノ	1
	隣接2材面ノミニ存スルモノ又ハ2材面ノミニ存シ其ノ長徑ガ4寸ヲ超エザルモノ	2
	前2號ノ限度ヲ超エテ存スルモノ	3
曲	100分率ガ針葉樹ニ在リテハ20、濶葉樹ニ在リテハ30ニ滿タザルモノ	1
	100分率ガ針葉樹ニ在リテハ20以上30ニ滿タザルモノ濶葉樹ニ在リテハ30以上40ニ滿タザルモノ	2
	2材面ニ於ケル百分率ノ和ガ20（濶葉樹ニ在リテハ30）以上ニシテ100分率ノ小ナル材面ニ於テ其ノ10以上ナルモノ又ハ前號ノ限度ヲ超ユルモノ	3
木口割	100分率20ニ滿タザルモノ	1
	100分率20以上ナルモノ	2
目廻	100分率20ニ滿タザルモノ	1
	100分率20以上30ニ滿タザルモノ	2
	100分率30以上ナルモノ	3
木口ニ於ケル腐又ハ空胴	100分率10ニ滿タザルモノ	1
	100分率10以上20ニ滿タザルモノ	2
	100分率20以上ナルモノ	3
第9條第7號ノ缺點	1種毎ニ	1

前項ノ缺點箇數表ノ節ノ項、程度ノ欄ニ揭ゲル節ノ長徑ノ限度ハ大丸太徑1尺5寸以上ノモノニ在リテハ生節ノ場合ニ限リ針葉樹ニ於テハ各1寸、濶葉樹ニ於テハ各2寸ヲ加フ

針葉樹ニ在リテハ2等ニ相當スル3材面無節材又ハ3等ニ相當スル隣接2材面無節材ニシテ其ノ長ニ對シ節ノ數ガ12尺ニ付2箇以內ナルトキハ1等級ヲ上ス

濶葉樹大丸太ニ在リテハ其ノ長ニ對シ生節ノ數ガ6尺ニ付1箇ナル2等ニ相當スル3材面無節材6

尺ニ付2箇以内ナル3等ニ相當スル隣接2材面無節材ハ各1等級ヲ上ス

木口割又ハ第9條第7號ノ缺點ニ依リ材ノ利用價値ヲ著シク低下セシムルモノハ第1項、第3項又ハ前項ノ規定ニ拘ラズ之ヲ4等トス

腐、空胴又ハ其ノ他ノ缺點ニ依リ利用シ得ザル部分ガ其材積ノ 100分ノ70以上ヲ占ムルモノハ廢材トス

第16條　枘角ノ品質ニ付テハ丸太ノ品質ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第11條中最小徑トアルハ之ヲ厚トス

第2章　製　　材

第17條　材種ハ左ノ通之ヲ區分ス

1. 板　類　最小橫斷面ニ於ケル幅ハ厚ノ3倍以上トス

(1) 板　　厚1分8厘以上9分以下、幅4寸以上トス

(2) 小幅板　厚1分8厘以上1寸1分以下、幅1寸以上4寸未滿トス

(3) 斜面板　最小橫斷面ニ於ケル梯形ノ高3寸以上トス

(4) 厚　板　厚1寸以上1寸5分以下、幅4寸以上トス

(5) 盤　　厚2寸以上トス

2. 挽割類　最小橫斷面ニ於ケル方形ノ1邊ノ長2寸未滿ニシテ幅ハ3倍未滿トス

(1) 小　割　最小橫斷面ニ於ケル正方形ノ1邊ノ長6分若ハ9分又ハ厚4分5厘以上9分以下、幅1寸以上2寸以下トス

(2) 中　割　最小橫斷面ニ於ケル正方形ノ1邊ノ長1寸以上又ハ厚1寸以上、幅1寸以上2寸以下トス

(3) 割　　厚1寸以上、幅2寸以上4寸以下トス

3. 挽角類　最小橫斷面ニ於ケル方形ノ各邊ノ長2寸以上ニシテ幅ハ厚ノ3倍未滿トス

(1) 正　角　最小橫斷面ニ於ケル正方形ノ1邊ノ長7寸以下トス

(2) 平　角　厚7寸以下、幅2寸5分以上2尺以下トス

第18條　形量ハ厚、幅及長ニ依リ之ヲ區分ス但シ耳附セザル板類ニ在リテハ長ノ中央ニ於ケル材面ノ最短直線ヲ以テ其ノ幅トシ斜面板ニ在リテハ最小橫斷面ニ於ケル梯形ノ高ヲ以テ其ノ幅、其ノ梯形ノ頂邊（端）ト底邊（鏑）トノ和ノ2分ノ1ヲ以テ其ノ厚トス

第19條　數量ニ付テハ板類ニ在リテハ枚又ハ束、挽割類ニ在リテハ束、挽角類ニ在リテハ1邊ノ長、2寸ナル正角ニ付テハ束、其ノ他ノモノニ付テハ本ヲ其ノ單位トス

製材ノ材積ノ數量ニ付テハ第7條第2項ノ規定ヲ準用ス

第20條　生產規格ハ第17條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ表ノ形量又ハ束ノ入數ヲ下ルコトヲ得ズ但シ乾燥シタル製材ノ形量ハ板類及挽割類ニ付テハ厚ニ於テ 100ノ3、幅ニ於テ 100ノ2、挽角類ニ付テハ厚及幅ニ於テ 100分ノ2ヲ下ルコトヲ妨ゲズ

形量ニ付定メタル左ノ表ノ寸法ヲ超ユル端數ハ之ヲ切捨ツルモノトス

1. 板　類

(1) 板

種類	形量			1束ノ入數		
				長ノ區分		
	厚	幅	長	6尺5寸以下	9尺以上10尺5寸以下	12尺以上
第1號	1分8厘	4寸	6尺	35		
	2分	4寸5分	6尺3寸	35		
	2分2厘	5寸	6尺4寸	30		
	2分3厘	5寸5分	6尺5寸	30		
	2分5厘	6寸		25		
	2分8厘	6寸5分		25		
		7寸		21		
		7寸5分		21		
		8寸		19		
		8寸5分		19		
		9寸		17		
		9寸5分		17		
		1尺		15		
		1尺1寸		14		
		1尺2寸		13		
		1尺3寸		12		
		1尺3寸以上寸建		同右		
第2號	3分	4寸		30		
	3分3厘	4寸5分		30		
	3分5厘	5寸		24		
		5寸5分		24		
		6寸		20		
		6寸5分		20		
		7寸		17		
		7寸5分		17		
		8寸		15		
		8寸5分		15		
		9寸		13		
		9寸5分		13		
		1尺		12		
		1尺1寸		11		
		1尺2寸		10		
		1尺3寸		9		
		1尺3寸以上寸建		同右		
第3號	4分	4寸	6尺	20	15	10
	4分3厘	4寸5分	6尺3寸	20	15	10
		5寸	6尺4寸	18	13	9
		5寸5分	6尺5寸	18	13	9
		6寸	9尺	15	11	7
		6寸5分	10尺	15	11	7
		7寸	10尺5寸	13	9	6
		7寸5分	12尺	13	9	6
		8寸	12尺5寸	11	8	5
		8寸5分	13尺	11	8	5
		9寸	13尺5寸	10	7	5
		9寸5分	14尺	10	7	5
		1尺		9	6	4
		1尺1寸		8	6	4

		1尺2寸	8	6	4
		1尺3寸	7	5	3
		1尺3寸以上寸建	同右	同右	同右
第 4 號	4分5厘	4寸	15	11	7
	4分8厘	4寸5分	15	11	7
	5分	5寸	12	9	6
	5分5厘	5寸5分	12	9	6
		6寸	10	7	5
		6寸5分	10	7	5
		7寸	9	6	4
		7寸5分	9	6	4
		8寸	8	6	4
		8寸5分	8	6	4
		9寸	7	5	3
		9寸5分	7	5	3
		1尺	6	4	3
		1尺1寸	6	4	3
		1尺2寸	6	4	3
		1尺3寸	5	3	2
		1尺3寸以上寸建	同右	同右	同右
第 5 號	6分	4寸	13	9	6
	6分5厘	4寸5分	13	9	6
	7分	5寸	10	7	5
		5寸5分	10	7	5
		6寸	8	6	4
		6寸5分	8	6	4
		7寸	7	5	3
		7寸5分	7	5	3
		8寸	6	4	3
		8寸5分	6	4	3
		9寸	6	4	3
		9寸5分	6	4	3
		1尺	5	3	2
		1尺1寸	5	3	2
		1尺2寸	4	3	2
		1尺2寸以上寸建	同右	同右	同右
第 6 號	8分	4寸	10	7	5
	9分	4寸5分	10	7	5
		5寸	8	6	4
		5寸5分	8	6	4
		6寸	7	5	3
		6寸5分	7	5	3
		7寸	6	4	3
		7寸5分	6	4	3
		8寸	5	3	2
		8寸5分	5	3	2
		9寸	4	3	2
		9寸5分	4	3	2
		1尺	4	3	2
		1尺1寸	4	3	2

		1尺2寸 1尺2寸以上寸建		3 同右	2 同右	1 同右

備考　耳摺セサル板ノ幅ニ付テハ一束ノ中最小ナルモノノ幅ヲ以テ其ノ一束ノ板ノ幅トス

（2）小　幅　板

種類	形量			1束ノ入數		
				長ノ區分		
	厚	幅	長	3尺以上6尺5寸以下	9尺以上10尺5寸以下	12尺以上
第1號	1分8厘 2分	1寸 1寸1分 1寸2分 1寸5分 3寸 3寸5分	3尺（幅3寸又ハ3寸5分ノモノヲ除ク） 6尺 6尺3寸 6尺4寸 6尺5寸	100 100 100 80 50 40		
第2號	2分2厘 2分3厘	1寸 1寸1分 1寸2分 1寸5分 3寸 3寸5分		100 100 100 80 50 40		
第3號	2分5厘	1寸2分 1寸5分 1寸8分 3寸 3寸5分	3尺（幅3寸又ハ3寸5分ノモノヲ除ク） 6尺 6尺3寸 6尺4寸 6尺5寸 9尺 10尺 10尺5寸 12尺 12尺以上5寸建 14尺以上尺建	100 80 60 40 40	75 60 45 30 30	50 40 30 20 20
第4號	3分	1寸2分 1寸3分 1寸5分 1寸8分 2寸 2寸5分 3寸 3寸5分	6尺 6尺3寸 6尺4寸 6尺5寸 9尺 10尺 10尺5寸 12尺 12尺以上5寸建 14尺以上尺建	80 80 60 60 60 40 30 30	60 60 45 45 45 30 22 22	40 40 30 30 30 20 15 15
第5號	3分5厘	1寸2分 1寸5分 1寸8分 2寸 2寸5分 3寸 3寸5分		80 60 60 60 40 30 30	60 45 45 45 30 22 22	40 30 30 30 20 15 15

第6號	3分5厘	1寸2分	80	60	40
		1寸5分	60	45	30
		1寸8分	60	45	30
		2寸	40	30	20
		2寸5分	40	30	20
		2寸8分	30	22	15
		3寸	30	22	15
		3寸5分	24	18	12
第7號	4分	1寸2分	80	60	40
		1寸5分	60	45	30
		2寸	40	30	20
		2寸3分	40	30	20
		2寸5分	40	30	20
		2寸7分	30	22	15
		2寸8分	30	22	15
		3寸	24	18	12
		3寸2分	20	15	10
		3寸5分	20	15	10
第8號	4分3厘	2寸8分	30	22	15
		3寸	24	18	12
		3寸2分	20	15	10
		3寸5分	20	15	10
第9號	4分5厘	2寸8分	30	22	15
		3寸	24	18	12
		3寸2分	20	15	10
		3寸5分	20	15	10
第10號	4分8厘	2寸8分	24	18	12
		3寸	24	18	12
		3寸2分	20	15	10
		3寸5分	20	15	10
第11號	5分	1寸5分	40	30	20
		2寸	40	30	20
		2寸5分	30	22	15
		2寸8分	24	18	12
		3寸	24	18	12
		3寸5分	20	15	10
		3寸8分	20	15	10
第12號	5分5厘	2寸8分	24	18	12
		3寸	24	18	12
		3寸3分	20	15	10
		3寸5分	20	15	10
第13號	6分	2寸	30	22	15
		2寸5分	24	18	12
		2寸8分	24	18	12
		3寸	16	12	8
		3寸5分	16	12	8

第14號	7分	2寸5分		18	13	9
		2寸8分		18	13	9
		3寸		16	12	8
		3寸3分		16	12	8
		3寸5分		14	10	7
		3寸8分		14	10	7
第15號	8分	2寸8分		16	12	8
		3寸		16	12	8
		3寸5分		14	10	7
		3寸8分		12	9	6
第16號	9分	3寸		14	10	7
		3寸5分		10	7	5
		3寸8分		10	7	5
第17號	1寸	3寸		12	9	6
		3寸3分		12	9	6
		3寸5分		10	7	5
		3寸8分		8	6	4
第18號	1寸1分	3寸3分		10	7	5
		3寸5分		10	7	5
		3寸8分		8	6	4

備考　厚摺セザル小幅板ノ幅ニ付テハ板ニ關スル備考ノ規定ヲ準用ス

（3）斜面板

種類	形量				1束ノ入數		
	厚		幅	長	長ノ區分		
	端	鏑			6尺5寸以下	9尺以上10尺5寸以下	12尺以上
第1號	2分	8分	3寸	6尺	8	6	4
第2號	2分5厘	1寸	3寸3分	6尺5寸	8	6	4
第3號	3分	1寸2分	3寸5分	9尺	8	6	4
第4號	3分5厘	1寸4分	3寸8分	10尺	8	6	4
第5號	4分	1寸6分	4寸	10尺5寸	8	6	4
第6號	1分5厘	3分	5寸	12尺	24	18	12
第7號	2分	4分	6寸	12尺以上5寸建	20	15	10
第8號	2分	5分	7寸	14尺以上尺建	16	12	8

（4）厚板

種類	形量			一束ノ入數		
				長ノ區分		
	厚	幅	長	6尺5寸以下	9尺以上10尺5寸以下	12尺以上
第	1寸	4寸	6尺	10	7	5
		4寸5分	6尺3寸	10	7	5

1號		5寸	6尺4寸	8	6	4
		5寸5分	6尺5寸	8	6	4
		6寸	9尺	7	5	3
		6寸5分	10尺	7	5	3
		7寸	10尺5寸	6	4	3
		7寸5分	12尺	6	4	3
		8寸	12尺以上5寸建	5	3	2
		9寸	14尺以上尺建	4	3	2
		1尺		4	3	2
		1尺1寸		4	3	2
		1尺2寸		3	2	1
		1尺2寸以上寸建		同右	同右	同右
第2號	1寸1分	4寸		7	5	3
	1寸2分	4寸5分		7	5	3
	1寸3分	5寸		6	4	3
		5寸5分		6	4	3
		6寸		6	4	3
		6寸5分		6	4	3
		7寸		5	3	2
		7寸5分		5	3	2
		8寸		5	3	2
		9寸		4	3	2
		1尺		4	3	2
		1尺1寸		3	2	1
		1尺1寸以上寸建		同右	同右	同右
第3號	1寸5分	5寸		4	3	2
		6寸		4	3	2
		7寸		4	3	2
		8寸		3	2	1
		9寸		3	2	1
		1尺		3	2	1
		1尺1寸		2	1	1
		1尺1寸以上寸建		同右	同右	同右

備考　耳摺セサル厚板ノ幅ニ付テハ1束ニ入ンタルモノノ幅ノ平均ヲ以テ其ノ1束ノ厚板ノ幅トス

（5）盛

形	量
厚	幅
2寸 2寸以上5分建	6寸 6寸以上寸建

2 挽　割　類

（1）小　割

種類	形量			1束ノ入數		
				長ノ區分		
	厚	幅	長	7尺以下	9尺以上10尺5寸以下	12尺以上
第1號	4分5厘	1寸2分	6尺 6尺5寸 7尺 9尺 10尺 10尺5寸 12尺以上14尺迄5寸建	30	22	15
第2號	5分	1寸3分		30	22	15
第3號	6分	6分		50	36	25
		1寸5分		24	18	12
		1寸7分		16	12	8
第4號	7分	9分		30	22	15
	8分	1寸		30	22	15
	9分	1寸2分		30	22	15
		1寸5分		24	18	12
		1寸7分		16	12	8
		1寸8分		16	12	8
		1寸9分		16	12	8
		2寸		16	12	8

（2）中　割

種類	形量			1束ノ入數		
				長ノ區分		
	厚	幅	長	7尺以下	9尺以上10尺5寸以下	12尺以上
第1號	1寸	1寸	6尺 6尺5寸 7尺 9尺 10尺 10尺5寸 12尺 12尺以上14尺迄5寸建	30	22	15
		1寸1分		30	22	15
		1寸2分		30	22	15
第2號	1寸1分	1寸1分		16	12	8
		1寸2分		16	12	8
第3號	1寸2分	1寸2分		16	12	8
		1寸3分		16	12	8
第4號	1寸3分	1寸3分		16	12	8
		1寸4分		16	12	8
		1寸5分		16	12	8
		1寸7分		16	12	8
第5號	1寸4分	1寸4分		12	9	6
		1寸5分		12	9	6
		1寸6分		12	9	6
		1寸8分		12	9	6
第6號	1寸5分	1寸5分		12	9	6
		1寸8分		12	9	6
第7號	1寸6分	1寸6分		12	9	6
		1寸8分		12	9	6
第8號	1寸7分	1寸7分		8	6	4
		1寸8分		8	6	4
第9號	1寸8分	1寸8分		8	6	4

（3）割

種類	形量			1束ノ入数		
				長ノ區分		
	厚	幅	長	7尺以下	9尺以上10尺5寸以下	12尺以上
第1號	1寸	2寸 2寸5分	6尺 6尺5寸 7尺 9尺 10尺 10尺5寸 12尺 12尺以上5寸建 14尺以上20尺迄3尺建	16 12	12 9	8 6
第2號	1寸2分 1寸3分	3寸 3寸3分 3寸5分		10 8 8	7 6 6	5 4 4
第3號	1寸4分 1寸5分	2寸5分 3寸 3寸3分 3寸5分 3寸8分		12 10 8 8 6	9 7 6 6 4	6 5 4 4 3
第4號	1寸8分	3寸5分 3寸8分 4寸		6 6 6	4 4 4	3 3 3

3 挽角類

（1）正角

種類	形	量
	1邊ノ長	長
第1號	2寸	6尺 6尺5寸 7尺 9尺 10尺 12尺 13尺 13尺5寸 14尺 17尺 20尺
第2號	2寸5分	
第3號	2寸5分	
第4號	2寸8分	
第5號	3寸	
第6號	3寸3分	
第7號	3寸5分	
第8號	3寸8分	
第9號	4寸	
第10號	4寸5分	
第11號	5寸	
第12號	5寸5分	
第13號	6寸	
第14號	6寸5分	
第15號	7寸	

備考　第1號ニ付テハ1束ノ入數ヲ4トス

（2）平　　角

種　類	形	量	
	厚	幅	長
第 1 號	2寸	2寸5分 3寸 4寸 4寸5分 5寸 5寸5分 6寸 6寸5分 7寸 7寸以上2尺迄寸建	6尺 6尺5寸 7尺 9尺 10尺 12尺 13尺 13尺5寸 14尺 17尺 20尺 20尺以上3尺建
第 2 號	2寸5分		
第 3 號	3寸		
第 4 號	3寸5分		
第 5 號	3寸8分		
第 6 號	4寸		
第 7 號	4寸5分		
第 8 號	5寸		
第 9 號	5寸5分		
第 10 號	6寸		
第 11 號	6寸5分		
第 12 號	7寸		

第21條　品質ハ左ノ各號ニ掲グル缺點ニ依リ之ヲ區分ス

1　節

2　丸身

3　木口割又ハ目廻

4　抜節、腐節、抜ケ易キ節、腐、疵、穴、孔、蟲喰、材面ニ於ケル缺ケ、汚痕、入皮、脂壺

5　撓、捩レ、反リ、變色等ニシテ顯著ナルモノ

第22條　第10條第1項本文ノ規定ハ製材ノ節ニ付之ヲ準用ス但シ板類ノ節ニ付テハ其ノ程度小ナル1材面ノミニ付缺點ノ箇數ヲ計算ス

第23條　挽割類及挽角類ノ丸身ハ材ノ最小横斷面ニ於ケル邊ノ缺ヲ補ヒタル方形ノ4邊ノ和ニ對スル其ノ方形ノ邊ノ缺ノ和ノ 100分率ニ依リ之ヲ計算ス但シ挽角ノ丸身ニ付テハ其ノ各端ニ於テ材長ノ10分ノ1ノ部分ヲ除キ最小横斷面ヲ定ム

板類ノ丸身ハ材ノ最小横斷面ニ於ケル長方形ノ缺ヲ補ヒタル短邊ニ對スル其ノ邊ノ缺ノ 100分率ニ依リ之ヲ計算ス

第24條　第12條ノ規定ハ第1項但書及第3項ヲ除キ製材ノ木口割及目廻ニ付之ヲ準用ス

第25條　抜節、腐節、抜ケ易キ節、腐、疵、穴、孔、蟲喰又ハ材面ニ於ケル缺ケニシテ他面ニ貫通セザルモノハ其ノ長徑ノ1倍半ノ節、汚痕、入皮又ハ脂壺ニシテ他面ニ貫通セザルモノハ其ノ長徑ノ3分ノ1ノ節ト看做ス

第26條　品質ハ小幅板ニシテ第1號乃至第3號ノモノヲ除キ之ヲ3等級ニ分チ缺點ノ種類及程度ニ付左ノ缺點箇數表ニ依リ其ノ箇數ヲ計算シ節以外ノ缺點箇數ナキモノヲ1等、丸身ノ缺點2箇（但シ挽角類ニ在リテハ1箇）及木口割又ハ目廻ノ缺點2箇ニシテ其ノ他ノ缺點箇數ナキモノヲ2等、

丸身ノ缺點3箇（但シ挽角類ニ在リテハ2箇）木口割若ハ目廻ノ缺點3箇又ハ其ノ他ノ缺點1箇以上ナルモノヲ3等トシ1等及2等ニ付テハ節ノ缺點箇數ニ依リ更ニ之ヲ分チ其ノ缺點箇數ナキモノヲ無節、1箇ナルモノヲ上小節、2箇ナルモノヲ小節、3箇以上ナルモノヲ並トス但シ挽割類及挽角類ノ2等ニ在リテハ節ノ缺點箇數ナキモノ又ハ1箇ナルモノヲ無節、2箇ナルモノヲ小節、3箇以上ナルモノヲ並トス

種類	程度	箇數
節	板類 其ノ長徑ガ3分ヲ超エザルモノノ數5以下ナルモノ	1
	其ノ長徑ガ5分ヲ超エザルモノノ數7以下ナルモノ	2
	前2號ノ限度ヲ超エテ存スルモノ	3
	挽割類及挽角類 2材面ノミニ存スルモノ又ハ3材面ニ存シ其ノ長徑ガ3分ヲ超エザルモノ	1
	3材面ニ存スルモノ又ハ4材面ニ存シ其ノ長徑ガ5分ヲ超エザルモノ	2
	前2號ノ限度ヲ超エテ存スルモノ	3
丸身	板類 100分率10ヲ超エ30以下ナルモノ	1
	100分率30ヲ超エ50以下ナルモノ	2
	100分率50ヲ超ユルモノ	3
	挽割類 100分率5ヲ超エ10以下ナルモノ	1
	100分率10ヲ超エ20以下ナルモノ	2
	100分率20ヲ超ユルモノ	3
	挽角類 100分率10ヲ超エ30以下ナルモノ	1
	100分率30ヲ超ユルモノ	2
木口割又ハ目廻	板類、挽割類及挽角類 100分率5ヲ超エ10以下ナルモノ	1
	100分率20以下ナルモノ	2
	100分率20ヲ超ユルモノ	3
第21條第4號及第5號ノ缺點但シ第25條ニ規定スルモノヲ除ク	1種毎ニ	1

前項ノ缺點箇數ノ節ノ項、程度ノ欄ニ揭ゲル節ノ長徑ノ限度ハ板類ノ幅8寸以上ノモノニ在リテハ各2分ヲ加フ、板ニ在リテハ節ノ長徑ガ其ノ限度タル長ノ2分ノ1以下ナルトキハ2箇、4分ノ1以下ナルトキハ4箇ヲ以テ1箇ト看做ス

1等並ニ在リテハ第1項ノ規定ニ拘ラズ丸身ノ缺點又ハ木口割若ハ目廻ノ缺點各1箇、挽割類ノ2等並ニ在リテハ丸身ノ缺點1箇、第21條第4號及第5號（但シ第25條ニ規定スルモノヲ除ク）ノ缺點1箇以上ヲ許容ス

板ノ小節ニ相當スルモノニシテ節ノ數2箇以下ナルトキハ上小節ニ、並ニ相當スルモノニシテ1寸2分以下ノ節2箇以下ナルトキハ小節ニ上ス

第3章 補　　則

第27條　本規程ニ於テ材面ト稱スルハ丸太ニ在リテハ縱直線ヲ以テ4等分シタル材ノ面、板、小幅板及斜面板ニ在リテハ材ノ2平面、其ノ他ノモノニ在リテハ材ノ縱面ヲ謂フ

第28條　用材ニハ製材ニ在リテハ左ノ各號ノ事項ニ付、素材ニ在リテハ第3號及第4號ノ事項ニ付標示ヲ爲スコトヲ要ス

1　樹　種

2　材　種

3　形　量

4　品　等（但シ1等及2等ニ屬スル素材ニ在リテハ節及曲以外ノ缺點ノ箇數ヲ附ス）

5　板類、挽割類及1邊ノ長2寸ノ正角ニ在リテハ束ノ入數

6　製材者ノ氏名又ハ稱號

第29條　小及中ノ素材ノ品質ノ規格ニ付テハ地方長官別段ノ定ヲ爲シタルトキハ第9條乃至第16條ノ規定ニ拘ラズ其ノ定ムル所ニ依ルモノトス

第30條　用材生統制規則第3條第1項ノ規定ニ依リ農林大臣ノ指定シタルモノ以外ノ濶葉樹及長6尺未滿ノ針葉樹ノ製材ノ規格ニ付テハ地方長官別段ノ定ヲ爲シタルトキハ第2章ノ規定ニ拘ラズ其ノ定ムル所ニ依ル

大　阪　府　用　材　檢　查　規　則

第1章 檢　　查

第1條　用材生產統制規則第2條及第3條ノ檢查ハ本則ノ定ムル所ニ依リ之ヲ行フ

第2條　檢查ハ用材生產統制規則第4條ノ規定ニ依リ農林大臣ノ定メタル用材規格規程ノ規格ニ依リ用材檢查員（以下檢查員ト稱ス）之ヲ執行ス　但シ同規則第三條第1項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノニ在リテハ其ノ規格、同規則第3條第1項本文ノ規定ニ依リ農林大臣ノ指定シタル以外ノ濶葉樹及長6尺未滿ノ針葉樹ノ製材ニ在リテハ別ニ定メ告示シタルトキハ其ノ規格ニ依ル前項ノ用材規格規程第9條乃至第16條ノ規定ハ小及中ノ素材ノ檢查ニ之ヲ適用セズ
他道府縣ノ檢查ヲ經タル用材ハ本則ニ依ル檢查ヲ受クルコトヲ要セズ

第3條　檢查ヲ受クル者ハ樣式第1號ニ依ル申請書ヲ擔當檢查員駐在所ニ提出スベシ　檢查員駐在所ノ擔當區域ハ別ニ之ヲ定メ告示ス

第4條　檢查ハ用材生產地擔當檢查員駐在所ノ擔當區域內ニ於ケル土場、貯木場、製材所其ノ他之ニ準ズル場所ニ於テ執行ス
檢查員ハ必要アルトキハ檢查ノ期日又ハ場所ヲ指定スルコトヲ得

第5條　生產地擔當檢查員駐在所ノ擔當區域外ニ於テ檢查ヲ受ケントスルトキハ樣式第2號ニ依ル受檢地變更願書ヲ生產地擔當檢查員駐在所ニ提出シ承認證印ノ押捺ヲ受クベシ

前項ノ書類ハ受檢地擔當檢查員駐在所ニ提出スル申請書ニ之ヲ添付スベシ

第6條　檢查員ハ職務執行ノ際樣式第三號ニ依ル檢查員證ヲ携帶スベシ

第7條　檢查ヲ受クル者又ハ其ノ代理人ハ檢查ニ立會シ檢查員ノ指揮ニ從フベシ

第8條　檢查ヲ受クル者ハ樣式第四號ノ例ニ依リ豫メ用材規格規程第28條ノ標示ヲ爲スベシ

第9條　檢查員ハ檢查ニ合格シタル用材ニ樣式第5號ノ證印ヲ形量標示ノ上部ニ押捺スベシ

第10條　檢查ヲ受ケタル者檢查ノ決定ニ異議アルトキハ其ノ檢查ノ日ヨリ10日以內ニ更ニ檢查ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第11條　積替、運搬、解束其ノ他檢查執行ノ爲要スル費用ハ檢查ヲ受クル者ノ負擔トス

檢查執行ノ爲生ジタル損害ニ對シテハ賠償ノ責ニ任ゼズ

第12條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ檢查ヲ執行セサルコトヲ得

1　第7條ノ規定ニ依ル立會ヲ爲サズ又ハ指揮ニ從ハザルトキ

2　第8條ノ標示不當ナルトキ

3　製材ノ乾燥充分ナラザルトキ

第13條　左ノ各號ノ1ニ該當スルトキハ更ニ檢查ヲ受クベシ

1　1束ニ入レタルモノノ1部ヲ變更シタルトキ

2　第9條ノ證印明カナラザルトキ

3　形質ヲ損傷シタルトキ

第2章　取　締

第14條　檢查員取締上必要アリト認ムルトキハ製材所、居宅、倉庫其ノ他用材ノ所在スル場所ニ臨檢シ用材ノ積替、改束、保管若ハ運搬停止ヲ命ジ第9條ノ證印ノ押捺ヲ受ケタル用材ニ付キ更ニ檢查ヲ爲シ又ハ必要ナル書類其ノ他ノ物件ノ提示ヲ命ズルコトヲ得

第15條　運送業者又ハ運送取扱業者ハ左ノ各號ノ1ニ該當スル用材ノ運送又ハ運送取扱ヲナスコトヲ得ズ但シ第5條ノ承認ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

1　檢查未濟ノモノ

2　第九條ノ證印明カナラザルモノ

3　前條ノ規定ニ依リ保管又ハ運搬停止ヲ命ゼラレタルモノ

第16條　業務用ノ原料又ハ材料トシテ用材ヲ使用スル者ガ1ケ年間百石ヲ超エザル範圍ニ於テ自ラ生産シタル用材ヲ使用スル場合ニ於テハ樣式第6號ニ依リ擔當檢查員駐在所ニ之ヲ届出ズベシ

前項ノ用材ニ關シ檢查員取締上必要アリト認ムルトキハ樣式第7號ノ自家用證印ヲ押捺スルコトヲ得　但シ此ノ場合ニ於テハ手數料ヲ徵收セズ

第3章　檢查手數料

第17條　檢查ヲ受クル者ハ左ノ割合ニ依リ檢查手數料ヲ納付スベシ

但シ第14條ノ規定ニ依ル檢查ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ

素材　1石又ハ其ノ端數ニ付2錢

製材　1石又ハ其ノ端數ニ付4錢

梢端部ヲ附シタル丸太ニ在リテハ其ノ圍ノ自乘ノ10分ノ8ニ長ヲ乘ジ其ノ10分ノ4ヲ以テ其ノ石數ヲ計算ス

第18條　檢查手數料ハ府ニ於テ發行スル樣式第8號ノ用材檢查手數料收入證紙（以下證紙ト稱ス）ヲ以テ納付スベシ

前項ノ證紙ハ用材檢查ノ申請ニ之ヲ貼付スベシ

檢查員申請書ヲ受理シタル時ハ如何ナル理由アルモ檢查手數料ヲ還付セズ

第19條　證紙賣捌人ハ府ニ於テ指定シ之ヲ告示ス

第20條　賣捌人證紙ノ買受ヲ爲サントスルトキハ證紙額面金額ヨリ其ノ100分ノ5ヲ控除シタル金額ヲ府金庫ニ納付シ其ノ領收證ヲ樣式第9號ノ申請書ニ添付シ之ヲ府ニ提出スベシ

前項控除金額ノ錢未滿ハ之ヲ切捨ツルモノトス

第21條　賣捌人ハ證紙額面金額ヲ以テ證紙ノ賣捌ヲ爲スベシ

第22條　破損又ハ汚染シタル證紙ハ之ヲ賣捌又ハ使用スルコトヲ得ズ

第23條　證紙賣捌人ハ左ノ場合ニ於テハ證紙ヲ返還スルコトヲ得

1　賣捌ヲ廢止シタルトキ

2　賣捌不能ト爲リタルトキ

第4章　罰　則

第24條　左ノ各號ノ1ニ該當スルモノハ50圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

1　第5條ノ規定ニ依ル承認證印ノ押捺ヲ受ケズシテ生產地擔當檢查員駐在所ノ擔當區域外ニ搬出シタル者

2　第9條ノ規定ニ依ル證印ヲ僞造シ又ハ僞造シタルモノヲ使用シタル者

3　第14條ノ臨檢若ハ檢查ヲ拒ミ妨ゲ又ハ命令ニ從ハザル者

4　第15條ノ規定ニ違反シタル者

5　第16條第1項ノ届出ヲ爲サズシテ用材ヲ使用シタル者

6　第16條第2項ノ證印ノ押捺ヲ拒ミ又ハ妨ゲタル者

7　第18條ノ用材檢查手數料收入證紙ヲ僞造シ又ハ僞造シタルモノヲ使用シタル者

8　檢查ヲ受ケタル用材ニ不正ノ手段ヲ施用シタル者

第25條　法人ノ代表者又ハ法人若ハ其ノ代理人使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ其ノ業務ニ關シ前條ノ各號ニ揭ゲル違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ヲ第24條ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第26條　未成年者又ハ禁治產者第24條各號ニ揭ゲル違反行爲ヲ爲シタルトキハ第24條ノ罰則ハ其ノ法定代理人ニ適用ス但シ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

本令ハ昭和14年11月1日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ生產シタル用材ハ昭和14年11月10日迄ニ樣式第10號（本令施行前生產シタル用材ノ所有者ガ本令施行後3月以內ニ於テ自ラ其ノ用材ヲ原料又ハ材料トシテ使用スル場合ニ於ケル届出ハ（樣式第12號）ニ依リ現品所在地ノ擔當檢查員駐在所ニ届出テ樣式第11號ノ記號印ノ押捺ヲ受クベシ

前項本文ノ記號印ノ押捺ヲ受ケザル用材ニシテ3月以內ニ使用セザルモノハ本令施行後生產シタルモノト看做ス

昭和8年3月大阪府令第23號木材正量檢查規則ハ昭和14年11月1日ヨリ之ヲ廢止ス

樣式第1號

證紙貼付

用材檢查申請書

樹種	材種	形 厚 寸	形 巾（徑） 寸	形 長 尺	品等	數量 束（本）	數量 石（石）	用途	檢查手數料 單價 圓	檢查手數料 金額 圓	濟受所檢	摘要
												特殊證紙トニテ許可ヲ受ケタルモノニハ其ノ旨記載スベシ
計												

右　月　日檢查相受度及申請候也

昭和　年　月　日

住所

氏名㊞

大阪府農林産物檢査所長宛

注意1　材種別石數ハ石以下二位ニ止メ三位ハ四捨五入スルコト

様式第2號

受檢地變更願

樹種	材種	數量 束(本)	數量 石	生産地	運搬先	發 日時	着 日時	事由	摘要
計									

右ニ依リ用材運搬致度此段及御願候也

昭和　年　月　日

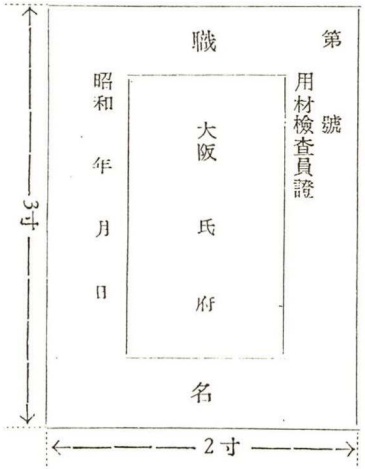
住所

氏名㊞

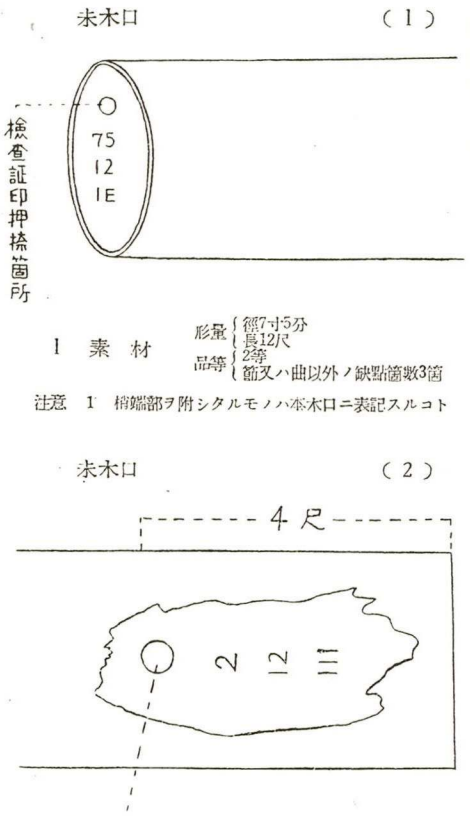
檢査員宛

注意　様式第1號注意1ニ同ジ

様式第3號　表



様式第4號



（1）ニ依リ表記スル能ハザルモノ

形量 徑2寸 長12尺・品等　3等

(1) 1 製材

檜板一等
○
厚二・三分 巾一尺
長六尺一五枚入
□□製材所

検査證印押捺箇所

(2)

杉中割三等
○
厚一七分幅
六分長 一二尺 四本入
□□商店

検査證印押捺箇所

(3)

檜正角二等
○
四寸長一五尺
□□製材所

検査證印押捺箇所

(3) 柚角

検査証印押捺箇所

35 × 5
12 III

形量 厚 3寸5分
巾 5 寸
長 1 2 尺

品等 3 等

様式第5號

(1) 證印

大阪
檢
15

數字ハ検査員番號

素材用	製材料
鋼鐵製刻印 直徑1寸	ゴム製印 直徑1寸8分
縁肉幅0.8分	縁肉幅1.5分
中線及文字巾 0.7分	中線及文巾字 1.2分

(2) 束物繼印



ゴム製印
縦 5 寸
横 2 寸
肉幅 3 分
肉色 黑

様式第6號

用材自家使用届

樹種	材種	形量 厚(寸)	巾(徑)(寸)	長(尺)	品等	數量 束(本)	石(石)	用途	事由
計									

右ニ依リ自家使用致度此段及御届候也

昭和　年　月　日

住所

氏名　㊞

大阪府農林産物檢査所長宛

注意　樣式第1號注意ニ同ジ

樣式第7號

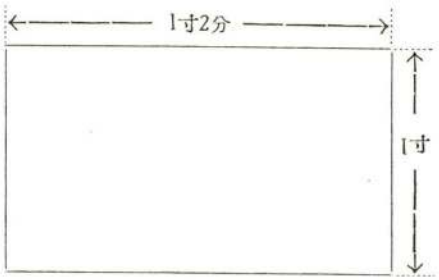
自家用證印



素材用	製材用
鋼鐵製刻印	ゴム製品
直徑　1寸	1寸8分
緣肉巾0.8分	1.5分
文字巾0.7分	1.2分
肉色　黑	黑

樣式第8號

1形式



一定ノ箇所ニ金額ヲ表示ス

2刷色

1	錢	淺黃色
5	錢	青　色
10	錢	淡紅色
50	錢	茶　色
1	圓	紫　色
5	圓	綠　色

樣式第9號

申請書

種類	枚數	金額	摘要
一錢證紙		圓	
五錢證紙			
計			

資捌料金　圓

差引金　圓也

昭和　年　月　日府金庫ヘ納付濟

右收入證紙買受度申請候也

資捌人住所

氏名　㊞

知事宛

樣式第10號

檢査施行前生產用材屆

樹種	材種	数量 東（本）	数量 石	現品所在箇所	摘要

右證明相成度及御届候也

昭和　年　月　日

住所

氏名　㊞

大阪府農林産物檢査所長宛

様式第11號

施行前生産品記號印



素材用

鋼鐵製刻印

直徑　1寸

縁肉幅0.8分

中線及文字巾0.7分

肉色　黒

製材用

ゴム製品

1寸5分

1.5分

1.2黒

様式第12號

（イ）檢査施行前生産用材届（様式第10號ニ依ル）

（ロ）證明記號押捺免除願

別紙檢査施行前生産用材届書記載ノ用材ハ昭和15年1月限リ　府　郡　町（村）　番地所在　工場（貯木場、製材所）ニ於テ　原料（又ハ材料）トシテ使用スルモノニ有之候條用材檢査規則附則第2項但書ニ依リ證明記號ノ押捺ヲ免除相成度此段及願出候也

昭和　年　月　日

住所

氏名　㊞

大阪府農林産物檢査所長宛

大阪府告示第千三百二拾八號

用材生産統制規則第三條第一項ノ許可並ニ用材規格規程第三十條ノ農林大臣ノ指定シタルモノ以外ノ濶葉樹及長六尺未滿ノ針葉樹ノ製材ノ規格ニ付許可ヲ受ケントスル者及ビ板類挽割類ニシテ一束ニ滿タザルモノハ左記様式ノ許可申請書ニ必要書類ヲ添附シ農林産物檢査所長ヲ經テ知事ニ提出スヘシ

昭和十四年十一月四日　　大阪府知事　半井　清

様式

特殊用材又ハ入數許可申請書

樹種	材種	形量 厚 寸	形量 巾（徑） 寸	形量 長 尺	品等	数量 束（本）	数量 石	用途	事由

右ノ規格ニ依リ製材又ハ結束致シ度候條御許可相成度此段及申請候也

年　月　日

住所

氏名　㊞

大阪府知事宛

大阪府告示第千三百五拾壹號

昭和十四年十月大阪府令第五拾五號用材檢查規則第三條第二項用材檢查員ノ駐在所ノ名稱位置及擔當區域左ノ通リ定メ昭和十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十四年十一月六日　　大阪府知事　牛　井　　清

名稱	位置	擔當區域
大阪府農林産物檢查所用材檢查員大手前駐在所	大阪市東區大手前之町	大阪市北區、東區
同　長柄橋駐在所	同市東淀川區濱町	大阪市東淀川區
同　龜甲駐在所	同市此花區龜甲町	大阪市此花區
同　野里駐在所	同市西淀川區野里町	大阪市西淀川區
同　今福駐在所	同市旭區鶴見町	大阪市旭區
同　勝山駐在所	同市東成區猪飼野町	大阪市東成區
同　住吉駐在所	同市住吉區濱口中１丁目	大阪市住吉區、西成區
同　西長堀駐在所	同市西區長堀南通	大阪市西區
同　高津駐在所	同市南區高津町	大阪市南區
同　日東駐在所	同市天王寺區南日東町	大阪市天王寺區
同　新川駐在所	同市浪速區新川３丁目	大阪市浪速區
同　境川駐在所	同市港區北境川町	大阪市電境川築港線以北
同　朝潮駐在所	同市港區入舟町	大阪市電境川築港線以南
同　泉尾駐在所	同市大正區大正通６丁目	大阪市大正區泉尾上通、泉尾中通、泉尾松之町、泉尾北村町、大正通、三軒家市場通、三軒家西ノ町、南泉尾町、小林南通小林中通、小林北通
同　梅之町駐在所	同市同區泉尾梅之町	大阪市大正區泉尾竹之町、泉尾梅之町、北泉尾町、泉尾濱通
同　萬歲駐在所	同市同區北恩加島萬歲通	大阪市大正區北恩加島大通、恩加島元町、北恩加島萬歲通、川南町、大正運河北通大正運河南通、北恩加島濱通、千歲濱通小林北通、小林中通、小林南通
同　福町駐在所	同市同區福町	大阪市大正區鶴濱通、鶴町、福町、新千歲大通、千歲中通、千歲沖通、西見町、東蓬萊町、西蓬萊町、大正通、木津川運河線以南
同　南恩加島駐在所	同市同區大正通２丁目	大阪市大正區南恩加島町、平尾町、東玉入町、西玉入町、平尾西之町、平尾濱通、大正通、芳島町、東蓬萊町、西蓬萊町
同　小林駐在所	同市同區千島町	大阪市大正區今木町、千島町、千泉橋、難波島町、三軒家濱通、三軒家町、三軒家東町、新炭屋町、中口町
同　芳島駐在所	同市同區芳島町	大阪市大正區小林大通、大正橋、千歲大通千歲上通、東蓬萊町、西蓬萊町、芳島町永西町、千島大木場町、千島中橋、千島濱通、千島大橋
同　山崎駐在所	三島郡島本村	三島郡島本村
同　高槻驛駐在所	同郡高槻町	同郡高槻町、五領村
同　富田驛駐在所	同郡富田町	同郡富田町、阿武野村、安威村、三島村、三箇牧村、鳥飼村
同　見山駐在所	同郡見山村	同郡見山村、石河村
同　福井駐在所	同郡福井村	同郡福井村、春日村

同	茨木駐在所	同郡茨木町	同郡茨木町、玉島村、玉櫛村
同	山田駐在所	同郡山田村	同郡山田村、新田村、三宅村、味舌村、味生村
同	清溪駐在所	同郡清溪村	同郡清溪村、豐川村
同	吹田駐在所	同郡吹田町	同郡吹田町、千里村、岸部村
同	豐中駐在所	豐中市	豐中市及豐能郡中豐島村、南豐島村、庄內町、小曾根村、豐津村
同	池田駐在所	池田市	池田市豐能郡萱野村、箕面村
同	東能勢駐在所	豐能郡東能勢村	豐能郡東能勢村、止々呂美村
同	東鄉駐在所	同郡東鄉村	同郡東鄉村、吉川村
同	歌垣駐在所	同郡歌垣村	同郡歌垣村、田尻村
同	西能勢駐在所	同郡西能勢村	同郡西能勢村
同	堺駐在所	堺市	堺市
同	鳳駐在所	泉北郡鳳町	泉北郡鳳町、濱寺町、踞尾村、東百舌鳥村深井村、八田莊村、福泉町、久世村、取石村、高石町
同	美木多駐在所	同郡美木多村	同郡美木多村、上神谷村、西陶器村、東陶器村
同	和泉駐在所	同郡和泉町	同郡和泉町、信太村、南王子村、大津町、忠岡町
同	南松尾駐在所	同郡南松尾村	同郡南松尾村、北松尾村、北池田村
同	横山駐在所	同郡横山村	同郡横山村、南池田村
同	山瀧駐在所	同郡山瀧村	同郡山瀧村
同	南横山駐在所	同郡南横山村	同郡南横山村
同	岸和田駐在所	岸和田市	岸和田市、泉南郡春木町、山直町、南掃守村
同	貝塚駐在所	泉南郡貝塚町	泉南郡貝塚町
同	熊取駐在所	同郡熊取村	同郡熊取村、佐野町
同	日根野駐在所	同郡日根野村	同郡日根野村、大土村
同	上之鄉駐在所	同郡上之鄉村	同郡上之鄉村、新家村、長瀧村、南中通村田尻村
同	信達駐在所	同郡信達村	同郡信達村、東信達村、鳴瀧村、西信達村樽井村、雄信達村
同	東鳥取駐在所	同郡東鳥取村	同郡東鳥取村、西鳥取村、尾崎町
同	深日駐在所	同郡深日村	同郡深日村、多奈川村、孝子村
同	淡輪駐在所	同郡淡輪村	同郡淡輪村、下莊村
同	東葛城駐在所	同郡東葛城村	同郡東葛城村、有眞香村
同	天見駐在所	南河內郡天見村	南河內郡天見村
同	三日市駐在所	同郡三日市村	同郡三日市村、加賀田村
同	高向駐在所	同郡高向村	同郡高向村
同	長野駐在所	同郡長野町	同郡長野町、天野村、千代田村
同	川上駐在所	同郡川上村	同郡川上村
同	千早駐在所	同郡千早村	同郡千早村
同	赤阪駐在所	同郡赤阪村	同郡赤阪村
同	白木駐在所	同郡白木村	同郡白木村、河內村
同	磯長駐在所	同郡磯長村	同郡磯長村、山田村、石川村

同　富田林駐在所	同郡富田林町	同郡富田林町、新堂村、彼方村、川西村、西浦村、喜志村、錦郡村
同　古市駐在所	同郡古市町	同郡古市町、道明寺村、藤井寺村、國分村高鷲村、駒ヶ谷村、赤紀村、埴生村
同　狹山駐在所	同郡狹山村	同郡黒山村、狹山村、大草村、平尾村、野田村、丹比村、丹南村、南八下村、北八下村、日置莊村
同　中　駐在所	同郡中村	同郡中村、大伴村、東條村
同　布施駐在所	布施市	布施市
同　柏原駐在所	中河内郡柏原町	中河内郡柏原町、長吉村、大正村、瓜破村矢田村、憲我村、三宅村、天美村、松原村、布忍村
同　八尾駐在所	同郡八尾町	同郡八尾町、南高安村、高安村、曙川村、龍華町、久寶寺村、加美村、巽村
同　枚岡駐在所	同郡枚岡町	同郡縄手村、三野郷村、西郡村、若江村、枚岡町、孔舍衞村、大戸村、英田村、盾津村、玉川村
同　枚方駐在所	北河内郡枚方町	北河内郡枚方町
同　星田駐在所	同郡星田村	同郡星田村、水本村、友呂岐村、豐野村、寢屋川村、九箇莊村
同　四條駐在所	同郡四條村	同郡四條畷村、四條村、住道町、南郷村、茨田町、三郷町、二島村、大和田村、四宮村、門眞町、庭窪村、守口町
同　田原駐在所	同郡田原村	同郡田原村
同　津田駐在所	同郡津田村	同郡氷室村、津田村、交野町、菅原村

大阪府農林產物檢查所及支所ノ名稱、位置及管轄區域

本所及支所名	所在地	電話	管轄區域
大阪府農林產物檢查所	大阪市東區大手前之町大阪府廳分館	東　7880	大阪府一圓
同　東淀川區支所	同	東　7880	大阪市東區、北區、此花區、東淀川區、西淀川區一圓
同　東成區支所	同市東成區勝山通8丁目	天王寺2330	大阪市旭區、東成區、住吉區、西成區一圓
同　大正區支所	同市大正區小林町	櫻川　1055	大阪市西區、南區、天王寺區、浪速區、大正區、港區一圓
同　三島郡支所	三島郡茨木町	茨木　505	三島郡一圓
同　豐能郡支所	池田市建石町	池田　2692	池田市一圓、豐中市一圓、豐能郡一圓
同　泉北郡支所	泉北郡鳳町	鳳　266	堺市一圓、泉北郡一圓
同　泉南郡支所	岸和田市岸城町	岸和田3037	岸和田市一圓、泉南郡一圓
同　南河內郡支所	南河內郡富田林町	富田林 308	南河內郡一圓
同　中河內郡支所	中河內郡八尾町	八尾　26	布施市一圓、中河內郡一圓
同　北河內郡支所	北河內郡枚方町	枚方　79	北河內郡一圓

木造建物建築統制規則大阪府施行細則

大阪府令第六十四號

木造建物建築統制規則施行細則左ノ通定ム

昭和十四年十一月二十四日　　大阪府知事　半　井　　清

木造建物建築統制規則施行細則

第1條　木造建物建築統制規則（以下單ニ規則ト稱ス）ニ依ル許可申請書又ハ届書ハ木造建物（以下單ニ建物ト稱ス）建築地所轄警察署ヲ經由シ當廳ニ提出スベシ

第2條　本令ニ依リ許可申請又ハ届出ヲ爲ス者未成年者若ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人、準禁治產者ナルトキハ其ノ保佐人、妻ナルトキハ其ノ夫ノ連署ヲ要ス

本令ニ依リ許可申請又ハ届出ヲ爲ス者法人ナルトキハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ氏名ヲ記載スベシ

第3條　規則第3條乃至第6條又ハ第10條ノ規定ニ依ル許可申請書ハ別記第1號樣式ニ依リ正副二通ヲ提出スベシ

建築ニ付米松、耐火木材、釘、棒鋼、補强用鐵物、薄鋼板、メタルラス、ワイヤーラス、鋼製戸、石綿スレート又ハセメントヲ使用シ又ハ電氣、瓦斯若ハ水ノ供給ヲ受クル設備ヲ爲サントスルトキハ別記第2號樣式ニ依ル書面ヲ前項ノ許可申請書ニ添附スベシ

第4條　規則第1條第1項、第2條第1項、第5條、第6條又ハ第10條ノ規定ニ依ル許可申請ニシテ支障ナシト認ムルトキハ建築許可證トシテ申請書ノ副本ニ別記第3號樣式ニ依ル建築許可證印ヲ押捺シ建築主ニ交付ス

前項ノ場合ニ於テ第3條第2項ニ揭ゲル物資中使用シ得ル物資ノ種類、寸法、數量竝ニ使途ハ許可申請書ノ副本ニ記載シ之ヲ指定ス

第5條　規則第1條第2項、第2條第2項又ハ第7條ノ規定ニ依ル届書ハ別記第1樣式ニ依リ正副2通ヲ提出スベシ

前項ノ届出ハ起工10日前ニ之ヲ爲スベシ但シ特ニ必要アリト認ムルトキハ起工期日ノ延期ヲ命ズルトアルベシ

第6條　規則第1條第2項、第2條第2項又ハ第7條ノ規定ニ依ル届出ニシテ支障ナシト認ムルトキハ建築届濟證トシテ届書ノ副本ニ別記第4號樣式ニ依ル建築届濟證印ヲ押捺シテ建築主ニ交付ス

第7條　規則ニ依ル許可申請又ハ届出ニシテ其ノ建築ニ關シ臨時資金調整法其ノ他ノ法令ニ依リ主務大臣ノ許可又ハ認可ヲ受ケタル者ハ之ヲ證ルニ足ル書類ヲ添附スベシ

第8條　建築工事中ハ工事場ニ建築ノ許可又ハ届濟ノ證印アル副本ヲ備ヘ置キ當該官吏又ハ吏員ノ要求アリタルトキハ之ヲ提示スベシ

第9條　必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ建物又ハ建築工事ニ付臨檢セシムルコトアルベシ

前項ノ場合ニ於テ建築主、建築工事請負人、建築工事管理者又ハ建物ノ所有者若ハ占有者檢査ニ必要ナル準備ヲ命ゼラレタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第10條　市街地建築物法令又ハ府令建築取締規則ニ依リ知事ノ認可ヲ受クベキ建物ニシテ規則ニ依リ建築ノ許可ヲ受クルヲ要スルモノナルトキハ其ノ法令ニ依ル認可申請書ニ規則所定ノ事項ヲ具シ併セ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ハ市街地建築物法令又ハ府令建築取締規則ニ依リ知事ニ認可申請又ハ届出ヲ要スル建物ニシテ規則ニ依リ建築ノ届出ヲ要スルモノニ之ヲ準用ス

第11條　規則ニ依リ許可ヲ受ケ又ハ届出タル建物ノ建築ニ付市街地建築物法令又ハ府令建築取締規則ニ依リ其ノ工事ノ竣工又ハ廃罷ノ届出ヲ為スベキ場合ニ於テハ同一届書ヲ以テ規則ニ依ル工事竣工又ハ廃罷ノ届出ヲ為シタルモノト看做ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式（新築ノ分）　　第一號用紙美濃判

大阪府知事　殿

建築（許可又ハ申）届書

年　月　日

建築主　住所　電話　番　㊞

| 許可又ハ届出ノ事項 | 木造建物建築統制規則（第二（又ハ第一）條第一項ニ依リ新築又ハ第二項ニ依リ変更（又ハ第二項ニ依リ新築ノ許可又ハ届出ノ変更）ニ用ヒル） | | |

他ノ法令ノ適用ノ有無	臨時資金調整法（又ハ鐵鋼工作物築造許可規則、鋼製品製造制限ニ關スル件、米松販賣取締規則）
備考	

記載心得

1 建物ノ用途ハ成ル可ク詳細ニ記入スルコト鑛工農林水産業用建物ノ竝合成ル可ク臨時資金調整法ニ基ク事業資金調整標準ノ部門別、業別、細目別ニ依ルコト

2 鑛業用建物ニ在リテハ鑛業法又ハ砂鑛法ノ適用ヲ受クル事業ノ用ニ供スル建物又ハ生産擴充工場トシテ指定ヲ受ケタルモノ住宅ニ在リテハ厚生省斡旋ニ係ル勞務者住宅ナリヤ否ヤヲ備考欄ニ附記スルコト

3 所定欄内ニ所定事項ノ全部ヲ記入シ難キトキハ適宜別紙ヲ用ヒ當該記入欄ニ其ノ旨附記スルコト

第二號樣式（增築又ハ改築用）　（第二號用紙美濃判）

年　月　日

住所
建築主　㊞
電話　番

大阪府知事　殿

建築（又ハ）許可申請書

許可申請（又ハ届出）事項	第二條第一項ニ依リ增築（又改築）又ハ第六條ニ依リ變更ノ許可申請 木造建物建築統制規則又ハ第二條第二項ニ依リ增築（又ハ改築）（又ハ第七條ニ依リ變更（又ハ附則第二項ニ依リ增築）又改築）工事中ノ届出
建物ノ位置	番地
在來ノ用途	（增築（又ハ改築）後ノ用途） 住宅兼用建物（又ハ長屋）
增築（又ハ改築）セントスル事由	
現存建物	增築（又ハ改築）部分 增築（又ハ改築）後ノ建物
棟數	棟
總床面積	總棟數
各棟	用途 階數 總床面積 平方米（坪） 用途 階數 床面積 一階 平方米（坪） 二階 平方米（坪） 三階 平方米（坪） 計 平方米（坪） 總床面積 平方米（坪）

| 別 | | |

電氣ヲ供給スル者ノ氏名、名稱及住所	工事費
瓦斯ヲ供給スル者ノ氏名、名稱及住所	
水ヲ供給スル者ノ氏名、名稱及住所	
工事着手及竣工ノ豫定時期	
請負人アルトキハ其ノ氏名名稱及住所	番地　電話　番
其ノ他必要ナル事項	

記載心得

1 本表ハ一棟毎ニ作製スルコト

2 所定欄内ニ所定事項ヲ記入シ難キトキハ適宜別紙ヲ用ヒ當該記入欄ニ其ノ旨附記スルコト

第三號様式

竪五・五糎



第四號様式

竪五・五糎

